G-Class

取扱説明書

マーク

この説明書には以下のマークがあります。

⚠ **警告**

警告項目は、お客様ご自身やお車に同乗の方々の健康や生命をおびやかすような危険への注意を喚起するものです。

環境に関する注意

環境に関する注意は、環境を意識した行動や廃棄についての情報を提供しています。

! 車両の損傷につながる危険を喚起する、機材の損傷に関する注意です。

ℹ これらのマークは、お客様の助けになるような、便利な操作方法や詳細情報を示しています。

▶	このマークは、お客様に従っていただきたい操作を示しています。
▶	連続しているマークは、いくつかの手順がある操作を示しています。
(▷ページ)	このマークは、項目についての詳細情報がある場所を示しています。
▷▷	このマークは次のページに続く警告または操作を示しています。
画面設定	この表記は、マルチファンクションディスプレイ/COMAND ディスプレイのメッセージを示しています。
	このマークは、デジタル版取扱説明書に情報があることを示しています。

メルセデス・ベンツ車をお買い上げいただきありがとうございます。

運転される前に、この取扱説明書をお読みいただき、特に安全面と警告事項についてのご理解を深めてください。お客様自身と周りの人々を危険から守り、お車を最大限に楽しんでいただくことができます。

便利な機能の追加情報は、COMAND システムの中の車両のデジタル版取扱説明書に記載されています。

お客様の車両の装備や名称はオプションや仕様により異なる場合があります。

この取扱説明書のイラストは主に左ハンドル車両のものを使用しています。右ハンドル車両では、車両の部品の配置や位置、そして操作方法が異なる場合がありますので、ご注意ください。

取扱説明書には 100 km/h を上回る車両速度での性能データおよび車両状況も記載されています。ただし、公道を走行するときは常に、その場所で適用される法定速度または制限速度に従ってください。

メルセデス・ベンツは常に車両を最高水準にするための改良を行なっています。

メルセデス・ベンツでは、デザインや装備の分野の変更を行なう権利を有しています。そのため、本取扱説明書の記述やイラストが異なることがあります。

以下のものは、車両の一部です。常に車両に搭載してください。

- デジタル版取扱説明書
- 取扱説明書
- 整備手帳
- 各装備の補足版

また次のオーナーに車両をお譲りになる場合は、必ずすべての書類をお渡しください。

Daimler AG の技術文献チームはお客様が安全で快適な運転をされることを望んでいます。

メルセデス・ベンツ

4635848200

え

お

か

き

く

け

こ

さ

し

す

せ

そ

た

ち

て

と

な

に

ね

は

へ

ほ

ま

み

め

よ

ら

り

る

れ

ろ

わ

英字

はじめに

印刷版取扱説明書の他に、ブックケースには以下の取扱説明書が含まれています：

- デジタル版取扱説明書の CD
- 整備手帳
- 装備に応じた補足版

印刷版取扱説明書は、選択された車両の機能に関する情報を提供しています。

また、COMAND システムを使用してデジタル版取扱説明書にアクセスしてもご利用になれます。印刷版取扱説明書に記載されていないご質問がある場合は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。車両の機能および COMAND システムの機能については、デジタル版取扱説明書に記載されています。

デジタル版取扱説明書と同じ内容の印刷版取扱説明書をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で購入することができます。

ℹ デジタル版取扱説明書のご利用にあたり、お客様には一切費用はかかりません。インターネットに接続することなく作動します。

この後の項目には、以下についてのさらなる情報が記載されています：

- COMAND システムへのデジタル版取扱説明書のインストール方法 (▷ 21 ページ)
- デジタル版取扱説明書のアクセスおよび操作方法
- デジタル版取扱説明書のそれぞれの項目にアクセスするための様々なオプション

基本メニューからデジタル版取扱説明書にアクセスするためには、以下の 3 つの方法があります：

- イメージ検索
- キーワード検索
- 目次

基本メニューの "設定" で、デジタル版取扱説明書の設定言語を変更することができます。

インストール

デジタル版取扱説明書がすでにインストールされているかどうかを確認してください。そのためには、以下のようにして COMAND システム経由でデジタル版取扱説明書を呼び出します：

▶ COMAND コントローラーを使用して、COMAND ディスプレイのメニューバーからアイコン 🌐 を選択し、押して ◎ 確定します。

▶ "取扱説明書" の選択カードを選択し、押して ◎ 確定します。
2 つの可能性があります：
1. デジタル版取扱説明書がインストールされています。デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。
2. デジタル版取扱説明書がインストールされていません。以下のメッセージが表示されます：取扱説明書はインストールされていません。対応するディスクを入れてください。

デジタル版取扱説明書がまだインストールされていない場合は、ご自身でインストールするオプションがあります。必要なインストール用 CD はブックケースに入っています。

インストール処理の時間は異なることがあります。

インストール処理には約 5 分かかります。この時間は、車両が停止していて、

そのときにCOMANDシステムの他の機能が使用されていない間にデジタル版取扱説明書をインストールする場合にのみ当てはまります。インストール処理の時間は、そのときにナビや電話機能のようなCOMANDシステムの他の機能を使用していると増加することがあります。

インストール中に何か問題が生じた場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

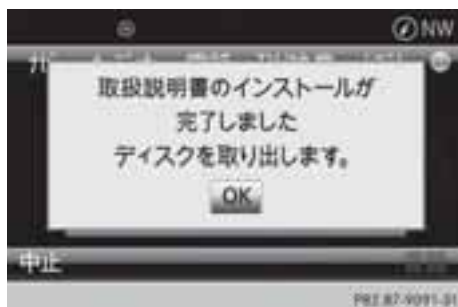
▶ **デジタル版取扱説明書をインストールする：** 車両を安全に停止し、道路と交通状況に注意してください。

▶ エンジンスイッチのキーを**2**の位置にまわします。

▶ COMANDシステムをオンにします。

▶ インストール用CDをCD / DVDドライブに挿入します。

▶ COMANDディスプレイのインストール手順に従います。

ℹ チェックに失敗すると、例えば この取扱説明書ディスクは本システムには対応していません。ディスクを取り出します。 というメッセージが表示されます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

▶ **インストールが完了した場合：** COMANDコントローラーを使用して、インストール用CDの取り出しを確定します。

ℹ **インストールのキャンセル：** インストール処理中にデジタル版取扱説明書のインストールをキャンセルできます。後でインストールを続行することができます。続行するには、インストール用CDをCD / DVDドライブに再び挿入し、上記のインストール指示にしたがって実行するだけです。

作動

デジタル版取扱説明書の呼び出し

▶ COMANDシステムのコントロールノブ ON を押します。
COMANDシステムが作動します。警告メッセージの後に、以前選択したメニューが表示されます。

▶ COMANDコントローラーを使用して、メニューバーの 🌐 マークを選択し、確定します ◉ 。

▶ "取扱説明書" を選択し、確定します ◉ 。
デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。

イメージ検索

イメージ検索により、車両を "システム上" で調べることができます。車外イメージあるいは車内イメージのいずれかから開始し、取扱説明書に記載されているさまざまな項目にアクセスすることができます。インテリア項目にアクセスするためには、項目見出しページの "インテリア" を選択してください。

① トピックバー
② 選択した項目の見出し
③ 作動している車両構成部品

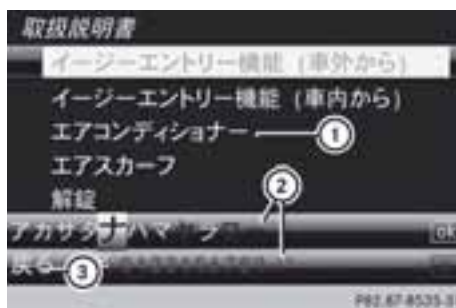
▶ COMAND コントローラーをまわして ⟲◎⟳ 、個別の車両構成部品を選択します。
個別の車両構成部品が赤色のライトで強調されます。1 つの画像につき、1 個の車両構成部品のみが強調されます。

▶ そのときに選択されている項目を確定するためには、COMAND コントローラーを押します ⊙ 。

項目を選択した後に、以下のいずれかが行なわれます：

• デジタル版取扱説明書の該当する項目に直接進みます。
• COMAND コントローラーを使用して選択することができる、さらに詳細なさくいんがあるリストが開きます。
• イメージ検索の階層に下がります。ここで、COMAND コントローラーをまわし、赤色で強調された個別の車両構成部品 ③ を選択することにより、より特定して検索を行なうことができます。

キーワード検索

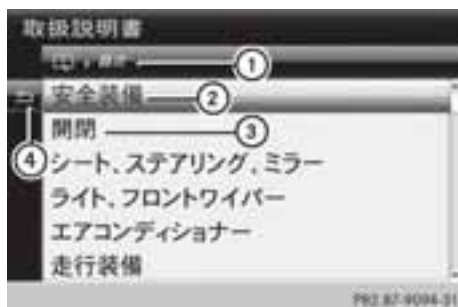
キーワード検索では、文字入力を使用してキーワード検索を行なうことができます。文字入力の詳しい記載は、"COMAND システム" の項目のキーワード "ナビゲーション – 文字入力（文字バー）" にあります。

① 使用できるキーワードの選択リスト
② 文字バー
③ ⮌ リターンスイッチ

▶ **キーワードを入力する：** COMAND コントローラーをまわすか ⟲◎⟳、またはスライドして ↑◎↓←◎→ 、文字を選択します。

▶ 文字を確定するためには、COMAND コントローラーを押します ⊙ 。
選択リスト ① がフィルターにかけられます。

▶ COMAND システムが自動的に選択リスト ① にジャンプするまで、同様に文字を選択します。
代わりに OK を押すことにより、選択リスト ① を呼び出すことができます。

目次

目次には、印刷版取扱説明書と同じ順序でトピックが記載されています。項目、さらに小項目を選択することができます。

① トピックバー
② 目次の中で現在選択されている項目
③ 目次の中で現在選択されていない項目
④ リターンマーク [↩]

▶ COMAND コントローラーをまわすか 〔◎〕、またはスライドして ↑◎↓←◎→、希望する項目を選択します。
▶ 項目を確定するためには、COMAND コントローラーを押します ◎ 。
該当する小項目を含む、さらなる選択リストが開きます。
▶ 同様に、該当する小項目を選択します。

作動

例：ページの表示
① リターンマーク [↩]
② 非表示の警告
③ トピックバー
④ 続きの章へのリンク

▶ **目次ページ内を閲覧する：** COMAND コントローラーをまわして 〔◎〕、テキストを上下にスクロールします。
▶ **目次ページから移動する：** COMAND コントローラを左にスライドして ←◎、リターンスイッチ ① を選択します。
前のページが開きます。

または

▶ COMAND コントローラーを上方へスライドして ↑◎、トピックバー ② を選択します。
▶ COMAND コントローラーをまわすか 〔◎〕、またはスライドして ↑◎↓ ←◎→、希望の項目または小項目を選択します。
すべての小項目を含んだ、選択されているトピックバーが開きます。
▶ **リンク ④ を選択する：**テキストをスクロールしたときは、カーソルが自動的にリンクにジャンプします。リンクを選択しているときに、COMAND コントローラーを押します ◎ 。
希望する目次のページが開きます。
▶ **警告の注意事項、環境関連の注意事項および故障情報を開く：** テキストをスクロールしたときに、カーソルが自動的に警告、環境情報および故障情報のドロップダウン表示にジャンプします。注意事項を選択しているときに、COMAND コントローラーを押します ◎ 。
警告の注意事項、環境に関する注意点および故障情報は、同じページで開きます。
▶ **デジタル版取扱説明書を終了する：** [↩] スイッチを押します。
デジタル版取扱説明書の基本メニューが開きます。

▶ [↩] スイッチを再度押します。

または

▶ COMAND コントローラーを下にスライドして ↓ ◎、中止 の欄を選択し、押して ◉ 確定します。
COMAND システムの機能の概要が開きます。

▶ **機能スイッチを使用して、デジタル版取扱説明書から COMAND システムに機能を切り替える：** COMAND システムの [RADIO]、[TEL]、[DISC] または [NAVI] スイッチを押します。
希望するメニューが開きます。

▶ **デジタル版取扱説明書に戻る：** COMAND コントローラーを使用して、メニューバーの 🌐 マークを選択し、押して ◉ 確定します。
前回呼び出されていたデジタル版取扱説明書のページが開きます。

ℹ 安全上の理由から、走行中に"デジタル版取扱説明書" 機能は使用できません。

環境保護

全体的な注意事項

環境に関する注意

Daimler は、包括的な環境保護の一つとして対策を明確にしています。

それは、地球上で少しずつ使われ、自然と人間双方の要求に注意を促す、我々の存在の源となる自然資源のためです。

環境的に配慮のある方法で車両を操作することも、環境を保護する一助になります。

燃費やエンジン回転、トランスミッション、ブレーキ、タイヤの摩耗具合は、以下の要因に左右されます。

- お客様の車両の使用状況
- お客様の個人的な運転スタイル

お客様は、いずれの要因にも影響を及ぼしています。以下のことにご留意ください。

使用状況

- 短距離の走行は燃料消費を増やす原因となります。
- タイヤの空気圧が常に適正であることを確認してください。
- 不要な重量物は積載しないでください。
- 必要でないときは、ルーフラックを取り外してください。
- 定期的な車両の整備は、環境保護に貢献します。整備の間隔を守ってください。
- 点検整備は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

個人的な運転スタイル

- エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。
- 車両を停止したままのエンジン暖機は行なわないでください。
- 注意して運転し、前方の車両との適切な距離を保持してください。
- 頻繁な、または急な加速やブレーキ操作は避けてください。
- 適切なタイミングでギアを変え、それぞれのギアの使用は、エンジン最高回転数の ⅔ までにとどめてください。
- 渋滞しているときは、エンジンを停止してください。
- 車両の燃費に注意してください。

メルセデス・ベンツ純正部品

環境

Daimler AG では、新品同様の品質を持つ、リサイクルしたアッセンブリーやパーツも供給しています。新品と同様の保証が適用されます。

! 以下の部位の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナー、また乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。

- ドア
- ドアピラー
- サイドシル
- シート
- ダッシュボード
- メーターパネル
- センターコンソール

これらの部位にオーディオなどのアクセサリーを取り付けないでください。 修理や板金作業を行なわないでください。 乗員保護装置の作動効果が損なわれるおそれがあります。

アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

メルセデス・ベンツにより承認されていない安全性に関わる部品、タイヤおよびホイール、ならびにアクセサリーなどを使用した場合は、車両の操作安全性を損なうおそれがあります。ブレーキシステムなどの安全に関連したシステムが故障するおそれがあります。メルセデス・ベ

ンツ純正部品または同等の品質の部品を必ず使用してください。タイヤやホイール、アクセサリーなどは必ず、車両用に明確に承認された製品のみを使用してください。

メルセデス・ベンツでは、純正部品や交換部品、アクセサリーに対して、それらの信頼性や安全性、適合性が明確に車両に適しているかをテストしています。継続的な市場調査に関わらず、メルセデス・ベンツはすべての部品を入手できるわけではありません。そのため、公的に承認されている、またはテストセンターによって独自に承認されている場合でも、メルセデス・ベンツ車でのそのような部品の使用については、メルセデス・ベンツは責任を負いかねます。

メルセデス・ベンツ純正部品を注文するときは、常に車台番号（VIN）(▷ 262 ページ) を確認する必要があります。

取扱説明書

車両の装備

車両のすべての標準およびオプション装備については、別冊の補足版をご覧ください。

装備や操作について不明点があるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

取扱説明書と整備手帳は重要な書類ですので、車内に保管してください。

操作安全性

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

規定の点検整備または必要な修理を行っていないと、故障やシステム故障を引き起こすおそれがあります。 事故の危険性があります。

規定の点検整備、必要な修理は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行ってください。

⚠ **警告**

排気システムの熱くなった部品に触れた場合は、葉、草または小枝のような可燃性の物質が発火するおそれがあります。火災の危険性があります。

オフロードまたは舗装されていない道路を走行するときは、車両の下側を定期的に点検してください。特に、挟まった植物や他の可燃物を取り除いてください。損傷している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

⚠ **警告**

電子部品、ソフトウェア配線への改造は、それらの機能およびその他のネットワークでつながっている構成部品の機能を損なうことがあります。 特に、安全にかかわるシステムに影響が生じるおそれがあります。 結果として、車両の機能が適切に作動しないあるいは走行安全性が危険にさらされることがあります。 けがや事故の危険が高まります。

また、決して配線、電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。電気装備および電子機器に関するすべての作業および改造はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で必ず行ってください。

車両の電子制御部品に変更を行なった場合は、一般使用許可は無効になります。

! 以下のときは、車両が損傷することがあります：

- 高い縁石や舗装されていない道路で車両が立ち往生した
- 縁石や道路のくぼみなどの障害物の上を速すぎる速度で走行した
- 重量のある障害物がボディ下部やシャーシの部品にぶつかった

このような状況では、目に見える損傷はなくても、ボディ、ボディ下部、シャー

シ部品、ホイール、タイヤが損傷しているおそれがあります。このようにして損傷した部品は予期せず故障するおそれがあり、事故の場合には、設計されている負荷に耐えることができなくなるおそれがあります。

ボディ下部のパネルが損傷しているときは、葉、草または小枝のような可燃性の素材がボディ下部とボディ下部パネルの間に堆積することがあります。これらの素材が排気システムの高温の部品に触れた場合は、発火するおそれがあります。

そのような場合には、すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検および修理を受けてください。走行している場合に、走行安全性が損なわれていると感じた場合は、道路や交通状況に注意しながらすみやかに移動し、停車してください。このような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

診断器接続部

診断器接続部は、メルセデス・ベンツ 指定サービス工場で診断機器のみを接続するように想定されています。

⚠ **警告**

機器を診断機の接続部に接続すると、車両システムの操作に影響を与える場合があります。 車両の走行安全性が損なわれることがあります。 事故の危険性があります。

いかなる機器も車両の診断機の接続部に接続しないでください。

⚠ **警告**

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。

! エンジンが停止しているときに診断機の接続部の装備品を使用すると、スターターバッテリーが放電することがあります。

診断機器を診断器接続部に接続すると、例えば排出物モニター情報のリセットにつながります。これにより、次回の主要な点検の際の排出物試験の要件に適合しなくなる場合があります。

日常点検および検査

お客様自身の責任において日常点検と定期検査を行なうことが法律で定められています。 それぞれの検査手順についての詳細情報は、整備手帳をご覧ください。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場は、車両に必要とされる適切な作業を行なうための、必要とされる専門的な知識、工具および資格があります。これは特に安全に関する作業に当てはまります。

整備手帳にある注意に従ってください。

以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

- 安全に関する作業
- 整備やメンテナンス作業
- 修理作業

- 改造、装着、交換
- 電子部品の作業

メルセデス・ベンツではメルセデス・ベンツ指定サービス工場をご利用いただくことをお勧めします。

レスキューカード用 QR コード

QR コードは、燃料給油口フラップ内側および反対側の B ピラーにあります。事故の際、QR コードによりお客様の車両に対応する救助カードをレスキューサービスが素早く見つけられます。電気ケーブルの配線のようなお客様の車両に関する最も重要な情報が、最新の救助カードにはコンパクトな形式で含まれています。

さらなる情報は https://portal.aftersales.i.daimler.com にあります。

車両に記憶されているデータ

車両の数多くの電子部品には、データメモリーが装備されています。

これらのデータメモリーは、以下に関する技術情報を一時的または恒常的に保存します：

- 車両の作動状態
- 発生した事象
- 故障

一般的に、この技術情報は構成部品、モジュール、システムまたは環境の状態ついて記録します。

例えば、以下を含みます：

- 油脂類のレベルなどのシステム構成部品の作動状況
- 車両の状況メッセージ、およびホイール回転数/速度、減速、横方向の加速度、アクセルペダルの位置など個別の構成部品の状況メッセージ
- ライト、ブレーキなどの重要なシステム構成部品の故障および異常
- エアバッグの作動、スタビリティコントロールシステムの介入などの特殊な走行状態での車両の反応および作動条件
- 外気温度などの外気条件

このデータは以下の技術的なことにのみ使用されます：

- 故障や不具合の検知および改良の支援
- 事故後などの車両機能の解析
- 車両機能の最適化

データを使用して、車両の動きをたどることはできません。

お客様の車両が整備を受けたときは、この技術情報が発生事象データメモリーおよび故障データメモリーから読み出されます。

例えば以下の整備が含まれます：

- 修理整備
- 整備処理
- 保証の事象
- 品質保証

この情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場の認定された従業員（メーカーを含む）が特別な診断機を使用して読み出します。必要に応じて、より詳細な情報を取得します。

故障が解決されたあと、情報は故障メモリーから消去されるか、絶えず上書きされます。

車両を操作する場合、その他の情報と併せて（必要に応じて、該当機関に相談し）、この技術データから個人を特定することがあります。

以下の例が含まれます：

- 事故情報
- 車両への損傷
- 目撃者証言

お客様と合意したその他の追加機能によっても、同様に特定の車両データを車両から取得することがあります。追加機能は、非常時の車両位置などを含んでいます。

運転席

	機能	ページ
①	パークトロニックの警告表示	147
②	オーバーヘッドコントロールパネル	38
③	ホーン	
④	メーターパネル	160
⑤	コンビネーションスイッチ	102
⑥	ステアリングギアシフトパドル	119
⑦	ボンネットを開く	223
⑧	ライトスイッチ	100
⑨	エンジンスイッチ	116
⑩	ステアリングの調整	96
⑪	クルーズコントロールレバー	130
⑫	クライメートコントロール	110

メーターパネル

ディスプレイおよび操作

	機能	ページ
①	セグメント付きスピードメーター	160
②	マルチファンクションディスプレイ	160
③	タコメーター	160
④	冷却水温度計	160
⑤	燃料計	
⑥	メーターパネル照度調整	160

警告および表示灯

	機能	ページ
①	ロービームヘッドライト	101
②	ESP®	180
③	ハイビームヘッドライト	102
④	ブレーキ（黄色）	176
⑤	距離警告	185
⑥	方向指示灯	102
⑦	乗員保護装置	42
⑧	シートベルト	175

	機能	ページ
⑨	冷却水	184
⑩	リアフォグランプ	101
⑪	フォグランプ	101
⑫	エンジン診断	
⑬	予備燃料	
⑭	ESP®解除	180
⑮	ABS	177
⑯	ブレーキ（赤色）	176

マルチファンクションステアリング

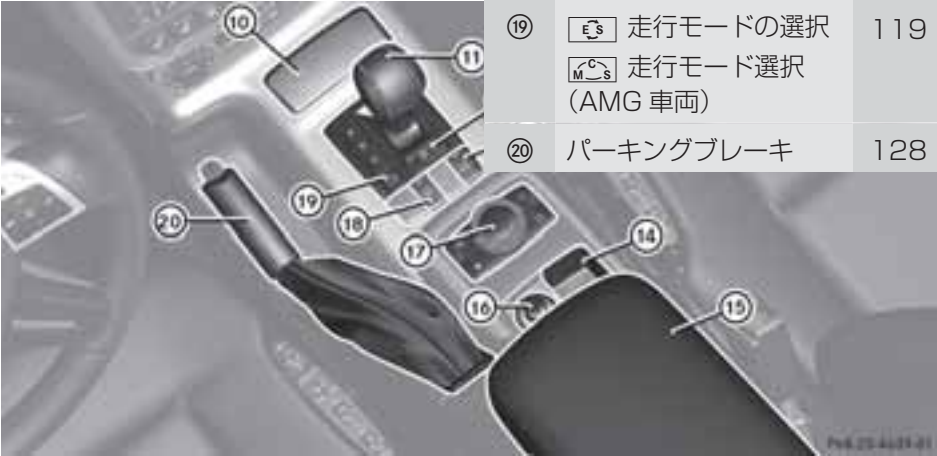
	機能	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	
②	COMAND ディスプレイ	
③	[🗣] 音声認識機能の作動（別冊の取扱説明書をご覧ください）	
④	[☎] 通話の拒否、または終了 電話帳/発信履歴の終了 [✆] 発信、または受話 発信履歴への切り替え [＋] [－] 音量の調整 [🔇] ミュート	

	機能	ページ
⑤	[◀] [▶] メニューの選択 [▲] [▼] サブメニューの選択またはリストのスクロール [OK] 選択を確定して、メッセージを非表示にする	
⑥	[↩] 戻る 音声認識の停止：別冊取扱説明書をご覧ください	

センターコンソール

センターコンソール、上部

	機能	ページ
①	COMAND システム：別冊の取扱説明書をご覧ください	
②	シートヒーター	95
③	シートベンチレーター	94
④	パークトロニック	147
⑤	ECO ECO スタートストップ機能（**AMG 車両のみ**）	118
⑥	非常点滅灯	100
⑦	PASS AIR BAG OFF 助手席エアバッグオフ表示灯	43
⑧	ESP®	73
⑨	補助ヒーター	

センターコンソール、下部

	機能	ページ
⑩	小物入れ/灰皿	218
⑪	オートマチックトランスミッションのセレクターレバー	118
⑫	パーキングポジションの選択	118
⑬	LOW RANGE LOW RANGE オフロードギヤの選択/解除	152
⑭	小物入れ	
⑮	小物入れの開閉	211
⑯	ライター	218
⑰	オーディオコントローラー、別冊の取扱説明書をご覧ください。 COMAND コントローラー	
⑱	フロントウインドウヒーターの作動/停止の切り替え	111
⑲	E S 走行モードの選択 C M S 走行モード選択（AMG 車両）	119
⑳	パーキングブレーキ	128

オーバーヘッドコントロールパネル

	機能	ページ
①	左側読書灯の点灯/消灯の切り替え	102
②	フロントルームライトの点灯	102
③	リアルームライトの点灯 / 消灯の切り替え	102
④	フロントルームライト/ルームライト自動コントロールのオフ	102

	機能	ページ
⑤	右側読書灯の点灯/消灯の切り替え	102
⑥	スライディングルーフの開閉	88
⑦	けん引防止機能の解除	77
⑧	ルームミラー	97
⑨	室内センサーの解除	78

ドアコントロールパネル

	機能	ページ
①	後席のサイドウインドウのチャイルドプルーフロック機能の設定/解除	71
②	サイドウインドウの開閉	87
③	左ドアミラーの選択 ドアミラーの格納/展開 右ドアミラーの選択 ドアミラーの電動調整	97

	機能	ページ
④	M 1 2 3 シート、ドアミラーおよびステアリングの設定の保存（メモリー機能）	97
⑤	シートの調整	94
⑥	車両の施錠/解錠	86
⑦	ドアを開く	86

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。 国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 28 ページ).

乗員の安全性

乗員保護装置をご使用になる前に

乗員保護装置は、事故の際に乗員が車内部品にぶつかる危険性を低減します。乗員保護装置は、事故の際に乗員が受ける衝撃を低減することもできます。

乗員保護装置には以下が含まれます。

- シートベルトシステム
- エアバッグ
- チャイルドセーフティシート
- チャイルドセーフティシート固定装置

乗員保護装置の構成部品は、相互に関連して作動します。すべての乗員が以下の条件を満たしている場合に限り、乗員保護装置の保護機能が働きます。

- シートベルトを正しく着用している (▷ 45 ページ)
- シートやヘッドレストが正しく調整されている (▷ 92 ページ)

運転者として、ステアリングが適切に調整されていることも確認してください。正しい運転席シートの位置に関する情報に従ってください(▷ 92 ページ)。

さらに、作動する場合にエアバッグが正しく膨らむようにしなければなりません (▷ 49 ページ)。

エアバッグは正しく着用しているシートベルトの補助を行なうものです。エアバッグは事故の際の追加的な安全装置として乗員の保護レベルを高めます。例えば、事故の際にシートベルトによる保護機能が十分な場合は、運転席エアバッグは作動しません。また、事故の際、その状況下において保護機能が発揮できるエアバッグのみが展開します。ただし、シートベルトとエアバッグは外側から車両に入り込んだ物に対する保護は通常行ないません。

乗員保護装置の作動方法に関する情報は、"シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動"にあります (▷ 51 ページ)。

車両に乗車している子供、ならびにチャイルドセーフティシートに関するさらなる情報は、"子供を乗せるとき"をご覧ください (▷ 55 ページ)。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

改造が行なわれた後は、乗員保護装置が正しく機能しなくなることがあります。例えば、事故のときに作動しなかったり、または予期せず作動することにより、乗員保護装置が意図した保護機能を発揮しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

乗員保護装置の部品を改造しないでください。また、配線、電子部品やソフトウェアを決して改造しないでください。

障害のある方に合わせてエアバッグシステムを改造する必要がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

乗員保護装置警告灯

乗員保護装置の機能は、イグニッションがオンになった後、そしてエンジンがかかっている間は定期的に点検されます。そのため、不具合を適時検知することができます。

メーターパネルの乗員保護装置警告灯 [警告灯] は、イグニッションをオンにしたときに点灯します。車両が始動した後、数秒以内に消灯します。乗員保護装置の構成部品は、作動準備が整っています。

乗員保護装置警告灯 [警告灯] が以下の場合は、不具合が発生しています。

- イグニッションをオンにした後に点灯しない
- エンジンがかかって数秒後に消灯しない
- エンジンがかかっている間に再度点灯する

⚠ **警告**

乗員保護装置が故障している場合は、車両の減速度が大きい事故の際に、乗員保護装置の構成部品が不意に作動したり、またはまったく作動しないことがあります。これは、たとえばシートベルトテンショナーあるいはエアバッグに影響を与えることがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で乗員保護装置の点検を受けて修理してください。

助手席エアバッグオフ表示灯

助手席エアバッグオフ表示灯 ① は、助手席チャイルドセーフティシート自動検知システムの一部です。

点灯したままの助手席エアバッグオフ表示灯は、助手席エアバッグが無効になっていることを示しています。

助手席シートの乗員によって、助手席エアバッグは有効または無効のいずれかになります。以下の点をご覧ください。走行前および走行中のいずれのときも、確認しなければなりません。

- **チャイルドセーフティシートの子供：** 助手席エアバッグ が有効または無効かどうかは、取り付けられているチャイルドセーフティシートおよび子供の年齢および体格によって異なります。そのため、"子供を乗せるとき" (▷ 55 ページ) にある注意事項に必ず従ってください。そこには、助手席シートの後ろ向き、および前向きチャイルドセーフティシートについての情報もあります。
- **他のすべての乗員：** 助手席エアバッグオフ表示灯が消灯していなければなりません。"シートベルト" (▷ 44 ページ) および"エアバッグ" (▷ 49 ページ) についての注意事項に従っていることを確認してください。そこには、適切なシート位置についての情報もあります。

助手席チャイルドセーフティシートセンサーについての情報に従ってください(▷ 60 ページ)。

シートベルト

はじめに

正しく装着されたシートベルトは、衝突あるいは車両が横転したときに乗員の動きを抑える最も効果的な手段です。これにより、乗員が車内の部品にぶつかったり、車両から投げ出されることを防ぎます。シートベルトを着用することで、乗員と作動するエアバッグの距離を最適に保つこともできます。

シートベルトシステムは以下で構成されています。

- シートベルト
- フロントシートベルト用およびリアの外側シートベルト用シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター

シートベルトが急に、あるいは激しくベルトガイドを使用して引き出されると、リトラクターがロックされます。シートベルトはそれ以上引き出すことはできません。

ベルトテンショナーは、衝突が起こると、乗員の身体にぴったり合うようにシートベルトを締めます。しかし、シートバックレストの方向に乗員を引き戻すことはしません。

しかし、ベルトテンショナーは、正しくないシート位置を正しくしたり、着用の仕方が正しくないシートベルトの取回しを正しくすることはありません。

シートベルトにベルトフォースリミッターも装備されていて作動した場合は、シートベルトによって乗員にかかる力は低減されます。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、減速力の一部となるフロントエアバッグと連動しています。これにより、事故の際に乗員が受ける衝撃が緩和されます。

! 助手席に乗車していない場合は、助手席シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突の際にシートベルトテンショナーが作動することがあります。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

正しく装着されないと、シートベルトは意図された保護機能を果たすことができません。間違ったシートベルトの装着は、たとえば事故のとき、ブレーキを掛けた時や急な方向転換のときに、けがの危険を増やします。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

すべての乗員が適切に着席して、シートベルトを正しく着用していることを確認してください。

⚠ **警告**

バックレストをほぼ垂直の位置に動かしていない場合は、シートベルトは意図された保護レベルを発揮しません。ブレーキ時または事故の場合に、シートベルトの下側にもぐり込み、腹部または頸部などがけがを負うおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

走行を開始する前に、シートを正しい位置に調整してください。バックレストがほぼ垂直の位置にあり、シートベルトのショルダー部分が肩の中央にかかっていることを常に確認してください。

⚠ **警告**

身長が約 150 cm 未満の乗員は、追加の適切な乗員保護装置を使用しないとシートベルトを正しく装着できません。正しく装着されないと、シートベルトは意図

された保護機能を果たすことができません。間違ったシートベルトの装着は、たとえば事故のとき、ブレーキを掛けた時や急な方向転換のときに、けがの危険を増やします。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

そのため身長約 150 cm 未満の乗員は、必ず適切な乗員保護装置を使用してください。

年齢が 12 歳 以下で、身長が 150 cm 以下の子供が乗車する場合：

- 子供は常に、メルセデス・ベンツの車両に適したチャイルドセーフティシートに固定してください。チャイルドセーフティシートは子供の年齢、体重および体格に適応していなくてはいけません。
- チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に加えて、本取扱説明書の"子供を乗せるとき"の説明および安全上の注意事項 (▷ 55 ページ) に常に従ってください。

⚠ 警告

以下の場合は、シートベルトは意図された保護機能を発揮しないことがあります：

- 損傷している、改造されている、極端に汚れている、漂白されている、または着色されている
- シートベルトのバックルが損傷している、または極端に汚れている
- シートベルトテンショナー、ベルトアンカーまたはリトラクターが改造されている

事故が起こった際は目には見えない場合でも、たとえばガラスの破片によってシートベルトに損傷していることがあります。改造または損傷したシートベルトは事故のときなどに裂けたり、または作動しないおそれがあります。改造されたシートベルトテンショナーは不意に作動したり、または必要なときに作動しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

シートベルト、シートベルトテンショナー、ベルトアンカーまたはリトラクターを改造しないでください。シートベルトが損傷していない、擦り切れていない、そして汚れていないことを確認してください。事故後はただちに、シートベルトをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

お客様の車両用にメルセデス・ベンツにより特別に承認されたシートベルトのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。さもないと、車両の一般使用許可が無効になるおそれがあります。

シートベルトの正しい使用方法

シートベルトの安全上の注意事項に従ってください (▷ 44 ページ)。

走行を開始する前に、すべての乗員はシートベルトを正しく着用する必要があります。車両が動いている間も、すべての乗員は、シートベルトを正しく着用するようにしてください。

シートベルトを着用するときは、必ず以下を確認してください。

- シートベルトのプレートが必ずそのシートのベルトバックルに差し込まれている。
- シートベルトが乗員の身体に密着している。
  冬用コートなどの厚手の衣類の着用は避ける。
- シートベルトにねじれがない。
  そのときにのみ、発生した力をベルト周囲に分散させることができます。
- ベルトの肩部分が常に肩の中心にかかっている。
  シートベルトの肩部分が首に接触していたり、腕の下を通っていてはいけま

せん。可能な場合は、シートベルトを適切な高さに調整します。

- 腰ベルトができるだけ締まり、低い位置で腰部分にかかっている。

  腰ベルトは常に腰骨にかかるように、そして腹部にかからないようにしなければなりません。これは特に妊娠中の女性にあてはまります。必要な場合は腰ベルトを腰骨に押し下げ、ベルトの肩部分を使用して強く引きます。
- 鋭利な、先の尖った、または壊れやすい物の上にシートベルトがかかっていない。

  ペン、キー、めがねなどのようなものが衣服に入っている場合は、それらを適切な場所に収納してください。
- シートベルトは、必ず 1 人の乗員のみが使用してください。

  乳児や子供を他の車両乗員の膝の上に座らせて走行しないでください。事故の際に、車両乗員とシートベルトの間でつぶされるおそれがあります。
- シートベルトがいずれかの車両乗員により使用されている場合は、そのシートベルトで物を固定しないでください。

シートベルトは、乗員を固定して抑えるためのものです。物、手荷物または積載物を固定するためには常に、"積載のガイドライン" に従ってください (▷ 210 ページ)。

シートベルトの着用および調整

シートベルトについての安全上の注意事項 (▷ 44 ページ)、およびシートベルトの正しい使用についての情報 (▷ 45 ページ) に注意してください。

乗員が中央リアシートのシートベルトを着用している場合は、中央リアシートのシートベルトについての情報にも注意してください (▷ 47 ページ)。

▶ シート (▷ 92 ページ) を調整します。シートバックレストはほぼ垂直の位置になければなりません。

▶ ベルトガイド ③ からシートベルトをゆっくりと引き出して、ベルトのプレート ② をベルトバックル ① に固定します。

▶ 必要な場合は、肩ベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

シートベルトの肩部分は、常に肩の中央を通ってかかっていなければなりません。必要な場合は、ベルトガイドを調整してください。

- ▶ **上げる：** ベルトガイドを上方にスライドします。
  ベルトガイドは、好みの位置に固定できます。
- ▶ **下げる：** ロック解除スイッチ ④ を引いて、ベルトガイドを下方にスライドします。
- ▶ 希望の位置でロック解除スイッチ ④ を放し、ベルトガイドが固定されていることを確認します。

運転者のシートベルトを除いた車両のすべてのシートベルトにはチャイルドシートロックが装備されており、チャイルドセーフティシートを固定することができます。さらなる情報は "チャイルドシートロック" (▷ 56 ページ) にあります。

中央リアシートのシートベルト

⚠ 警告

中央リアシートの 3 点式シートベルトを使用しないと、走行中、たとえばブレーキをかけたときや事故の際に振り回されるおそれがあります。けがのおそれがあります。

中央リアシートの 3 点式シートベルトを使用しないときは、必ず両方のベルトバックルプレートをリテーナーに差し込んで固定してください。

① シートベルトプレートのブラケット
② 固定式ベルトプレートのベルトバックル
③ 固定式ベルトプレートのロック解除スイッチ
④ 固定式ベルトプレート
⑤ 可動式ベルトプレートのベルトバックル
⑥ 可動式ベルトプレートのロック解除スイッチ
⑦ 可動式ベルトプレート

- ▶ シートベルトプレート ④ および ⑦ の両方をブラケット ① から引きます。

▶ シートベルトをゆっくりとシートベルト引き出し口から引き出して、固定式シートベルトプレート④ をシートベルトバックル ②に差し込みます。

▶ **シートベルトを固定する：** シートベルトをゆっくりとシートベルト引き出し口から引き出して、可動式シートベルトプレート ⑦ をシートベルトバックル ⑤ に差し込みます。

▶ 必要な場合は、肩ベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

シートベルトの解除

! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。 ベルトが完全に収納されていないと、シートベルトやプレートがドアに挟まれたりシート機構に引っかかることがあります。 その結果、ドアやドアトリムパネル、シートベルトを損傷するおそれがあります。 損傷したシートベルトは保護機能を果たすことができなくなるため、必ず新品と交換してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

▶ ロック解除スイッチ ①を押して、シートベルトのプレート ②をしっかり持ち、ベルトガイドの方に戻します ③。

運転席および助手席乗員のシートベルト警告

メーターパネルのシートベルト警告灯 [警告灯] は、すべての車両乗員がシートベルトを着用しなければならないことを促します。点灯し続けるか、または点滅します。さらに、警告音が鳴ることがあります。

運転者と助手席乗員がシートベルトを着用したときは、シートベルト警告灯 [警告灯] が消灯し、警告音が停止します。

ℹ シートベルト警告灯 [ ] に関するさらなる情報は、"メーターパネルの警告および表示灯、シートベルト" (▷ 175 ページ)をご覧ください。

エアバッグ

はじめに

エアバッグの取り付け位置は、AIRBAG のマークで示されています。

エアバッグは正しく着用しているシートベルトの補助を行なうものです。シートベルトの代わりになるものではありません。エアバッグは、事故の状況下で補助的な保護を行ないます。

事故の際に、すべてのエアバッグが作動するわけではありません。各エアバッグシステムは、それぞれ独立して作動します (▷ 51 ページ)。

ただし、現在装備されているどのシステムも、けがや致死を完全になくすことはできません。

エアバッグは高速で展開する必要があるため、エアバッグを原因とするけがの危険性を完全に排除することもできません。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

正しいシート位置から外れている場合、エアバッグは本来の保護機能を発揮できず、作動によりさらに負傷の原因となるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

危険な状態を防ぐために、すべての乗員は以下の項目について確認してください。

- シートベルトを正しく着用していること（妊娠中の女性を含む）
- 正しい位置に座り、エアバッグからできるだけ離れていること
- 以下の注意事項を遵守すること

エアバッグと乗員との間に何も物が置かれていないことを必ず確認してください。

- 走行を開始する前にシートを正しく調整してください。シートが垂直に近い位置であることを、常に確認してください。ヘッドレストの中央は、ほぼ目の高さで頭部をサポートしていなければなりません。
- 運転席および助手席シートをできるだけ後方に動かします。運転席シートの位置は、車両を安全に運転できるものでなければなりません。
- ステアリングは外側のみを握ってください。それにより、エアバッグを十分に作動させることができます。
- 運転中は、常にバックレストにもたれかかるようにしてください。前方に倒れたり、ドアまたはサイドウインドウに寄りかからないでください。さもないと、エアバッグの作動範囲内に入る可能性があります。
- 両足は、常にシート前方のフロアに置いてください。ダッシュボードの上に足をのせないでください。さもないと、エアバッグの作動範囲内に入る可能性があります。
- 身長が 150 cm 以下の人は適切な乗員保護装置に常に固定してください。この身長以下では、シートベルトを正しく着用することができません。

お子様を車両に乗せて走行する場合、以下の注意事項にも注意してください。

- 年齢 12 歳 以下で、身長が 150 cm 以下の子供は、適切なチャイルドセーフティシートに固定し、安全を確保してください。
- チャイルドセーフティシートはリアシートに装着してください。
- 助手席エアバッグが無効になっており、後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用する場合に限り、子供を助手席

シートに固定してください。助手席エアバッグオフ 表示灯が点灯し続けている場合は、助手席エアバッグは無効になっています (▷ 43 ページ)。

- チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に加えて、"子供を乗せるとき" (▷ 55 ページ)、および "助手席のチャイルドセーフティシート" (▷ 61 ページ) の説明および安全上の注意事項に常に従ってください。

車内に置いている物がエアバッグの正常な機能を妨げる場合があります。 運転を開始する前に、エアバッグが作動する際の速度により生じる危険を防ぐために、以下のことを確認してください：

- 乗員とエアバッグとの間に、人、動物、物がない。
- シート、ドア、B ピラーの間に物がない。
- コートハンガーなどの固い物がグリップハンドルまたはコートフックにかかっていない。
- カップホルダーなどのアクセサリーが、ドア、サイドウインドウ、リアサイドトリムやサイドウォールなどの、エアバッグの作動範囲内に取り付けられていない。
- 衣服のポケットに重い物やとがった物を入れていない。このような物は適切な場所に収納してください。

⚠ **警告**

エアバッグのカバーを改造したり、ステッカーのような物をそれらに貼付している場合は、エアバッグが正しく機能しなくなるおそれがあります。けがの危険性が高まります。

エアバッグのカバーを改造したり、それらに物を貼付しないでください。

⚠ **警告**

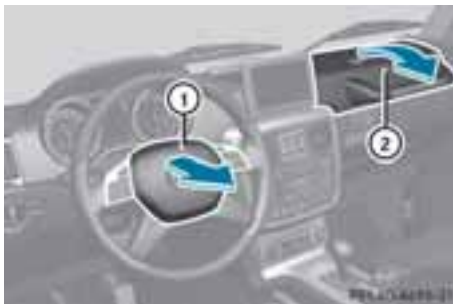
エアバッグを制御するセンサーがドアの内部にあります。ドアまたはドアパネル、ならびに損傷したドアに改造または作業が正しく行われていないと、センサーの機能が損なわれることがあります。 したがって、エアバッグは正しく機能しなくなることがあります。その結果、エアバッグは設計されているように車両乗員を保護することができません。けがをするおそれが高まります。

ドアまたはドアの部品を改造しないでください。ドアまたはドアパネルの作業は常にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

エアバッグと装着位置

エアバッグ	装着位置
運転席エアバッグ	ステアリング中央のパッド
助手席エアバッグ	グローブボックス上部のダッシュボード
ウインドウバッグ	A ピラー側方から C ピラーのルーフフレーム

フロントエアバッグ

! 助手席シートには重い物を置かないでください。助手席シートに同乗者がいるとシステムが誤って判断する原因になります。衝突の際に助手席側の乗員保護装置が作動して交換する必要が出るおそれがあります。

運転席エアバッグ ① は、ステアリング前面で作動します。助手席エアバッグ ② は、グローブボックスの前面と上部で作動します。

作動するときは、フロントエアバッグは前席乗員の頭部や胸部の補助的な保護を行ないます。

助手席エアバッグオフ表示灯の常時点灯は、助手席エアバッグが無効になっていることを示しています (▷ 43 ページ)。

ウインドウバッグ

ウインドウバッグ ① はルーフフレーム側面に内蔵され、A ピラーから C ピラーまでのエリアで展開します。

作動すると、ウインドウバッグは頭部に対する保護レベルを向上させます。ただし、胸部または腕部は保護しません。

側面衝突の際、ウインドウバッグは衝撃が発生した側で作動します。

シートベルトによる乗員保護機能を高めるとシステムが判断した場合は、ウインドウバッグは他の事故状況下で作動する場合があります (▷ 51 ページ)。

シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

エアバッグの作動後は、エアバッグの部品が熱くなっています。けがの危険性があります。

エアバッグの部品に触れないでください。できるだけすみやかに、作動したエアバッグをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

⚠ 警告

作動した火薬式シートベルトテンショナーは作動しなくなり、意図した保護機能を発揮できなくなります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

したがって、作動した火薬式シートベルトテンショナーは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

事故後は車両をメルセデス・ベンツ指定サービス工場までけん引することを、メルセデス・ベンツは推奨します。特にシートベルトテンショナーが作動したり、エアバッグが展開した場合は、このことを考慮してください。

シートベルトテンショナーが作動したり、エアバッグが展開したりするときは、作動音が聞こえ、少量の粉末が放出されることもあります。SRS 警告灯 [SRS] が点灯します。

作動音は、ごくまれに聴力に影響を与えることがあります。一般に、放出される粉末は健康に害はありませんが、ぜんそくや肺疾患のある方は、この粉末により一時的に呼吸障害を起こすおそれがあります。もし安全であるなら、呼吸障害を防止するため、すぐに車両から離れるか、窓を開けてください。

操作

衝突の初期段階の間、乗員保護装置のコントロールユニットは、車両の減速度または加速度に関する以下のような重要な物理的データの評価を行ないます。

- 時間
- 方向
- 強さ

このデータの評価に基づいて、乗員保護装置のコントロールユニットは正面衝突または追突の際にシートベルトテンショナーを作動させます。

シートベルトテンショナーは、以下の場合のみ作動します。

- イグニッションがオンである
- 乗員保護装置の構成部品が作動可能である。"SRS 警告灯"をご覧ください。(▷ 43 ページ)
- シートベルトのプレートがフロントシートのそれぞれのベルトバックルに固定されている

後席のシートベルトテンショナーは、シートベルトの固定状態とは独立して作動します。

乗員保護装置のコントロールユニットが特定の正面衝突など、非常に重大な事故を検知すると、乗員保護装置の追加構成部品が相互に関係なく作動します。

- 運転席エアバッグ
- 助手席エアバッグ

助手席シートの乗員によって、助手席エアバッグは有効または無効のいずれかになります。助手席エアバッグオフ表示灯が消灯している場合にのみ、事故の際に助手席エアバッグが作動します。助手席エアバッグオフ表示灯 (▷ 43 ページ)に関する情報に従ってください。

お客様の車両には 2 段階式の運転席エアバッグが装備されています。最初の作動段階では、けがの危険性を減少させるために十分な火薬ガスで運転席エアバッグが充填されます。数ミリ秒以内に第 2 段階の作動基準に達すると、運転席エアバッグは最大限に膨らみます。

シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動規定値は、車両のさまざまなポイントでの車両の減速度または加速度の評価に基づいて判断されます。この処理は事前に実行されます。作動/展開決定処理は、衝突の初期段階に適切なタイミングで行なわれる必要があります。

車両の減速度や加速度、衝撃の方向は、基本的に以下の要素によって決まります。

- 衝突時の衝撃エネルギーの分散度
- 衝突の角度
- 車両の変形特性
- 車両と衝突した物体の特性

衝突の発生後に検知される要素は、エアバッグの作動条件とは必ずしも一致しません。また、エアバッグを作動させる基準とはなりません。

エアバッグが作動せずに車両が著しく変形することがあります。変形しやすい衝撃吸収部品のみが衝突の影響を受け、エアバッグを作動させるのに十分な減速度に達していない場合です。反対に車両が軽度にのみ変形したにも関わらず、エアバッグが作動することがあります。縦方向のボディメンバーなどの高剛性の部品が衝撃を受けたため、結果として大きな減速度が発生した場合などです。

乗員保護装置のコントロールユニットが側面衝突を検知するか、あるいは車両が横転した場合は、乗員保護装置の適切な構成部品が、事故の形態に応じて相互に独立して作動します。この状況で、作動により乗員保護機能が高まるとシステムが判断した場合は、シートベルトテンショナーも作動します。

- シートベルトの使用および助手席に乗員がいるかどうかに関係なく、衝撃が発生した側のウインドウバッグ
- 特定の状況で車両が横転して、作動がシートベルトの乗員保護機能を高めるとシステムが判断したときの運転席側および助手席側のウインドウバッグ

ℹ 事故の際に、すべてのエアバッグが作動するわけではありません。各エアバッグシステムは、それぞれ独立して作動します。

エアバッグシステムの作動は、検知された事故の大きさ、特に車両の減速度または加速度、および以下のような事故の形態により決定されます。

- 正面衝突
- 側面衝突
- 横転

NECK PRO アクティブヘッドレスト/NECK PRO ラグジュアリーヘッドレスト

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

以下の場合にヘッドレストの機能が損なわれることがあります。

- 例えばコートハンガーのような物をヘッドレストに取り付けている
- 不適切なヘッドレストカバーを使用している

そのような場合は、事故のときにヘッドレストが意図された保護機能を果たすことができません。加えて、ヘッドレストに取り付けられている物が車両の他の乗員を危険にさらすおそれがあります。けがの危険性が高まります。

ヘッドレストに物を取り付けたり、適切なヘッドレストカバー以外を使用しないでください。

適切なシートまたはヘッドレストカバーの入手に関しては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

作動

NECK PRO アクティブヘッドレスト/NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストは、頭部および頚部のけがに対する補助的な保護を行ないます。特定の強さの後方衝突のときに、運転席と助手席のNECK PRO アクティブヘッドレスト/NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストが前方および上方へ移動します。これにより、頭部のより良い支持をもたらします。

事故で NECK PRO アクティブヘッドレスト/NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストが作動した場合は、運転席および助手席の NECK PRO アクティブヘッドレスト/NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストをリセットしてください (▷ 54 ページ)。さもないと、次の後方衝突のときに、補助的な保護が作動しません。前方に傾いて、調整できなくなった場合は、NECK PRO アクティブヘッドレスト/NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストが作動したことがわかります。

追突の後は、NECK PRO アクティブヘッドレスト/NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検することを、メルセデス・ベンツは推奨します。

NECK PRO アクティブヘッドレスト/NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストの作動後のリセット

NECK PRO アクティブヘッドレスト

ヘッドレストのクッションとシートの間に指を入れないでください。NECK PRO アクティブヘッドレストのリセットの間は、特に注意してください。

▶ NECK PRO アクティブヘッドレストのクッション上部を矢印 ① の方向に前方に傾けます。

▶ NECK PRO アクティブヘッドレストのクッションを矢印 ② の方向に停止するまで押し下げます。

▶ NECK PRO ヘッドレストのクッションが固定されるまで、手のひらで矢印 ③ の方向に後方にしっかりと押します。

▶ もう一方の NECK PRO アクティブヘッドレストでも同様の作業を行ないます。

ℹ NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット作業には強い力が必要になります。NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット作業を行なうのが困難な場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

NECK PRO ラグジュアリーヘッドレスト

ヘッドレストのクッションとシートの間に指を入れないでください。NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストのリセットの間は、特に注意してください。

▶ 車両の書類入れからリセットツール ① を取り出します。

▶ NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストとヘッドレストのリアカバーの間にあるガイド ② に、リセットツール ① をスライドします。

▶ カチッと音がしてヘッドレスト作動機構がはまるまで、リセットツール ① を押し下げます。

▶ リセットツール ① を引き抜きます。

▶ NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストのクッションが固定されるまで、手のひらで矢印 ③ の方向に後方にしっかりと押します。

▶ もう一方の NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストでも同様の作業を行ないます。

▶ リセットツール ① を車両の書類入れに戻します。

ℹ NECK PRO ラグジュアリーヘッドレストのリセットが困難な場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にこの作業を依頼してください。

事故後の自動措置

衝突の種類および大きさによって、事故の後はただちに以下の措置が行なわれます：

- 非常点滅灯が作動します
- 緊急時点灯機能が作動します
- 車両のドアが解錠されます
- フロントサイドウインドウが下がります
- 電動調整式ステアリングが上がります
- エンジンが停止して、燃料供給が中断します

事故の後で

事故の後で

▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。

▶ 非常点滅灯を作動させます。

▶ パーキングブレーキを効かせてください。

▶ 車両から出るときは乗員が危険にさらされていないことを確認してください。

▶ 危険な場所の近くに誰もいないことを確認してください。フェンスなどで区切られた安全な場所に乗員を退避させます。

▶ 適切な場所に停止表示板を置いてください。

自動車専用道路や高速道路では、停止表示板を使用することにより後続車両に警告を発することが法律で義務付けられています。

車両が動かなくなったとき

▶ オートマチックトランスミッションをシフトポジション **N** にシフトします。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ 安全な場所まで車両を押してください。

必要な場合は、他の人に救援を求めてください。

オートマチックトランスミッションをシフトポジション **N** にできない場合、運転者と乗員は危険な範囲からただちに離れてください。

ⓘ イグニッションがオンで車輪が回転したときは、車両は自動的に施錠されます。そのため、車両を押すときやダイナモメーターでテストを行なう場合は、閉め出される危険性があります。

ⓘ 踏切内で車両が動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急な状況では、非常信号用具も使用してください。

子供を乗せるとき

重要な安全上の注意事項

事故の統計では、リアシートに固定された子供は助手席に固定された子供よりも安全であることが示されています。この理由のため、チャイルドセーフティシートはリアシートに取り付けることを、メルセデス・ベンツは強く推奨します。子供の安全性が高くなります。

年齢が 12 歳 以下で、身長が 150 cm 以下の子供が乗車する場合：

- 子供は常に、メルセデス・ベンツ車両に適したチャイルドセーフティシートに固定してください。チャイルドセーフティシートは子供の年齢、体重およ

び体格に適応していなくてはいけません。

- チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に加えて、本項目の説明および安全上の注意事項に従っていることを確認してください。

⚠ **警告**

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキを解除したとき
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

⚠ **警告**

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートが直射日光または熱にされされている場合は、部品が高温になることがあります。子供がこれらの部品、特にチャイルドセーフティシートの金属部品で火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。

運転者および子供が車両から離れる場合は、チャイルドセーフティシートを直射日光にさらさないように気をつけてください。毛布などで覆ってください。チャイルドセーフティシートが直射日光にさ れされた場合は、子供を固定する前に冷ましてください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

すべての乗員がシートベルトを正しく着用し、正しく着座していることを常に確認してください。特に子供には注意してください。

シートベルトに関する安全上の注意事項 (▷ 44 ページ) およびシートベルトの正しい使用に関する注意事項 (▷ 45 ページ) に従ってください。

チャイルドセーフティシートロック

⚠ **警告**

車両が動いている間にシートベルトが解除された場合は、チャイルドセーフティシートは正しく固定されなくなります。チャイルドシートロックが解除され、シートベルトは慣性リールによって少し引き込まれます。そのため、シートベルトを再度固定することはできません。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

交通状況に従って車両を停止してください。チャイルドシートロックを再度作動させ、チャイルドセーフティシートを正しく固定します。

運転席のシートベルトを除くすべてのシートベルトには、チャイルドシートロックが装備されています。有効にしたときは、1 度チャイルドセーフティシートが固定されると、チャイルドシートロック機能によりシートベルトが緩まなくなります。

チャイルドセーフティシートを取り付ける

▶ 常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。

▶ シートベルトをベルトガイドからゆっくりと引き出します。

▶ シートベルトのプレートをバックルに確実に差し込みます。

チャイルドシートロックを使用する

▶ シートベルトをいっぱいまで引き出した後、再びベルトアンカーでベルトを引き込ませす。
シートベルトが引き込まれているときは、ラチェットがかみ合う音が聞こえます。チャイルドシートロックが有効になります。

▶ シートベルトが締め付けられて緩まないように、チャイルドセーフティシートを下に押します。

チャイルドセーフティシートを取り外す/チャイルドシートロックを解除する

▶ 常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。

▶ バックルのロック解除スイッチを押して、シートベルトのプレートをしっかり持ち、ベルトガイドの方に戻します。
チャイルドシートロックが解除されます。

チャイルドセーフティシート

チャイルドセーフティシートの正しい使用の指示に従ってください (▷ 65 ページ)。

安全上の理由のため、メルセデス・ベンツにより推奨されたチャイルドセーフティシートのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します (▷ 68 ページ)。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートが適切なシート位置に正しく取り付けられていない場合は、意図した保護機能を発揮することができません。事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに子供を保護することができません。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用を常に遵守してください。チャイルドセーフティシートの底面全体が常にシートクッションに接触している事を確認してください。チャイルドセーフティシートの下または背面にクッションなどの物を置かないでください。チャイルドセーフティシートには、必ずこのシート専用の純正シートカバーを使用してください。損傷したカバーを取り替えるときは、必ず純正品を使用してください。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートが正しく取り付けられていない、または固定されていない場合は、事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに外れるおそれがあります。チャイルドセーフティシートが投げ出されて、乗員にぶつかるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

着座していないチャイルドセーフティシートも常に正しく取り付けてください。常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。

物、手荷物および積載物の確実な収納に関するさらなる情報は、"積載時のガイドライン"にあります (▷ 210 ページ)。

⚠ 警告

事故で負荷を受けたチャイルドセーフティシートやその固定装置は、意図した保護機能を発揮できないことがあります。事故、急ブレーキまたは急な進路変更の

ときに、子供が保護されません。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

事故で損傷したり、または負荷を受けたチャイルドセーフティシートはただちに交換してください。チャイルドセーフティシートを再度取り付ける前に、チャイルドセーフティシートの固定装置をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

チャイルドセーフティシートの固定装置は以下の通りです。

- シートベルトシステム
- ISOFIX 固定リング
- テザーアンカー

やむを得ず子供を助手席シートに乗車させる必要がある場合は、"助手席シートのチャイルドセーフティシート"にある情報に従っていることを確認してください (▷ 61 ページ)。助手席エアバッグの無効化に関する情報もあります。

車内およびチャイルドセーフティシートにある警告ラベルに注意してください。

ℹ メルセデス・ベンツにより推奨されたチャイルドセーフティシートを清掃するためには、メルセデス・ベンツ純正のカーケア用品を使用することをお勧めします。このことに関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

⚠ **警告**

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートは、体重が 22 kg 以上でチャイルドセーフティシートに内蔵されたセーフティベルトを使用して固定されている子供には十分な保護効果をもたらしません。例えば、事故のときに子供が正しく固定されないなどのおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

子供の体重が 22 kg 以上の場合は、必ず子供が車両のシートベルトでも固定される ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを使用してください。使用可能であれば、チャイルドセーフティシートをテザーアンカーベルトでも固定してください。

チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの装着および操作指示、およびチャイルドセーフティシートの正しい使用に関する指示に従っていることを確認してください (▷ 65 ページ)。

各走行前に、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートが両方の ISOFIX 固定リングに正しく固定されていることを確認します。

! チャイルドセーフティシートを装着するときは、中央リアシートのシートベルトを挟み込まないように注意してください。 シートベルトが損傷するおそれがあります。

① ISOFIX 固定リング

▶ ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを左右の ISOFIX 固定リング ① に取り付けます。

ISOFIX は、専用設計されたチャイルドセーフティシートのリアシートへの規格化された固定システムです。2 つの ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート用の ISOFIX 固定リング ① は、リア

シートの左および右に取り付けられています。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置に対応していないチャイルドセーフティシートは、車両のシートベルトで固定してください。チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの装着および操作指示、およびチャイルドセーフティシートの正しい使用に関する指示に従っていることを確認してください (▷ 65 ページ)。

テザーアンカー

はじめに

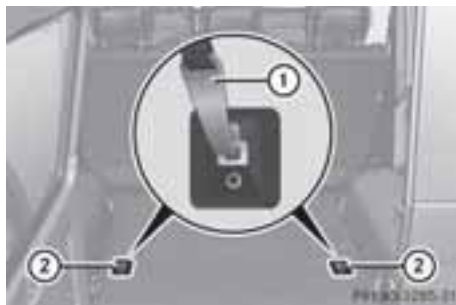
テザーアンカーは、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートと車両の間を補助的に接続します。これにより、けがの危険性をさらに低減する効果を高めます。チャイルドセーフティシートにテザーアンカーベルトが装備されている場合は、常に使用してください。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

リアシートまたはリアシートバックレストが固定されていない場合は、事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに前に倒れるおそれがあります。結果として、チャイルドセーフティシートが意図した保護機能を発揮できません。固定されていないリアシートまたはリアシートバックレストは、事故のときなどにさらなるけがの原因となるおそれもあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

テザーアンカーベルトを取り付けた後は、常にリアシートおよびリアシートバックレストを固定してください。ロック確認インジケーターに注意してください。垂直位置になるようにリアシートのバックレストを調整します。

テザーアンカー

テザーアンカー ② は、ラゲッジルームフロア上にあります。

- ▶ セーフティネット (▷ 218 ページ) を取り外します。
- ▶ ラゲッジルームカバー (▷ 215 ページ) を取り外します。
- ▶ ヘッドレストを上方に動かします。
- ▶ テザーアンカーを装備した ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着します。そうするときは、常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。
- ▶ ヘッドレスト下のヘッドレストの 2 本の支柱の間にテザーアンカーベルト ③ を通します。
- ▶ テザーアンカーベルト ③ のテザーアンカーフック ① をテザーアンカー ② に掛けます。
  テザーアンカーベルト ⑥ にねじれがないことを確認します。

▶ テザーアンカーベルト ③を張ります。そうするときは、常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。

▶ 必要な場合は、ヘッドレスト を再度少し下に動かして戻します (▷ 95 ページ)。テザーアンカーベルト ③ の正しい取り回しを妨げていないことを確認してください。

助手席チャイルドセーフティシート自動検知システム

助手席チャイルドセーフティシート自動検知システムのセンサーシステムは、トランスポンダーを内蔵しているメルセデス・ベンツ純正チャイルドセーフティシートが取り付けられているかどうかを検知します。この場合は、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままになります。助手席エアバッグは無効になります。

ℹ 助手席チャイルドセーフティシート自動検知システムにより助手席エアバッグが無効になっている場合でも、助手席側では以下が有効になったままです：

- ウインドウバッグ
- シートベルトテンショナー

⚠ 警告

子供を助手席のチャイルドセーフティシートに固定していて、助手席エアバッグオフ表示灯が消灯している場合は、事故のときに助手席フロントエアバッグが作動します。エアバッグにより、子供が衝撃を受けるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席フロントエアバッグが無効になっていることを確認してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していなければなりません。

⚠ 警告

助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合は、助手席フロントエアバッグは無効になっています。事故のときに作動せず、意図した保護機能を発揮できません。そして、特にダッシュボードのすぐ近くに乗員が着座している場合は、助手席にいる乗員が車両のインテリアに接触するなどのおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

この場合は、助手席シートを使用しないでください。適切な後ろ向きまたは前向きチャイルドセーフティシートのみを助手席シートに取り付けてください。本取扱説明書ならびにチャイルドセーフティシートメーカーの装着説明にある、チャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報に常に従ってください。

⚠ 警告

子供を助手席の前向きチャイルドセーフティシートに固定していて、助手席位置をダッシュボードのすぐ近くした場合は、事故のときに、子供は以下のようになることがあります。

- 例えば助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合に、車両のインテリアに接触する
- 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合にエアバッグにぶつかる

これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席シートはできるだけ後方に移動してください。シートベルトの肩部分のストラップが、ベルトガイドからチャイルドセーフティシートの肩部分のシートベルトガイドにチ向かって、正しく取り回されていることを常に確認してください。シートベルトの肩部分のストラップは、ベルトガイドから前方および下方に取り回されていなければなりません。必要な場合は、それに応じてベルトガイドおよび助手席シートを調整してください。本取扱説明書ならびにチャイルドセーフティシートメーカーの装着説明にある、

チャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報に常に従ってください。

ℹ 車両に助手席チャイルドセーフティシート自動検知システムが装備されていることを確認します (▷ 61 ページ)。それ以外の場合は、チャイルドセーフティシートは常に、適切なリアシートに取り付けてください (▷ 65 ページ)。

助手席エアバッグオフ表示灯 ① は、助手席エアバッグが無効になっているかどうかを示しています。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。
システムは自己診断を実行します。

約 6 秒間、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しなければなりません。

システムの自己診断後に助手席エアバッグオフ表示灯が以下の場合：

- **点灯している**、助手席エアバッグは無効です。その場合は、事故のときに作動しません。
- **点灯していない**、助手席チャイルドセーフティシート自動検知システム用トランスポンダーを装備しているチャイルドセーフティシートをセンサーシステムが検知していません。すべての作動基準が満たされている場合は、事故のときに助手席エアバッグが作動します。

⚠ **警告**

例えば以下のような助手席シートの上にある電子機器が、チャイルドセーフティシート自動検知システムの機能に影響を与えるおそれがあります。

- ノートパソコン
- 携帯電話
- スキーパスまたはアクセスパスのような電波を送受信するカード

助手席フロントエアバッグが不意に作動したり、事故の間に意図されたように機能しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

上記に記載された機器または類似の機器を助手席シートに置かないでください。走行前および走行中のいずれのときも、助手席エアバッグの状況に注意してください。

助手席のチャイルドセーフティシート

全体的な注意事項

事故の統計では、リアシートに固定された子供は助手席に固定された子供よりも安全であることが示されています。この理由のため、チャイルドセーフティシートはリアシートに取り付けることを、メルセデス・ベンツは強く推奨します。

助手席チャイルドセーフティシート自動検知システム装備車両：どうしても助手席シートにチャイルドセーフティシートを取り付けなければならない場合は常に、"助手席チャイルドセーフティシート自動検知システム"にある情報に従ってください (▷ 60 ページ)。

このようにして、以下のために発生するおそれのある危険性を防ぐことができます：

- チャイルドセーフティシート自動検知システムによって検知されないチャイルドセーフティシート
- 助手席エアバッグの意図しない無効化
- ダッシュボードのすぐ近くなど、チャイルドセーフティシートの不適切な位置

助手席側サンバイザーの警告ステッカーに従ってください。イラストを参照してください。

⚠ **警告**

子供を助手席のチャイルドセーフティシートに固定していて、助手席エアバッグオフ表示灯が消灯している場合は、事故のときに助手席フロントエアバッグが作動します。エアバッグにより、子供が衝撃を受けるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席フロントエアバッグが無効になっていることを確認してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していなければなりません。

有効になっているフロントエアバッグで保護されているシートでは、後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用しないでください。子供に致命的な、または重大なけがを引き起こすことがあります。

助手席チャイルドセーフティシートセンサー非装備車両

車両の助手席にチャイルドセーフティシートセンサーがない場合は、専用のステッカーによって示されます。ステッカーは、助手席側ダッシュボードの側面に貼付されています。助手席ドアを開いたときに、このステッカーが見えます。

エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわした場合は、助手席エアバッグオフ表示灯が短時間点灯します。ただし機能はなく、助手席シートにチャイルドセーフティシートセンサーがあることは示していません。

この場合は常に、後ろ向きチャイルドセーフティシートは適切なリアシートに取り付けてください (▷ 65 ページ)。

"後ろ向きチャイルドセーフティシート" および "前向きチャイルドセーフティシート" にある情報、ならびにチャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報に従ってください (▷ 65 ページ)。

後ろ向きチャイルドセーフティシート

後ろ向きチャイルドセーフティシートの警告マーク。

どうしても助手席に後ろ向きチャイルドセーフティシートを取り付けなければならない場合は、助手席エアバッグが無効になっていることを確認してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し続けている場合にのみ (▷ 43 ページ)、助手席エアバッグは無効になっています。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着および取扱指示に加えて、チャイルドセーフティシートの適切な位置についての情報に常に従ってください (▷ 65 ページ)。

前向きチャイルドセーフティシート

どうしても前向きチャイルドセーフティシートを助手席シートに取り付けなければならない場合は、助手席シートをできるだけ後方の位置に動かしてください。チャイルドセーフティシートの底面全体が常に助手席シートクッションに接していなければなりません。チャイルドセーフティシートのバックレストは、助手席バックレストにできるだけ均一に接していなければなりません。チャイルドセーフティシートがルーフに触れたり、ヘッドレストにより負荷がかかっていてはいけません。それに応じて、シートバックレストの角度およびヘッドレストの位置を調整してください。肩部分のシートベルトが、車両のベルトガイドからチャイルドセーフティシートの肩ベルトのガイドに向けて正しく取り回されていることを常に確認してください。肩部分のシートベルトは、車両のベルトガイドから前方および下方に取り回されていなければなりません。必要な場合は、それに応じて車両のベルトガイドおよび助手席を調整してください。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着および取扱指示に加えて、チャイルドセーフティシートの適切な位置についての情報に常に従ってください (▷ 65 ページ)。

チャイルドセーフティシート自動検知システムのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している。	チャイルドセーフティシート検知システム用トランスポンダーを装備している、特別なメルセデス・ベンツチャイルドセーフティシートが助手席シートに取り付けられている。そのため、希望通りに助手席エアバッグが無効になっている。
	⚠ 警告 助手席シートにチャイルドセーフティシートが装着されていない。例えば、助手席シートにある電子機器により、チャイルドセーフティシート自動検知システムに不具合がある。 けがのおそれがあります。 ▶ 助手席シートから以下のような電子機器を取り除いてください： • ノートパソコン • 携帯電話 • IC カードまたは磁気カードのようなトランスポンダー付カード 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままの場合は、助手席シートは使用できません。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
イグニッションをオンにしたときに、乗員保護装置警告灯 [警告灯] が点灯し、さらに/または助手席エアバッグオフ表示灯が短時間点灯しない。	⚠ 警告 チャイルドセーフティシートセンサーが故障している。 助手席シートにチャイルドセーフティシートを取り付けないでください。 チャイルドセーフティシートは適切なリアシートに装着することを推奨します。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 乗員保護装置警告灯についての注意事項も参照してください (▷ 183 ページ)。

チャイルドセーフティシートの適切な装着位置

はじめに

車両には、欧州経済共同体基準 ECE R44 により承認されたチャイルドセーフティシートのみを装着してください。

"ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートは、オレンジ色の認証ラベルと "universal"の文字で判別できます。

例：チャイルドセーフティシートの認証ラベル

"ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートは、"ベルト付きチャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性" または "ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性" の表に従って、U、UF または IUF と表示されたシートで使用できます。

セミユニバーサルチャイルドセーフティシートは、認可ラベルの "semi-universal" の文字で示されています。これらは、車両およびシートがチャイルドセーフティシートメーカーの車両モデルリストに載っている場合に使用できます。さらなる情報は、チャイルドセーフティシートメーカーにご連絡いただくか、メーカーのウェブサイトをご覧ください。

助手席シートのチャイルドセーフティシート - どうしても助手席シートのチャイルドセーフティシートに子供を固定する必要がある場合：

▶ "助手席でのチャイルドセーフティシート" にある指示に常に注意してください (▷ 61 ページ)。

そこには、肩部分のシートベルトをベルトアンカーからチャイルドセーフティシートの肩ベルトのガイドに向けて正しく取り回す方法についての説明があります (▷ 63 ページ)。

▶ 助手席シートをできるだけ後方の、最も低い位置に動かします。

▶ バックレストをほぼ垂直の位置に動かします。

チャイルドセーフティシートの底面全体が常に助手席シートクッションに接触していなければなりません。前向きチャイルドセーフティシートのバックレストは、できるだけ助手席シートのバックレストに接していなければなりません。チャイルドセーフティシートがルーフに触れたり、ヘッドレストにより負荷がかかっていてはいけません。それに応じて、シートバックレストの角度およびヘッドレストの位置を調整してください。チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示にも注意してください。

ベルト付きチャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性

リアシートでカテゴリー 0 または 0+のベビーカーシート、または後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用する場合は、シートがチャイルドセーフティシートに接触しないように、運転席および助手席シートを調整しなければなりません。

カテゴリー I の前向きチャイルドセーフティシートを使用する場合は、可能な場合は、対応するシートのヘッドレストを取り外さなければなりません。チャイルドセーフティシートのバックレストは、シートのバックレストにできるだけ接していなければなりません。

"チャイルドセーフティシート"の項目 (▷ 57 ページ) およびチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示にある注意事項に常に従ってください。

チャイルドセーフティシートを取り外したときは、ただちにヘッドレストを再度取り付けなければなりません 。走行を開始する前に、すべての乗員がヘッドレストを正しく調整しなければなりません。

表の凡例

X この体重カテゴリーの子供に適合していないシート。

U この体重カテゴリーでの使用が承認された "ユニバーサル" カテゴリーのチャイルドセーフティシートに適合。

L 推奨チャイルドセーフティシートに適合。"推奨チャイルドセーフティシート"の表をご覧ください (▷ 68 ページ)。

体重カテゴリー		助手席シート		リアシート
		助手席エアバッグが有効になっている	助手席エアバッグが無効になっている[1]	左、右
0	10 kg 以下	X	U	U
0+	13 kg 以下	X	U	U
I	9 kg ～ 18 kg	L	U	U
II	15 kg ～ 25 kg	L	U	U
III	22 kg ～ 36 kg	L	U	U

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性

リアシートでカテゴリー 0 または 0+のベビーカーシート、または後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用する場合は、シートがチャイルドセーフティシートに接触しないように、運転席および助手席シートを調整しなければなりません。

[1] 車両に助手席チャイルドセーフティシート自動検知システムが装備されています。.チャイルドシート自動検知システム用トランスポンダー内蔵の"ユニバーサル"カテゴリーのチャイルドセーフティシートが取り付けられていなければなりません。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していなければなりません。

カテゴリー I の前向きチャイルドセーフティシートを使用する場合は、可能な場合は、対応するシートのヘッドレストを取り外さなければなりません。チャイルドセーフティシートのバックレストは、シートのバックレストにできるだけ接していなければなりません。

"チャイルドセーフティシート"の項目 (▷ 57 ページ) およびチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示にある注意事項に常に従ってください。

チャイルドセーフティシートを取り外したときは、ただちにヘッドレストを再度取り付けなければなりません 。走行を開始する前に、すべての乗員がヘッドレストを正しく調整しなければなりません。

表の凡例

X　この体重カテゴリーおよび/またはサイズカテゴリーで、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適合していない ISOFIX の位置。

IUF　この体重カテゴリーでの使用に適合する "ユニバーサル" カテゴリーに属する前向き ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置に適合。

IL　推奨しているような ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適合。以下の表"推奨チャイルドセーフティシート" (▷ 68 ページ) をご覧ください。

チャイルドセーフティシートメーカーは、適合している ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートも推奨しています。そのためには、お客様の車両とシートがチャイルドセーフティシートメーカーのモデルリストに掲載されていなければなりません。さらなる情報は、チャイルドセーフティシートメーカーにご連絡いただくか、メーカーのウェブサイトをご覧ください。

体重カテゴリー		サイズカテゴリー	装備	リアシート左/右
キャリコット		F	ISO/L1	X
		G	ISO/L2	X
0	10 kg 以下 約 6 ヶ月以下	E	ISO/R1	IL
0+	13 kg 以下 15 ヶ月以下	E	ISO/R1	IL
		D	ISO/R2	IL
		C	ISO/R3	IL[2]
I	9～18kg 約 9 ヶ月～4 歳	D	ISO/R2	IL
		C	ISO/R3	IL[2]
		B	ISO/F2	IUF

2　サイズカテゴリー C （ISO/R3）のチャイルドセーフティシートを使用している場合は、フロントシートを最も高い位置に動かして、バックレストを直立位置に動かします。フロントシートバックレストがチャイルドセーフティシートに負荷をかけていないことを確認してください。

体重カテゴリー		サイズカテゴリー	装備	リアシート左/右
		B1	ISO/F2X	IUF
		A	ISO/F3	IUF

チャイルドセーフティシートはルーフに接触しない、またはヘッドレストによりルーフに負荷がかからないようにしてください。それに応じて、ヘッドレストの位置を調整してください。チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示にも注意してください。

推奨チャイルドセーフティシート

全体的な注意事項

"助手席のチャイルドセーフティシート" (▷ 61 ページ) および"チャイルドセーフティシートの適切な位置" (▷ 65 ページ) の情報に常に注意してください。

適切なチャイルドセーフティシートについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

車両のシートベルトに装着する推奨チャイルドセーフティシート

体重カテゴリー	**メーカー**	**タイプ**	**認証番号 (E1 ...)**	**注文番号** (A 000 ...)[3]。	**チャイルドセーフティシートセンサー**
カテゴリー 0：10 kg 以下 約 6 ヶ月以下	Britax Römer	ベビーセーフプラス	03 301146 04 301146	970 10 00	対応
		ベビーセーフプラス II	04 301146	970 20 00	対応
カテゴリー 0+：13 kg 以下 約 15 ヶ月以下	Britax Römer	ベビーセーフプラス	03 301146 04 301146	970 10 00	対応

3 カラーコード 9H95

体重カテゴリー	メーカー	タイプ	認証番号 (E1 …)	注文番号 (A 000 …)[3]。	チャイルドセーフティシートセンサー
		ベビーセーフプラス II	04 301146	970 20 00	対応
カテゴリー I：9 ～ 18 kg 約 9 ヶ月～ 4 歳	Britax Römer	デュオプラス	03 301133 04 301133	970 11 00	対応
				970 16 00	非対応
			04 301133	970 21 00	対応
グループ II/ III：15～ 36 kg 約 4～12 歳	Britax Römer	KIDFIX[4]	04 301198	970 18 00	対応
				970 19 00	非対応
				970 22 00	対応

推奨される"ユニバーサル"/"セミユニバーサル" カテゴリーの ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート

体重カテゴリー	サイズカテゴリー	メーカー	タイプ	認証番号 (E1 …)	注文番号[3]	チャイルドセーフティシートセンサー
キャリコット	F	–	–	–	–	–
	G	–	–	–	–	–
カテゴリー 0：10 kg 以下	E	–	–	–	–	–

3 カラーコード 9H95

4 KIDFIX チャイルドセーフティシートを車両に装着する前に、必ずチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。これには装着オプションについての注意事項も含まれます。

体重カテゴリー	サイズカテゴリー	メーカー	タイプ	認証番号（E1 ...）	注文番号[3]	チャイルドセーフティシートセンサー
カテゴリー0+：13 kg以下	E	Britax Römer	ベビーセーフプラス[5]	04 301146	B6 6 86 8224	非対応
	D	–	–	–	–	–
	C	–	–	–	–	–
カテゴリーI：9～18kg	D	–	–	–	–	–
	C	–	–	–	–	–
	B	–	–	–	–	–
	B1	Britax Römer	デュオプラス	03 301133	A 000 970 11 00	対応
				04 301133	A 000 970 16 00	非対応
				04 301133	A 000 970 21 00	対応
	A	–	–	–	–	–

チャイルドプルーフロック

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

子供が同乗しているときは、リアドアとリアウインドウのチャイルドプルーフロックを設定してください。 走行中に子供がドアやサイドウインドウを開き、子供や他の乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

子供をチャイルドセーフティシートに乗せて固定している場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。子供が車両の各部に触れてけがをするおそれがあります。 また、車内が高温または低温になった状態では、命に関わります。

チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。 チャイルドセー

3　カラーコード 9H95

5　チャイルドセーフティシートは左側または右側リアシートにのみ装着できます。

フティシートの各部が高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。 子供が車外に出てけがをしたり、通りかかった車にはねられ致命的なけがをするおそれがあります。

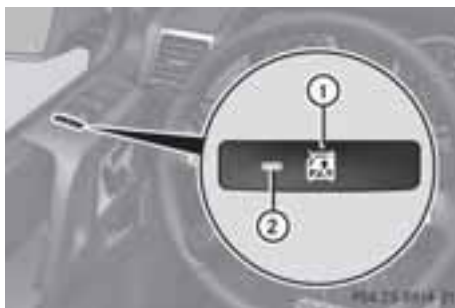
リアドアのチャイルドプルーフロック

リアドアのチャイルドプルーフロックを使用して、各ドアを個別にロックできます。 チャイルドプルーフロックを設定すると、車内のドアレバーを引いてもリアドアが開かなくなります。 車が解錠されているときは、車外のドアハンドルを操作してドアを開くことができます。

▶ **作動させる：** チャイルドプルーフロックレバーを矢印 ②の方向に下に押します。

▶ チャイルドプルーフロックが正常に設定されていることを確認します。

▶ **解除する：** チャイルドプルーフロックレバーを矢印の方向 ①に上方に押します。

リアサイドウインドウのチャイルドプルーフロック機能

▶ **設定 / 解除する：** スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が点灯する場合は、リアサイドウインドウの操作はできません。 運転席ドアのスイッチでは、リアサイドウインドウを操作できます。 表示灯 ② が消灯しているときは、後席のスイッチを使用しての操作が可能です。

ペットを乗せるとき

⚠ **警告**

ペットを車内に放置または固定していない場合、ボタンやスイッチを押してしまう場合があります。

その結果：

- 車両装備を作動させて、挟まれる
- システムをオンまたはオフにして、他の道路交通者を危険にさらす

さらに、事故の際やステアリングを切ったとき、急ブレーキをかけたときに、ペットが投げ飛ばされ、乗員が負傷するおそれもあります。事故やけがの危険性があります。

けっしてペットを車内に放置しないでください。走行中は、適切なキャリーなどを使用して、ペットを必ず正しく固定してください。

走行安全システム

走行安全システムの概要

この項目には、以下の走行安全システムについての情報があります。

- ABS（Anti-lock Braking System：アンチロック・ブレーキング・システム）
- BAS（Brake Assist System：ブレーキアシストシステム）
- アダプティブブレーキライト
- ESP®（Electronic Stability Program：エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBD（Electronic Brake force Distribution：エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）
- アダプティブブレーキ
- トレーラースタビライゼーション

重要な安全上の注意事項

運転者が運転スタイルを合わせていない場合は、走行安全システムは事故の危険性を低減することができません。物理的限界を超えることはできません。走行安全システムは、運転の補助のために設計された単なる支援に過ぎません。先行車両との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせ、先行車両までの安全な距離を保ってください。注意して運転してください。

ℹ 記載されている走行安全システムは、タイヤと路面との間に十分な接触があるときにのみ、可能な限り効果的に作動します。"タイヤとホイール"の項目にあるタイヤ、推奨されるタイヤトレッドの最小深さなどに関する情報に特に注意してください (▷ 250 ページ)。

冬季の走行状況では、常にウィンタータイヤ（M+S タイヤ）を、必要であればスノーチェーンを使用してください。このようにすることでのみ、本項目に記載されている走行安全システムが可能な限り効果的に作動します。

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）

重要な安全上の注意事項

ℹ "重要な安全上の注意事項"に注意してください (▷ 72 ページ)。

⚠ **警告**

ABS に異常があるときは、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。ステアリングでの操縦性およびブレーキ性能が著しく損なわれることがあります。さらに、他の走行安全装備が解除されます。横滑りや事故の危険が高まります。

注意して運転してください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で ABS の点検をしてください。

ABS が故障している場合は、走行安全システムを含めた他のシステムも作動しません。ABS 警告灯 (▷ 177 ページ) およびメーターパネルに表示されるディスプレイメッセージ (▷ 162 ページ) に関する情報に注意してください。

ABS は、ブレーキを効かせたときに車輪がロックしないようにブレーキ圧を制御します。これにより、ブレーキを効かせているときに、ステアリング操作を続けることができます。

路面の状況に関わらず、ABS は約 8 km/h 以上の速度で作動します。滑りやすい路面では、軽くブレーキを効かせたときでも ABS は作動します。

イグニッションをオンにしたときは、メーターパネルの黄色の ABS 警告灯 [ABS] が点灯します。エンジンがかかっているときは消灯します。

ブレーキ操作

ブレーキ時に ABS が作動した場合は、ブレーキペダルに小刻みな振動を感じます。

- **ABS が作動した場合：** ブレーキ操作の状況が終わるまで、ブレーキペダルをいっぱいの力で踏み続けてください。
- **急ブレーキを効かせる：** ブレーキペダルをいっぱいの力で踏んでください。

ブレーキペダルの振動は危険な道路状況を知らせるもので、走行中に特別な注意を喚起させるものとして機能します。

オフロード ABS

LOW RANGE のギアレンジがトランスファーケース (▷ 152 ページ) で選択されている場合は、特に不整地に適した ABS が自動的に作動します。

60 km/h 以下の速度では、ブレーキ中に前輪が周期的にロックします。オフロードを走行しているときは、作動による土を掘る作用により制動距離が減少します。これにより操舵性が制限されます。

BAS（ブレーキアシスト）

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。(▷ 72 ページ)

⚠ **警告**

BAS が故障している場合は、緊急ブレーキの状況での制動距離が長くなります。事故の危険性があります。

緊急ブレーキの状況では、ブレーキペダルを思いっきり踏んでください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

BAS は、緊急ブレーキ状態で作動します。 ブレーキペダルを素早く踏み込むと、BAS が自動的に制動力を高めて制動距離を短縮します。

- 緊急ブレーキ状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
  ABS が車輪のロックを防ぎます。

ブレーキペダルから足を放すと、ブレーキは通常の作動状態に戻ります。 BAS の機能が解除されます。

アダプティブブレーキライト

50 km/h 以上の速度から車両に急ブレーキを効かせた場合、または BAS によりブレーキ操作が支援された場合は、ブレーキライトが素早く点滅します。このようにして、より注意を喚起する方法で後方の車両に警告を行ないます。

70 km/h 以上の速度から停止するまで急ブレーキを効かせた場合は、非常点滅灯が自動で作動します。再度ブレーキを効かせた場合は、ブレーキライトは点灯したままになります。10 km/h 以上で走行した場合は、非常点滅灯は自動的に解除されます。非常点滅灯スイッチ (▷ 100 ページ) を使用して非常点滅灯を解除することもできます。

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）

重要な安全上の注意事項

ℹ "重要な安全上の注意"を遵守してください。(▷ 72 ページ)

⚠ **警告**

ESP®が故障している場合は、ESP®は車両を安定させることはできません。さらに、他の走行安全装備はオフになります。これにより、横滑りや事故の危険性が高くなります。

注意して運転してください。 メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP®の点検を受けてください。

! ブレーキダイナモメーターでは最大10 秒間のみ車両を操作してください。イグニッションをオフにしてください。

ESP® によるブレーキの適用により、ブレーキシステムを損傷することがあります。

! 機能テストや性能テストを行なうには、必ず 2 軸式ダイナモメーターを使用してください。 このようなダイナモメーターで車両を作動させる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。 お守りいただかないと、駆動装置やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

ESP® は走行安定性およびトラクションをモニターします。トラクションはタイヤから路面への力の伝達です。

エンジンをかけた状態でメーターパネルの [ESP OFF] 表示灯が点灯し続けるときは、ESP® の機能が解除されています。

警告灯 [ESP] および警告灯 [ESP OFF] が点灯し続ける場合は、故障により ESP® は作動していません。

警告灯 (▷ 180 ページ) およびメーターパネル (▷ 162 ページ) に表示されるディスプレイメッセージに関する情報を遵守してください。

ESP® は、車の走行ラインが運転者の望む進行方向から外れていると判断すると、1 本以上のタイヤにブレーキをかけ、車の走行姿勢を安定させます。 必要な場合は、エンジン出力を調整して、物理的限界内で運転者の意志に沿った方向に車の向きを保つように作動します。 ESP® は、濡れた路面や滑りやすい路面での発進操作をアシストします。 また、ESP® はブレーキ時の車の姿勢も安定させることができます。

ESP® が作動すると、メーターパネルの警告灯 [ESP] が点滅します。

ESP® が作動する場合

▶ どのような状況でも ESP® を解除しないでください。

▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。

▶ 実際の道路や天候の状況に適するように運転スタイルを合わせてください。

以下のときは、エラーおよび警告メッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されることがあります。

- エンジンをかけた状態で、立体駐車場のターンテーブルで車を回転させたとき
- 立体駐車場の狭くて長いらせん状のアプローチを走行しているとき

以下のような警告灯 / 表示灯も点灯することがあります。

- ESP® 表示灯 [ESP]
- ESP® オフ表示灯 [ESP OFF]
- ABS 警告灯 [ABS]

▶ 道路や交通状況に注意しながら、車両を停止します。

▶ エンジンを停止します。

▶ イグニッションをオフにします。

▶ エンジンを再始動してください。
しばらくすると、メッセージが消え、警告灯 / 表示灯が消灯します。 消灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を調査してください。

i 必ず指定サイズのタイヤを使用してください。 指定サイズのタイヤを装着した場合のみ、ESP® は正しく機能します。

i ディファレンシャルロックがオンの場合は、ABS、BAS および ESP® が自動的にオフになります。

4ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）

ℹ "重要な安全上の注意事項"に注意してください (▷ 72 ページ)。

ESP®を解除した場合でも、トラクションコントロールは設定されたままになります。

▶ 走行状況に適している場合は、オフロードギア **LOW RANGE** に入れてください (▷ 152 ページ)。

トラクションコントロールは ESP®の一部です。

トラクションコントロールは、駆動輪が空転した場合に、駆動輪に個別にブレーキを効かせます。これにより、片側が滑りやすい路面などでの発進や加速を可能にします。さらに、1 本または複数の駆動力のかかる車輪にさらなる駆動トルクが伝達されます。

ESP®を解除した場合でも、トラクションコントロールは設定されたままになります。

トラクションコントロールは、約 60 km/h 以上の速度では作動しなくなります。

トラクションコントロールは、駆動輪が空転した場合に、駆動輪に個別にブレーキを効かせます。これにより、片側が滑りやすい路面などでの発進や加速を可能にします。さらに、1 本または複数の駆動力のかかる車輪にさらなる駆動トルクが伝達されます。

ESP®の解除/設定

ℹ "重要な安全上の注意事項"に注意してください (▷ 72 ページ)。

⚠ **警告**

ESP®を解除すると、ESP® は車両を安定させせなくなります。横滑りや事故の危険が高まります。

以下に記載された状況でのみ ESP® を解除してください。

▶ **解除する：** メーターパネルの [OFF] 警告灯が点灯するまで、スイッチ ① を押します。

▶ **設定する：** メーターパネルの [OFF] 警告灯が消灯するまで、スイッチ ① を押します。

エンジンを始動したときは、ESP®は自動的に設定されます。

ℹ **ECO スタートストップ機能装備車両：** 車両が停止したときは、ECO スタートストップ機能によりエンジンは自動的に停止します。再度発進するときは、エンジンは自動的に始動します。ESP® は、以前の設定状況のままになります。例：エンジンを停止する前に ESP®が解除されていた場合は、エンジンを再度始動したときは ESP®は解除されたままになります。

以下の状況では、ESP®を解除したほうがよいことがあります：

- スノーチェーンを使用しているとき
- 深い雪道で
- 砂地または砂利道で

ESP®を解除した場合は：

- ESP®は、走行安全性を向上させせなくなります
- エンジンのトルクは制限されなくなり、駆動輪が空転するおそれがあります。駆動輪の空転は掘る動作につながり、より良いグリップをもたらします。
- トラクションコントロールは作動したままになります
- ブレーキを効かせたときは、ESP®は支援を行ないます
- および、解除されていても 60 km/h（AMG 車両では 100 km/h 以上）以上で走行しているときは、いずれかの車輪がそのグリップの限界に達したときに ESP®は介入します。

ℹ ESP®が解除されていて、1 つまたはそれ以上の車輪が空転し始めた場合は、メーターパネルの [警告灯] 警告灯が点滅します。このような状況では、ESP®は車両を安定させせることができませせん。

トレーラースタビライゼーション

⚠ **警告**

道路および天候の状況が悪い場合は、トレーラースタビライゼーションは車両/トレーラーの連結が急に逸脱することを防ぐことはできません。重心の高いトレーラーは、ESP®がこれを検知する前に横転することがあります。事故の危険性があります。

常に路面や天候の状況に合わせて慎重に運転してください。

ESP®が解除されるか、または故障のために作動しなくなると、トレーラースタビライゼーションは作動しません。

トレーラー連結車両が急に傾き始めた場合は、ブレーキをしっかりと踏むことのみにより、トレーラー連結車両を安定させることができます。

このような状況では、ESP®は運転者の支援を行ない、連結されている車両/トレーラー連結が傾き始めたことを検知することができます。ESP®は、トレーラー連結車両が安定するまでブレーキを効かせ、エンジン出力を制限することにより、車両を減速させます。

トレーラースタビライゼーションは、約 60 km/h 以上の速度で作動します。

EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）

ℹ "重要な安全上の注意事項"を遵守してください。 (▷ 72 ページ)

⚠ **警告**

EBD が故障した場合には、急ブレーキ時などには後輪がロックすることがあります。 これにより、横滑りして事故が起きる危険性が高くなります。

操縦性の変化に応じて慎重に運転してください。 メルセデス・ベンツ指定サービス工場でブレーキシステムの点検を受けてください。

表示および警告灯 (▷ 177 ページ) およびディスプレイメッセージ (▷ 162 ページ) に関する情報を遵守してください。

EBD は、後輪のブレーキ圧をモニターしてコントロールを行ない、ブレーキ時の走行安全性を高めます。

アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキはブレーキの安全性を向上させます。ブレーキ機能に加えて、アダプティブブレーキはホールド機能 (▷ 145 ページ) およびヒルスタートアシスト機能 (▷ 117 ページ) も備えています。

盗難防止警報システム

イモビライザー

▶ **作動させる：** エンジンスイッチからキーを取り外します。

▶ **解除する：** エンジンをかけます。

イモビライザーは、正規のキー以外ではエンジンを始動させない盗難防止装置です。

ℹ イモビライザーは、エンジンを始動すると解除されます。

ATA（盗難防止警報システム）

▶ **待機状態にする：**キーで車両を施錠します。
表示灯 ① が点滅します。約 15 秒後に、警報システムが待機状態になります。

▶ **解除する：** キーで車両を解錠します。

ℹ その後にサイドドアまたはリアドアを開かない場合は、約 40 秒後に警報システムが再度オンに戻ります。

▶ **警報を停止する：**エンジンスイッチにキーを差し込みます。
警報が停止します。

または

▶ キーの [解錠] または [施錠] スイッチを押します。
警報が停止します。

システムが待機状態で以下を開いた場合は、視覚的および聴覚的な警報が発せられます：

- ドア
- エマージェンシーキーを使用してのドア
- テールゲート/テールゲート
- ボンネット

以下の場合も警報は作動します：

- 車両の位置が変わった
- ウインドウが割れた

例えば、警報を作動させた開いたドアを閉じても、警報は解除されません。

けん引防止機能

機能

けん引防止機能が待機状態のときに車両の傾きを感知すると、サイレンが鳴り非常点滅灯が点滅します。 この警報は、ジャッキアップにより車両が斜めにが持ち上げられたときなどに作動します。

設定スイッチ

▶ **待機状態にする：** キーで車両を施錠します。
約 30 秒後にけん引防止機能が待機状態になります。

解除スイッチ

▶ **解除する：** キーで車両を解錠します。
けん引防止機能は自動的に解除されます。

ℹ 誤作動を防止するため、以下のような状況ではけん引防止機能を解除してください。

- けん引されるとき
- カーフェリーや車両運搬車で運ばれるとき
- 立体駐車場などのターンテーブルに駐車するとき

解除する

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が短く点灯します。

▶ リモコン操作で、車を施錠します。
車両が解錠され、再度施錠されるまでけん引防止機能は解除されたままになります。

室内センサー

機能

室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを感知すると、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。 たとえば、車内に人が侵入したときなどに警報が作動します。

設定スイッチ

▶ 以下のことを確認してください。

- サイドウインドウが閉じていること
- スライディングルーフが閉じていること
- ルームミラーやルーフトリムのグリップハンドルにマスコットなどをかけていないこと

以上のことは、警報の誤作動を防ぎます。

▶ リモコン操作で、車を施錠します。
室内センサーが約 30 秒後に待機状態になります。

解除スイッチ

▶ リモコン操作で、車を解錠します。
室内センサーが自動的に解除されます。

ℹ 誤作動を防止するため、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残るとき
- サイドウインドウが開いているとき
- スライディングルーフが開いているとき

解除スイッチ

- エンジンスイッチからキーを抜きます。
- スイッチ ① を押します。
  表示灯 ② が短く点灯します。
- リモコン操作で、車を施錠します。
  車両が解錠され、再度施錠されるまで室内センサーは解除されたままになります。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。 国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 28 ページ).

キー

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

付き添いのない状態で子供が車両に残された場合は、以下を行なうおそれがあります。

- ドアを開き、それにより他の人または道路使用者を危険にさらす
- 車両から降りて、走ってくる車両にぶつかる
- 車両の装備を操作して挟まれたりする

さらに以下により、車両が動いてしまうように子供が設定するおそれもあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションのパーキングポジション P からのシフト、またはマニュアルトランスミッションのニュートラルへのシフト
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供および動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ **警告**

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

⚠ **警告**

キーに、重い物や大きなアクセサリー等を付けていると、エンジンスイッチのキーが不意にまわるおそれがあります。そのため、エンジンが停止するおそれがあります。 事故の危険性があります。

キーには重い物や大きなアクセサリー等を付けないでください。 操作の邪魔になるアクセサリー等は、エンジンスイッチにキーを差し込む前に取り外してください。

⚠ **警告**

キーに、重い物や大きなアクセサリー等を付けていると、エンジンスイッチのキーが不意にまわるおそれがあります。そのため、エンジンが停止するおそれがあります。 事故の危険性があります。

キーには重い物や大きなアクセサリー等を付けないでください。 操作の邪魔になるアクセサリー等は、エンジンスイッチにキーを差し込む前に取り外してください。

キーの機能

⚠ **警告**

付き添いのない状態で子供が車両に残された場合は、以下を行なうおそれがあります。

- ドアを開き、それにより他の人または道路使用者を危険にさらす
- 車両から降りて、走ってくる車両にぶつかる
- 車両の装備を操作して挟まれたりする

さらに以下により、車両が動いてしまうように子供が設定するおそれもあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションのパーキングポジション P からのシフト、またはマニュアルトランスミッションのニュートラルへのシフト
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供および動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ **警告**

キーに、重い物や大きなアクセサリー等を付けていると、エンジンスイッチのキーが不意にまわるおそれがあります。そのため、エンジンが停止するおそれがあります。 事故の危険性があります。

キーには重い物や大きなアクセサリー等を付けないでください。 操作の邪魔になるアクセサリー等は、エンジンスイッチにキーを差し込む前に取り外してください。

① 🔒 車両を施錠する
② 🔓 車両を解錠する

▶ **集中解錠する：** 🔓 スイッチを押します。

解錠して約 40 秒以内に車両を開かなかった場合：

- 車両が再度施錠されます
- 盗難防止が再作動します。

▶ **集中施錠する：** 🔒 ボタンを押します。

キーにより、以下が集中施錠/解錠されます。

- ドア
- テールゲート
- 燃料給油口フラップ

ℹ 解錠したときは、方向指示灯が 1 回点滅します。施錠したときは、3 回点滅します。

車両が施錠されたことを確認できる、確認音を設定することもできます。確認音は、マルチファンクションディスプレイを使用して、設定および解除することができます (▷ 162 ページ)。

マルチファンクションディスプレイで設定してある場合は、周囲が暗いときにロケイターライティングが点灯します (▷ 162 ページ)。

ロックシステムの設定変更

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

エマージェンシーキー

全体的な注意事項

キーで車両を解錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーの取り外し

▶ ロック解除キャッチ ① を矢印の方向に押して、同時にエマージェンシーキー ② をキーから取り外します。

キーの電池

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。 電池を飲み込んでしまうと、深刻な健康上の問題を引き起こすことがあります。 致命的なけがをするおそれがあります。

電池は子供の手の届かないところに置いてください。 電池を飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

環境保護に関する注意

電池には環境汚染物質が含まれています。 電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられています。 使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。

電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。 使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

電池の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことを、メルセデス・ベンツは推奨します。

電池の点検

▶ 🔒 または 🔓 スイッチを押します。

バッテリーチェックランプ ① が短時間点灯すれば、電池は正常です。

バッテリーチェックランプ ① がテスト中に点灯しない場合は、電池が放電しています。

▶ 電池を交換してください (▷ 84 ページ)。

ℹ 電池はメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお求めください。

ℹ 電池の交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

ℹ 信号の到達範囲内でキーの電池を点検したときは、🔒 または 🔓 ボタンを押すと、

- 施錠されます、または
- 車両が解錠されます

電池の交換

CR 2025 3 V の電池が必要です。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 84 ページ) 。

(▷ 84 ページ)

▶ エマージェンシーキー ② をキーの開口部に差し込み、電池カバー ① が開くまで矢印の方向に押します。 このとき、指でカバーを押さえないでください。
▶ 電池カバー ① を取り外します。

▶ キーを裏返して手の平に載せ、電池 ③ が外れるまでキーを軽くたたきます。
▶ 電池のプラス (+) 面を上にして、新しい電池を取り付けます。 このとき、毛羽立ちのない布で電池を持つようにしてください。
▶ 電池の表面に糸くず、脂分、汚れが付着していないことを確認してください。
▶ 電池カバー ① の前側にある凸部をキーに差し込んでから、カバーを押して閉じます。
▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。
▶ キーのすべてのボタンが正常に機能することを確認します。

キーのトラブル

これに関する情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ドア

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

付き添いのない状態で子供が車両に残された場合は、以下を行なうおそれがあります。

- ドアを開き、それにより他の人または道路使用者を危険にさらす
- 車両から降りて、走ってくる車両にぶつかる
- 車両の装備を操作して挟まれたりする

さらに以下により、車両が動いてしまうように子供が設定するおそれもあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションのパーキングポジション P からのシフト、またはマニュアルトランスミッションのニュートラルへのシフト
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供および動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります：

- 車内からドアを解錠して開く
- 車内からの車両の集中施錠および解錠
- 車速感応ドアロック
- クロージングサポーター
- 運転席ドアの解錠（エマージェンシーキー）
- 車両の施錠（エマージェンシーキー）
- リアドアの開閉

リアドア

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

燃焼型エンジンは、一酸化炭素などの有毒な排気ガスを排出します。 エンジン作動中、とくに走行中にリアドアが開いていると、排気ガスが車内に入るおそれがあります。 中毒を起こすおそれがあります。

リアドアを開く前に、エンジンをオフにしてください。 リアドアを開いたまま走行しないでください。

! テールゲートは、開くと片側に回転します。 したがって、十分なスペースが確保されているか確認してください。

ⓘ ラゲッジルーム内にキーを残さないようにしてください。不注意で締め出されるおそれがあります。

開く

まずロック解除してからでないと、リアドアは開けません。

▶ キーの [解錠] ボタンを押します。

▶ ロック解除ボタン ① を押して、ドアハンドル ② を引きます。

▶ リアドアを開きます。

閉じる

▶ リアドアを車外から押して閉じます。

▶ 必要な場合は、キーの [施錠] スイッチを使って車両をロックします。

サイドウインドウ

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

閉じる部分に身体を近づけていると、サイドウインドウを閉じる際に挟まれるおそれがあります。けがをする危険があります。

閉じる手順の間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。 誰かが挟まれたら、スイッチを放すか、あるいはスイッチを押してサイドウインドウをもう一度開きます。

⚠ 警告

サイドウインドウを開けているときに、サイドウインドウが動くにつれて、体の一部がサイドウインドウとドアフレームの間に引き込まれて挟まるおそれがあります。 けがをするおそれがあります。

開けている最中は、誰もサイドウインドウに触れないようにしてください。 誰か

が挟まれてしまった場合は、スイッチを放すか、あるいはスイッチを引いてもう一度サイドウインドウを閉じます。

⚠ 警告

とくに保護者のいない状態で子供を車内に残すと、サイドウインドウを操作して挟まれるおそれがあります。 けがをするおそれがあります。

リアサイドウインドウのチャイルドプルーフロックを作動させます。 車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。 保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

⚠ 警告

付き添いのない状態で子供が車両に残された場合は、以下を行なうおそれがあります。

- ドアを開き、それにより他の人または道路使用者を危険にさらす
- 車両から降りて、走ってくる車両にぶつかる
- 車両の装備を操作して挟まれたりする

さらに以下により、車両が動いてしまうように子供が設定するおそれもあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションのパーキングポジション P からのシフト、またはマニュアルトランスミッションのニュートラルへのシフト
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。付き添いのない状態で子供および動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- サイドウインドウの開閉
- すべてのサイドウインドウの開閉

サイドウインドウのトラブル

⚠ 警告

挟み込み防止機能が作動しない状態で、またはより強い力でサイドウインドウが閉じると、重傷または致命的な傷害を受けるおそれがあります。 サイドウインドウを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。

トラブル：サイドウインドウとドアフレームの間に障害になる物が挟まっている

▶ 障害物を取り除いてください。

▶ サイドウインドウを閉じます。

トラブル：サイドウインドウが全閉しない。原因が分からない。

サイドウインドウを閉じているとき、ウインドウが障害物を検知して停止し、その位置から少し下降した場合は、以下の操作を行なってください。

▶ その状態からただちに再度スイッチを引き続けて、サイドウインドウを閉じます。

サイドウインドウを閉じているときに、ウインドウが再度障害物を検知して停止し、その位置から少し下降した場合は、以下の操作を行なってください。

▶ その状態からただちに再度スイッチを引き続けて、サイドウインドウを閉じます。

ℹ 故障のためにサイドウインドウを開閉できなくなった場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

スライディングルーフ

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

スライディングルーフを開閉するときに、ルーフの移動範囲に身体を近づけると、はさまれるおそれがあります。 けがをするおそれがあります。

開閉操作中は身体を近づけすぎないようにしてください。

はさまれた場合：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動操作中に、どの方向でもスイッチを短時間押します。

開閉手順が中断されます。

⚠ **警告**

とくに保護者のいない状態で子供を車内に残すと、スライディングルーフを操作して挟まれるおそれがあります。けがをするおそれがあります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

! パノラミックスライディングルーフに雪や氷が付着した状態で操作しないでください。 スライディングルーフが故障する原因になります。

スライディングルーフの開口部から物を出さないようにしてください。 スライディングルーフのシール部が損傷するおそれがあります。

ℹ スライディングルーフが開いているときは、通常の風切り音に加えて共振音が発生するおそれがあります。これらは、車内の微細な圧力変動によるものです。これらのノイズを低減または除去するためには、スライディングルーフの位置を変更するか、サイドウインドウを少し開いてください。

スライディングルーフの開閉

オーバーヘッドコントロールパネル
① 上げる
② 開く
③ 閉じる/下げる

▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします(▷ 116 ページ)。

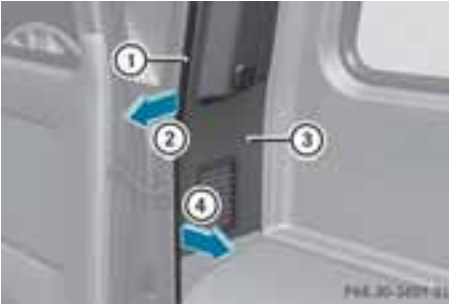
▶ [スイッチ] スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

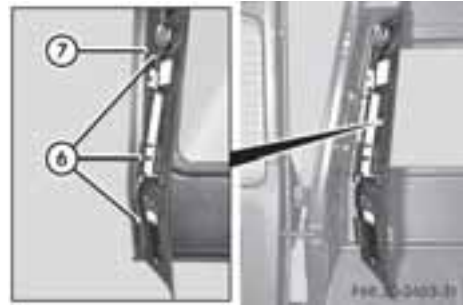
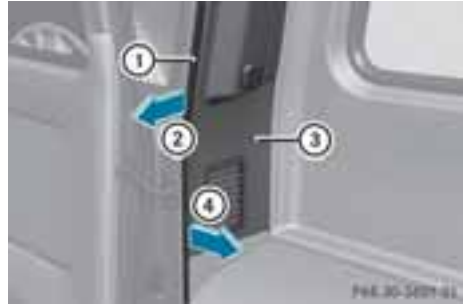
▶ **自動で開く：** [スイッチ] スイッチを手応えがあるところを越えるまで矢印 ② の方向に押します。
スライディングルーフが完全に開きます。

▶ **自動作動を中断する：** [スイッチ] スイッチを再度押すか、引きます。

ℹ 自動作動は開くときにのみ使用できます。

スライディングルーフの手動操作

アクチュエーターは、ラゲッジルーム内、リアウォールトリム裏の左側にあります。

▶ リアドアを開きます。
▶ ドアピラーからエッジプロテクション ① を矢印の方向 ② に取り外します。
▶ リアパネルトリム ③ を矢印の方向 ④ に電気コネクターに手が届くように必要な分だけ取り外します。
▶ 電気コネクターの接続を切ります。
▶ リアパネルトリム ③ を完全に取り外します。

▶ ホイールレンチ ⑤ を車載工具 (▷ 233 ページ)から取り出します。
▶ ホイールレンチ ⑤ をアクチュエーターのヘキサゴンナットに当てます。
▶ **開く：**ホイールレンチ ⑤ を反時計回りに回します。
▶ **閉じる：** ホイールレンチ ⑤ を時計回りに回します。

▶ 電気コネクタを再度接続します。
▶ リアパネルトリム ③ を再び取り付けます。
取り付けているときに、リアパネルトリム ③ の突起 ⑥ を車両のサイドウォール ⑦ に掛けます。
▶ エッジプロテクション ① を再び取り付けます。
▶ リアドアを閉じます。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。 国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 28 ページ).

運転席の適切なシートポジション

運転席シートの位置については、以下の項目に関する安全上の注意事項に従ってください。

- シート(▷ 92 ページ)
- ステアリング(▷ 96 ページ)
- シートベルト (▷ 44 ページ)

以下に関する情報は、デジタル版取扱説明書に記載されています。

- シートおよびステアリングの調整
- シートベルトの着用

シート

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

保護者のいない状態で、お子様がシートを調整すると、挟み込まれる可能性があります。 けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

エンジンスイッチにキーがないときでも、シートを調整することができます。

⚠ **警告**

シートを調整するとき、シートガイドレールなどに挟み込まれるおそれがあります。 けがの危険性があります。

シートを調整する場合、身体がシートの動いている部分に触れていないというこを確認してください。

"エアバッグ" (▷ 49 ページ) および"子供を乗せるとき" (▷ 55 ページ) についての注意事項に注意してください。

⚠ **警告**

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

⚠ **警告**

ヘッドレストが合っておらず、正しく調整されていない場合、本来の機能を果たすことができなくなります。 これにより、事故またはブレーキ作動時に頭部および首周りにけがをする危険性が高まります。

必ずヘッドレストを取り付けた状態で走行してください。 走行を開始する前に、ヘッドレストの中央が乗員の目の高さにあることを確認してください。

ヘッドレストを調整するときは、フロントおよびリアシートのヘッドレストを入れ違えていないことを確認します。さもないと、ヘッドレストの高さと角度を正しく調整することができなくなります。

できるだけ頭部に近づくようにヘッドレストを調整します。

⚠ **警告**

運転席が固定されていないと、走行中に不意に動くおそれがあります。 車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、必ず運転席が固定されていることを確認してください。

⚠ **警告**

シートの高さは慎重に調整しないと、挟み込まれて負傷するおそれがあります。とくに子供は、電動シート調整スイッチを誤って押してしまい、挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

シートが動いている間は、シート調整システムのレバー部品の下に手や身体などを入れないでください。

⚠ **警告**

シートベルトがシートベルトガイドにない場合は、意図した保護レベルを提供しなくなります。シートベルトの不適切な着用は、さらなるけがの原因になるおそれもあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

走行を開始する前に、シートベルトがシートベルトガイドにあり、すべての車両乗員がシートベルトを正しく着用していることを常に確認してください。

! シートとシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときは、シートヒーターを使用しないでください。シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートカバーを清掃してください。"日常の手入れ"をご覧ください。
- シートの上に重い物を載せないでください。 また、シートクッションの上にナイフやくぎ、工具などの鋭利な物を置かないでください。 シートはできるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、ブランケットやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシート、補助シートなどにより、シートを覆わないでください。

! シートの前後位置を調整するときは、足元やシートの下または後方に物がないことを確認してください。 シートや物を損傷するおそれがあります。

! リアシートを前方に倒しているときは、フロントシートを最後方位置に動かすことはできません。 シートとリアシートを損傷するおそれがあります。

! バックレストとヘッドレストの高さを調整する前に、サンバイザーが格納されていることを確認してください。 ヘッドレストを完全に引き出した場合、ヘッドレストとサンバイザーが接触するおそれがあります。

ℹ フロントドアが開いている場合は、イグニッションをオフにした後 30 分まではシートを調整することができます。

ℹ リアシートのヘッドレストは取り外すことができます (▷ 94 ページ)。

さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

ℹ ラゲッジルームの拡大（リアシートを前方に倒す）についてのさらなる情報 (▷ 213 ページ)。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります：

- シートの調整
- ヘッドレストの調整
- リアのヘッドレストの取り外し/取り付け
- マルチコントロールシートバックの調整
- 電動ランバーサポートの調整
- シートベンチレーターの作動/停止

ヘッドレストの調整

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

ヘッドレストが合っておらず、正しく調整されていない場合、本来の機能を果たすことができなくなります。 これにより、事故またはブレーキ作動時に頭部および首周りにけがをする危険性が高まります。

必ずヘッドレストを取り付けた状態で走行してください。 走行を開始する前に、ヘッドレストの中央が乗員の目の高さにあることを確認してください。

ヘッドレストを調整するときは以下に注意してください：

▶ フロントとリアシートのヘッドレストを入れ替えないでください。
さもないと、ヘッドレストの高さと角度を正しく調整することができなくなります。

▶ できるだけ頭部に近づくようにヘッドレストを調整します。

フロントヘッドレストの高さの調整

① ヘッドレストの高さ
② シートクッションの角度
③ シートの高さ
④ シートの前後位置の調整
⑤ バックレストの角度

▶ ヘッドレスト調整スイッチ ① を矢印の方向に上または下にスライドします。

ラグジュアリーヘッドレストの調整

▶ **ヘッドレストのサイドサポートを調整する：**右側および/または左側のサイドサポート ① を希望の位置に押すか、または引きます。
▶ **ヘッドレストの角度を調整する：** ヘッドレストを矢印 ② の方向に引くか、または押します。

フロントシートのヘッドレストの調整

バッテリーが完全に放電したり、接続が外れた場合など、電源供給が遮断された後は、フロントシートのヘッドレストをリセットする必要があります。

▶ センターコンソールのカップホルダーが格納されていることを確認してください (▷ 218 ページ) 。
▶ シートをできるだけ前方に動かし、ヘッドレストをできるだけ中に入れます。

リアシートのヘッドレスト

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

ヘッドレストが合っておらず、正しく調整されていない場合、本来の機能を果たすことができなくなります。 これにより、事故またはブレーキ作動時に頭部および首周りにけがをする危険性が高まります。

必ずヘッドレストを取り付けた状態で走行してください。 走行を開始する前に、ヘッドレストの中央が乗員の目の高さにあることを確認してください。

ヘッドレストを調整するときは以下に注意してください：

▶ フロントとリアシートのヘッドレストを入れ替えないでください。
さもないと、ヘッドレストの高さと角度を正しく調整することができなくなります。

▶ できるだけ頭部に近づくようにヘッドレストを調整します。

リアシートのヘッドレストの高さの調整

▶ ヘッドレストがいっぱいまで下がっている場合は、ロック解除スイッチ ① を押すことが必要です。
▶ **上げる：** 希望の高さになるまで、ヘッドレストを引き上げます。
▶ **下げる：** ロック解除スイッチ ① を押して、希望の位置になるまでヘッドレストを押し下げます。

リアシートのヘッドレストの脱着

▶ **取り外す：**ヘッドレストを止まるまで引き上げます。
▶ ロック解除スイッチ ① を押して、ヘッドレストをガイドから引き抜きます。
▶ **取り付ける：** ヘッドレストをバックレストのガイドに合わせます。

ℹ 進行方向に見て、ガイドロッドの切り欠きが左側になければなりません。

▶ 適切な位置でロックされる音が聞こえるまで、ヘッドレストを押し下げます。

シートヒーターの作動/停止

全体的な注意事項

⚠ **警告**

シートヒーターを連続して使用すると、シートクッションおよびバックレストが

異常に過熱する原因となります。高温により、温度変化を感知できにくい乗員や、異常な高温に対処できない乗員の健康に悪影響を与えたり、低温火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。
したがって、シートヒーターを連続して使用しないでください。

スイッチの赤い表示灯は、選択したレベルを表します。

▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。

ℹ バッテリー電圧が著しく低下した場合は、シートヒーターが停止することがあります。

フロントシートヒーターの作動/停止の切り替え

▶ **作動させる：**希望のヒーターレベルが設定されるまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

▶ **停止する：**すべての表示灯が消灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

ℹ 約 8 分後に、システムはレベル **3** からレベル **2** に自動的に切り替わります。
約 10 分後に、システムはレベル **2** からレベル **1** に自動的に切り替わります。
レベル **1** に設定された約 35 分後に、システムは自動的に停止します。

リアシートヒーターの作動/停止の切り替え

▶ **作動させる：**希望のヒーターレベルが設定されるまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

▶ **停止する：**すべての表示灯が消灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

ℹ 約 8 分後に、システムはレベル **3** からレベル **2** に自動的に切り替わります。
約 10 分後に、システムはレベル **2** からレベル **1** に自動的に切り替わります。
レベル **1** に設定された約 35 分後に、システムは自動的に停止します。

シートヒーターのトラブル

これについての情報はデジタル版取扱説明書にあります。

ステアリング

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。
エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミ

ラーを調整し、シートベルトを装着してください。

⚠ 警告

子供がステアリングを調整するとステアリングに挟まれる可能性があります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

エンジンスイッチにキーがないときでも、電動調整式ステアリングを調整することができます。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ステアリングの調整
- ステアリングヒーター
- イージーエントリー機能

ミラー

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ルームミラー
- ドアミラー
- 自動防眩ルームミラー＆ドアミラー（運転席側）
- リバースポジション機能付ドアミラー（助手席側）

メモリー機能

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- メモリーの設定
- 記憶した位置を呼び出す

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。 国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 28 ページ).

車外ライト

重要な安全上の注意事項

日中にライトなしで走行したい場合は、マルチファンクションディスプレイで"デイタイムドライビングライト"機能をオフにしてください (▷ 162 ページ)。

デジタル版取扱説明書の情報

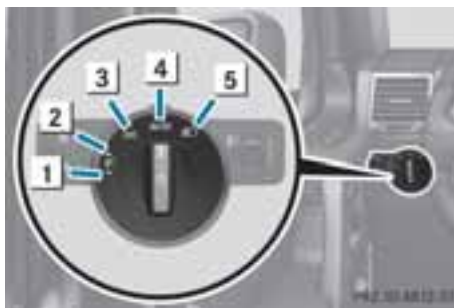
デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 非常点滅灯
- ヘッドライトウォッシャー
- ヘッドライト内側の曇り

ライトスイッチ

作動

! 車両を離れるときは、車幅灯およびロービームヘッドライトをオフにしてください。これにより、バッテリーを放電から防ぎます。

! バッテリーが過放電すると、次回のエンジン始動を可能にするために、車幅灯またはパーキングランプが自動的に消灯します。法的基準にしたがって車両を安全で十分な明るさのところに常に駐車してください。車幅灯 [車幅灯] を何時間も連続してご使用にならないでください。可能であれば、[P] 右側または [P] 左側パーキングランプを点灯してください。

1 [左側パーキングライト] 左側パーキングライト
2 [右側パーキングライト] 右側パーキングライト
3 [車幅灯] 車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
4 AUTO オートマチックヘッドライトモード/デイタイムドライビングライト
5 [ロービーム] ロービーム/ハイビームヘッドライト

車両から離れるときに警告音が鳴っている場合は、ライトが点灯していることがあります。

▶ ライトスイッチを AUTO にまわします。

方向指示灯、ハイビームヘッドライト、ヘッドライトのパッシングは、コンビネーションスイッチを使用して操作します (▷ 102 ページ)。

車外ライト（車幅灯/パーキングライトを除く）は、以下を行なった場合に自動的に消灯します：

- エンジンスイッチからキーを抜いた
- キーが 0 の位置のときに運転席ドアを開いた

ロービームヘッドライト

- **ロービームヘッドライトを点灯する：** エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわすか、エンジンを始動します。
- ライトスイッチを [ロービーム] にまわします。メーターパネルの表示灯 [ロービーム] が点灯します。

フォグランプ（AMG 車両を除く）

⚠ **警告**

ライトスイッチを AUTO に設定しているときは、霧、雪、または霧雨のような天候状態のために視界を悪くする他の原因がある場合は、ロービームヘッドライトが自動的にオンにならないことがあります。事故の危険性があります。

このような状況のときは、ライトスイッチを [ロービーム] にまわします。

ヘッドライトのオートモード機能は単なる支援にすぎません。車両の照明に関する責任は、常に運転者にあります。

- **フォグランプを点灯する：** エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわすか、エンジンを始動します。
- ライトスイッチを [車幅灯]、[ロービーム] または AUTO にまわします。
- [フォグランプ] スイッチを押します。メーターパネルの緑色の表示灯 [フォグランプ] が点灯します。
- **フロントフォグランプを消灯する：** [フォグランプ] スイッチを押します。メーターパネルの緑色の表示灯 [フォグランプ] が消灯します。

フロントフォグランプ装備車両のみに、"フォグランプ"機能があります。

フォグランプは霧の中を走行するとき、および同様に視界が悪いときにのみ使用してください。対向車両や前方の車両の迷惑になります。

リアフォグランプ

- **リアフォグランプを点灯する：** エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわすか、エンジンを始動します。
- ライトスイッチを [ロービーム] または AUTO にまわします。
- [リアフォグランプ] スイッチを押します。メーターパネルの黄色の表示灯 [リアフォグランプ] が点灯します。
- **リアフォグランプを消灯する：** [リアフォグランプ] スイッチを押します。メーターパネルの黄色の表示灯 [リアフォグランプ] が消灯します。

車幅灯

- **点灯する：** ライトスイッチを [車幅灯] にまわします。

パーキングライト

パーキングライトを点灯すると、車両の対応する側が点灯します。

- **パーキングライトを点灯する：** エンジンスイッチにキーがないか、または **0** の位置にあります (▷ 116 ページ)。
- ライトスイッチを [←P] （車両の左側）または [P→] （車両の右側）にまわします。

コンビネーションスイッチ

① ハイビームヘッドライト
② 右側の方向指示灯
③ パッシングライト
④ 左側の方向指示灯

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- 方向指示灯
- ハイビームヘッドライト
- パッシングライト

コーナリングライト機能

コーナリングライト機能は、例えば曲がる方向の広い角度にわたる道路の照明を向上させ、きついカーブでの視認性をより良くします。ロービームヘッドライトが点灯していて、フォグランプが消灯している場合にのみ、作動させることができます。

作動： 40 km/h 以下の速度で走行していて、方向指示灯を作動させた、またはステアリングをまわした場合。

非作動： 40 km/h 以上の速度で走行しているか、またはステアリングを直進位置にまわした場合

コーナリングライト機能は短時間点灯したままになりますが、3 分後に自動的に消灯します。

ルームライト

ルームライトとオーバーヘッドコントロールユニットの概要は"はじめに"をご覧ください。

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報があります。

- ルームライトの自動点灯
- ルームライトの手動点灯
- フロントドアのカーテシーライト

電球の交換

重要な安全上の注意事項

⚠ **危険**

キセノンバルブには高電圧が発生しています。キセノンバルブのカバーを取外し、電気端子に触れると、感電するおそれがあります。 致命的なけがをするおそれがあります。

決して、キセノンバルブの構成部品や電気端子に触れないでください。 キセノンバルブに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

⚠ **警告**

作動時、電球、ランプおよびコネクターは非常に熱くなります。 電球を交換するとき、これらの構成部品を触れると火傷するおそれがあります。 けがの危険性があります。

電球を交換する前に、これらの構成部品を冷ましてください。

落ちた、またはガラス管に引っかき傷がある電球は使用しないでください。

以下のとき、電球が破裂するおそれがあります：

- 触れた
- 熱い
- 落とした
- 引っかいた

この用途のために設計された放電管の電球のみを使用してください。同一種類で、指定された電圧の予備電球のみを取り付けてください。

ガラス管上に付いた痕は、電球の寿命を短くします。ガラス管を素手で触らないでください。必要な場合は、冷えているときにガラス管をアルコールで清掃し、毛羽立ちのない布で拭き取ります。

作業している間は、電球を水分から保護してください。電球に液体が触れないようにしてください。

キセノンライト

キセノンライトが装備されている場合は、以下のように確認することができます。エンジンを始動したときに、キセノンライトからの光の軸が上から下に動き、元に戻ります。この動きを確認するためには、エンジンを始動する前にライトを点灯しなければなりません。

電球やライトは、車両安全性の重要な一部です。そのため、これらの機能が正常であることを常に確認してください。ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

LED ライト

キセノンバルブおよび LED 電球は交換することはできません。LED 電球はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

電球やライトは、車両安全性の重要な一部です。そのため、これらの機能が正常であることを常に確認してください。ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

電球を交換する前に

以下の電球は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください：

- ドアミラーの補助方向指示灯
- ハイマウントストップライト
- ハイビーム/ロービームヘッドライト（キセノンバルブ）
- デイタイムドライビングライト
- ライセンスプレートライト

ⓘ ライセンスプレートライトのそれぞれの LED のセグメントは、マルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージを表示することなく故障することがあります。ライセンスプレートライトは定期的に点検してください。必要な場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

以下の電球を交換することができます：

- フロントフォグランプ/フォグランプ機能付コーナリングライト
- 方向指示灯（フロント）
- ブレーキ/テールライト
- 方向指示灯（リア）
- テールライト/パーキングライト
- バックライト
- リアフォグランプ

その他の電球の取り扱い

キセノン電球以外にもご自身で交換できない電球があります。リストに挙げられている電球のみを交換してください (▷ 104 ページ)。お客様自身で交換できない電球は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

電球交換に支援が必要な場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

新しい電球のガラス管には素手で触れないようにしてください。少しの汚れでもガラス表面で溶けて、電球の寿命が短くなります。電球を取り付けるときは常に、柔らかい布を使用するか、バルブ底部にのみ触れるようにしてください。

適切な種類の電球のみを使用してください。

新しい電球が点灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

電球やライトは、車両安全性の重要な一部です。そのため、これらの機能が正常であることを常に確認してください。ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

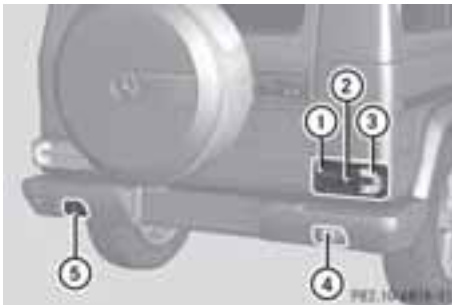
電球交換の概要 - 電球

フロントの電球

以下の電球を交換できます。電球の種類の詳細は凡例をご覧ください。

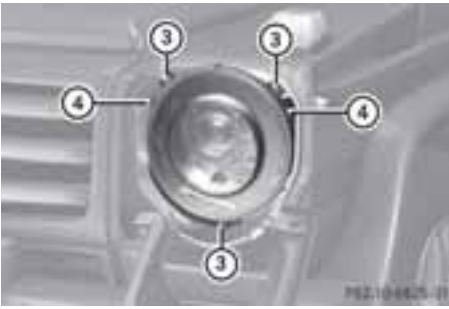
① 方向指示灯：P 21 W（白色ランプレンズ装備車両 PY 21 W（黄色））
② パーキングライト/車幅灯：W 5 W 青
③ フォグランプ機能付きコーナリングライト機能：H11 55 W（AMG 車両を除く）

リアの電球

以下の電球を交換できます。電球の種類の詳細は凡例をご覧ください。

① テールライト/パーキングライト：R 5 W
② ブレーキライト/テールライト：P 21/5 W
③ 表示灯：PY 21 W（黄色）
④ バックライト：P 21 W
⑤ リアフォグランプ：P 21 W

フロントの電球交換

車幅灯 / パーキングランプ

▶ ライトを消灯します。
▶ ネジ ① を緩めますが、取り外さないでください。
▶ パネル ② を矢印の方向に上方に取り外します。

▶ スクリューを外します ③。

ℹ ネジ ③ のみを取り外してください。調整ネジ ④ をまわさないでください。調整ネジ ④ がまわってしまった場合は、ヘッドライトの調整をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

▶ ヘッドライト ⑤ を取り外します。

▶ 電球ホルダー ⑥ を軽く押して、同時に反時計回りにまわして引き出します。

▶ 電球 ⑦ を電球ホルダー ⑥ から取り出します。

▶ 新しい電球を電球ホルダー ⑥ に差し込みます。

▶ ソケット ⑥ をランプに差し込み、時計回りにまわします。

▶ ヘッドライト ⑤ を差し込みます。

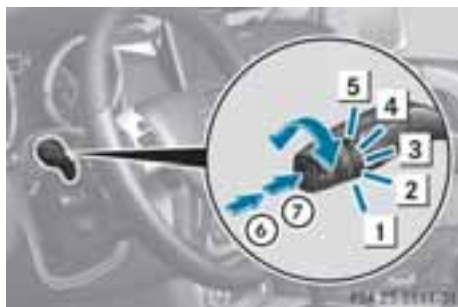
▶ スクリュー ③ を交換し締め付けます。

▶ カバー ② を合わせます。

▶ スクリュー ① を交換し締め付けます。

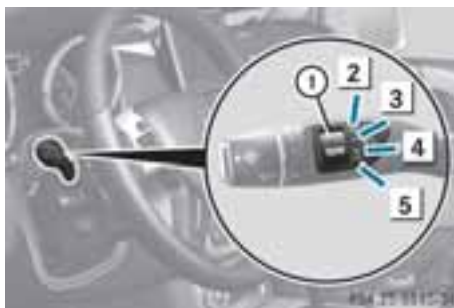
フロントウインドウワイパー

フロントウインドウワイパーの作動/停止の切り替え

ワイパーブレードが摩耗した場合は、フロントウインドウを適切に拭き取ることができなくなります。交通状況の確認を妨げるおそれがあり、そのため事故の原因になります。

コンビネーションスイッチ
1 0 フロントウインドウワイパーの停止
2 ••• 間欠拭き取り、低速（レインセンサーは低感度に設定）
3 •••• 間欠拭き取り、高速（レインセンサーは高感度に設定）
4 ━ 連続拭き取り、低速
5 ═ 連続拭き取り、高速
⑥ 1 回の拭き取り
⑦ ウォッシャー液を使用しての拭き取り

▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。
▶ コンビネーションスイッチを対応する位置にまわします。

••• または •••• の位置では、雨滴量に応じて、適切な拭き取り頻度が自動的に設定されます。•••• の位置では、レインセンサーは ••• の位置よりも高感度となり、ワイパーはより頻繁に拭き取りを行ないます。

リアウインドウワイパーの作動/停止の切り替え

コンビネーションスイッチ
① スイッチ
2 ウォッシャー液付きのワイパー
3 I 間欠ワイパーの作動
4 O 間欠ワイパーの停止
5 ウォッシャー液付きのワイパー

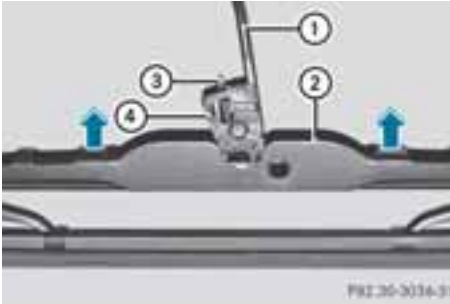
▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。
▶ コンビネーションスイッチのスイッチ ① を対応する位置にまわします。
リアワイパーが作動し、メーターパネル内にアイコンが表示されます。

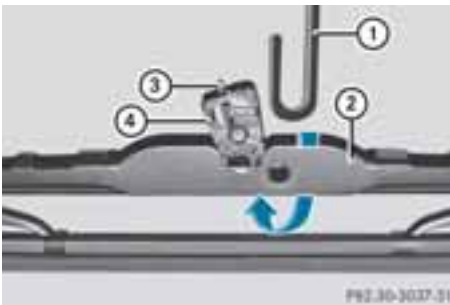
ℹ フロントウインドウワイパーが作動している間にセレクターレバーを **R** にシフトした場合は、リアウインドウワイパーが自動的に作動します。

ワイパーブレードの交換

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**
ワイパーブレードを交換中にワイパーが動き出した場合、ワイパーアームに挟まれるおそれがあります。 けがの危険性があります。
ワイパーブレードを交換する前に、ワイパーおよびイグニッションのスイッチを必ずオフにしてください。

ワイパーブレードを取り外す

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
▶ 止まるまで、ワイパーアーム ① をフロントウインドウから起こします。
▶ ワイパーブレード ② を直角の位置にします。
▶ ロックスプリング ③ を押します。
▶ ヒンジ部品 ④ とともに、ワイパーブレード ② をワイパーアーム ① からスライドします。

ワイパーブレードを取り付ける

① ワイパーアーム
② ワイパーブレード
③ ロックスプリング
④ ヒンジ部品

▶ ヒンジ部品 ④ とともに、ワイパーアーム ① を新しいワイパーブレード ② にスライドします。
▶ ロックスプリング ③ をワイパーアームの端に固定します。
▶ ワイパーブレード ② が正しく位置していることを確認します。
▶ ワイパーアーム ① をフロントウインドウの上に倒して戻します。

フロントウインドウワイパーのトラブル

これに関する情報は、デジタル版取扱説明書に記載されています。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。 国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 28 ページ).

エアコンディショナーシステムの概要

重要な安全上の注意事項

以下のページで推奨されている設定に従ってください：さもないとウインドウが曇るおそれがあります。交通状況の確認を妨げるおそれがあり、そのため事故の原因になります。

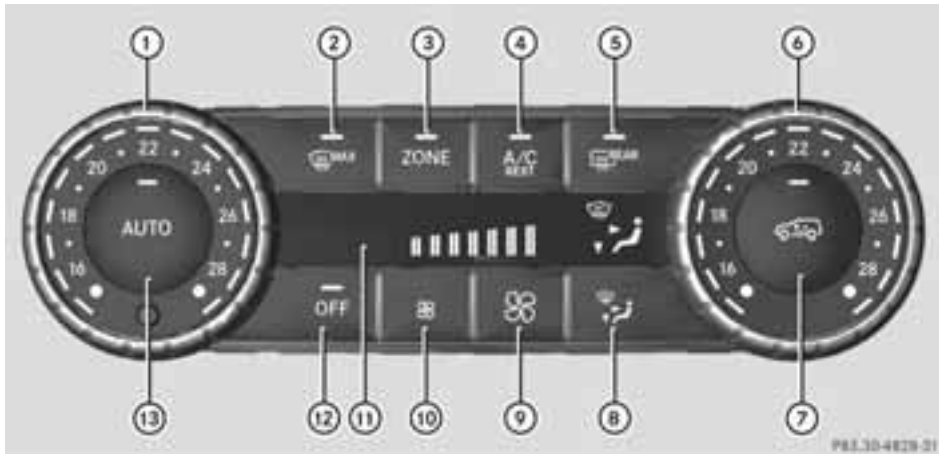
オートエアコンディショナーは車内の温度と湿度を制御し、空気から望ましくない物質をろ過します。

オートエアコンディショナーは、エンジンがかかっているときのみ作動します。サイドウインドウおよびスライディングルーフを閉じて走行している場合にのみ、最適な作動が得られます。

スライディングルーフを長時間開いている場合は、エアコンディショナーの快適さに悪影響を与えます。スライディングルーフを開いているときは、オートエアコンディショナーは選択した温度を維持することはできません。エアコンディショナーを手動で調整しなければなりません。

ℹ 暖かい気候の間は、例えばコンビニエンスオープニング機能を使用して、少しの間車両を換気してください (▷ 87 ページ)。これにより、冷却処理が速くなり、より速く希望の車内温度に達します。

ℹ 内蔵フィルターは、ほこりおよび花粉をろ過することができます。詰まったフィルターは、車内に供給される空気の量を減らします。このため、整備手帳で規定されているフィルターの交換時期に必ず従ってください。重度の大気汚染などの環境状況によっては、間隔は整備手帳に記載されているよりも短くなることがあります。

クライメートコントロール（左右独立調整）のコントロールパネル

① 温度の設定、左
② フロントウインドウの曇り取り
③ ゾーン機能の作動/解除の切り替え
④ AC モードの作動/停止
⑤ リアデフォッガーの作動/停止の切り替え
⑥ 温度の設定、右
⑦ 内気循環モードの作動/停止
⑧ 送風配分の設定
⑨ 送風量を上げる
⑩ 送風量を下げる
⑪ ディスプレイ
⑫ エアコンディショナーの作動/停止の切り替え
⑬ エアコンディショナーの AUTO モードへの設定

エアコンディショナーシステムの操作

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります：

- エアコンディショナーの作動/停止の切り替え
- AC モードの作動/解除
- エアコンディショナーの AUTO モードへの設定
- 温度の設定
- 送風配分の設定
- 送風量の設定
- ゾーン機能の作動/停止の切り替え
- フロントウインドウの曇り取り
- ウインドウの曇り取り
- リアデフォッガーの作動/停止の切り替え
- 内気循環モードの作動/停止

- 内気循環スイッチを使用してのコンビニエンスオープニング
- 余熱ヒーター機能の作動/停止
- 送風口の調整

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。 国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 28 ページ).

慣らし運転の注意事項

重要な安全上の注意事項

新しい、もしくは交換されたブレーキパッド/ライニングおよびディスクは、数百キロメートルの走行後に最適な制動効果を発揮します。ブレーキペダルにより大きな力をかけることにより、減少した制動効果を補ってください。

最初の 1,500 km まで

最初から十分な注意を払ってエンジンを取り扱うことにより、エンジンの寿命まで最大限の性能を得ることができます。

- 最初の 1,500 km までは、速度と回転数を変えて走行してください。
- フルスロットルで走行するなど、この期間は車両への大きな負担は避けてください。
- タコメーターの針がタコメーターのレッドゾーンの ⅔ に近づいたら、ただちに適時ギアを変えます。
- ブレーキを効かせるために、手動でギアをシフトダウンしないでください。
- 踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏むこと（キックダウン）は避けるようにしてください。
- ギアレンジ **3**、**2** または **1** は、山道などを低速で走行するときだけに使用してください。

1,500 km 後は、車両を徐々に最大負荷およびエンジン回転数にすることができます。

AMG 車両の慣らし運転についての追加の注意事項

- 最初の 1,500 km までは、140 km/h 以上の速度で走行しないでください。
- エンジンが最大エンジン回転数 4,500 rpm に達することは短時間のみにしてください。
- 3,000 km でディファレンシャルオイルを交換する前のオフロード走行は避けてください。
- 最初の 1,500 km は、主に走行モード **C** で車両を運転してください。

ℹ エンジンや駆動系部品の交換を行なったときも、上記の注意事項を守って慣らし運転を行なってください。

リアディファレンシャルロック装備車（AMG 車両）

3,000 km の慣らし運転後にオイルを交換し、ディファレンシャルの保護を向上させてください。このオイル交換により、ディファレンシャルの整備寿命が延びます。オイル交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

走行

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。

⚠ 警告

以下のような適していない履物は、ペダルの正しい作動を妨げることがあります。

- 薄いソールの靴
- 高いヒールの靴
- スリッパ

事故の危険性があります。

適した履物を着用し、ペダルの正しい作動を確保します。

⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ 警告

走行時にパーキングブレーキが完全に解除されていない場合は、パーキングブレーキは以下のようになることがあります。

- オーバーヒートおよび火災の原因
- 車両にブレーキを効かせられなくなる

火災と事故の危険性があります。発進する前に、パーキングブレーキを完全に解除してください。

! 走行する前に、パーキングブレーキを確実に解除してください。 パーキングブレーキの加熱、誤作動や早期摩耗の原因となります。

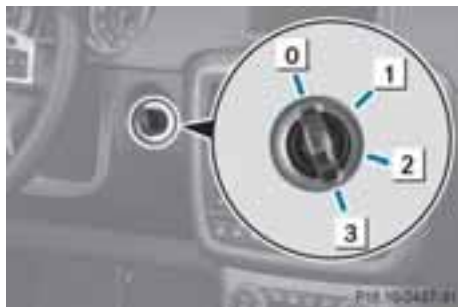
! 素早く暖機運転します。 エンジンが暖まっていないときは、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

オートマチック車のシフト操作は、完全に停車して行なってください。

滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないように穏やかにアクセルペダルを操作してください。 駆動系部品が損傷するおそれがあります。

! エンジンが冷えているときは、エンジン回転数を高くしないでください。 エンジンの使用寿命が大幅に短くなる可能性があります。 エンジンが作動温度に達していないうちは、エンジン性能をフルに発揮させないでください。

! **AMG 車：**エンジンオイル温度が約 +20 ℃以下のときなどエンジンが暖まっていない場合は、エンジン保護のためにエンジン回転数が制限されることがあります。 エンジンを保護し、スムーズに作動させるため、エンジンが冷えているときはアクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。

キーの位置

0 キーを抜く
1 フロントウインドウワイパーのような電気装備への電力供給
2 イグニッション（すべての電気装備への電力供給）および走行位置
3 エンジンを始動する

i イグニッションをオンにしたときに、メーターパネルの表示灯および警告灯が点灯します。エンジンがかかっているときは消灯します。これは、各システムの表示灯および警告灯が作動可能である事を示しています。

i 以下の場合にのみキーを外すことができます：

- エンジンスイッチのキーが 0 の位置にある
- オートマチックトランスミッションのセレクターレバーが P にある

車両の始動

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告
エンジンの燃焼は、一酸化炭素のような有毒な排気ガスを排出します。これらの排気ガスを吸い込むと中毒につながります。致命的なけがの危険性があります。従って、十分な換気がない閉じた空間でエンジンを作動させたままにしないでください。

⚠ 警告
動物または環境の影響によってもたらされた可燃物が熱くなっているエンジンの部品または排気システムに接触すると、発火するおそれがあります。火災のおそれがあります。
定期的な点検を行ない、エンジンルーム、または排気システムに可燃性の異物がないことを確認してください。

! エンジンを始動するときは、アクセルを踏まないでください。

エンジンの始動

▶ オートマチックトランスミッションをポジション P にシフトします。
マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示に P が表示されます。

i オートマチックトランスミッションがポジション N のときでもエンジンを始動することができます。

i オートマチックトランスミッションについてのさらなる情報 (▷ 118 ページ)。

i エンジンを始動したときにブレーキを踏んだ場合は、ペダルのストロークが通常は長くなり、ペダルの踏み応えが減少します。

▶ パーキングブレーキが効いていることを確認してください。
▶ エンジンスイッチのキーを 3 の位置 (▷ 116 ページ)にまわして、エンジンが始動したらただちに放します。
▶ 予熱表示灯 [00] が消灯したときに、キーを 3 (▷ 116 ページ)にまわして、エンジンが作動したらただちに放します。

i タッチスタート機能でエンジンを始動することもできます。そうするためには、キーを 3 の位置までまわして、すぐ

に放します (▷ 116 ページ)。エンジンが自動的に始動します。

発進

オートマチックトランスミッション

⚠ 警告

エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション D または R に入れると、車両は突然発進することがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションをポジション D または R に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

! リバースギア R またはパーキングポジション P にするときは、完全に停車してください。 オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

! 警告音が鳴り、パーキングブレーキ 解除してください というメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されている場合には、パーキングブレーキがまだ作動している状態です。 パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルをしっかりと踏みます。

▶ シフトポジション D または R にします。

ℹ 発進する前に、シフトチェンジが完了するまで待ちます。

▶ パーキングブレーキを解除します。(▷ 128 ページ)

▶ ブレーキペダルを徐々に戻します。

▶ アクセルペダルを注意しながら踏み、発進します。

ℹ ブレーキペダルを踏んだ状態でのみ、シフトポジションを P から他のポジションにすることができます。 その場合のみ、セレクターレバーが解除されます。

ℹ 発進すると、車が自動的に施錠されます。 ドアのロックノブが下がります。

ドアは車内からいつでもロックを解除して開くことができます。

また、車速感応ドアロックを解除することもできます。 (▷ 162 ページ)

ℹ エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。 これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正な作動温度に達します。

ヒルスタートアシスト

⚠ 警告

しばらくすると、ヒルスタートアシストは車両にブレーキを効かせなくなり、動き出すおそれがあります。 事故やけがの危険性があります。

従って、すばやくブレーキペダルからアクセルペダルに足を動かします。ヒルスタートアシストで車が停止しているときは、絶対に車から離れないでください。

ヒルスタートアシストは、坂道発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、運転者の発進操作を補助します。 ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが車を停止したまま保持します。 そのため、車が動き出す前に、ブレーキペダルからアクセルペダルへ余裕を持って踏みかえることができます。

▶ ブレーキペダルから足を放します。

ℹ ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが約 1 秒間ブレーキを効かせます。

▶ 発進します。

ただし、ヒルスタートアシストは以下のような状況では作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- シフトポジションを N にしたとき

- パーキングブレーキが効いているとき
- ESP® が故障しているとき

ECO スタートストップ機能（AMG 車両）

デジタル版取扱説明書には、全体的な注意事項と情報が記載されています。

- ECO スタート / ストップ機能の作動 / 作動解除
- 自動エンジン停止 / エンジン始動

オートマチックトランスミッション

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション D または R に入れると、車両は突然発進することがあります。事故の危険性があります。

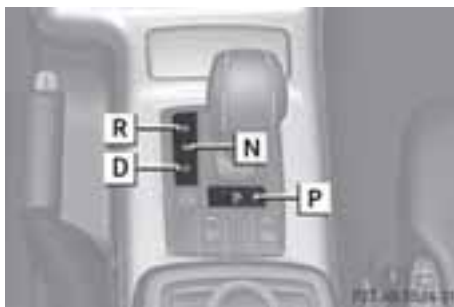
トランスミッションをポジション D または R に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

ℹ エンジンを停止しているときは、エンジンとトランスミッションの間の動力伝達が遮断されていることに留意してください。この理由のため、エンジンが停止して車両が停止しているときは、オートマチックトランスミッションを P にシフトしてください。車両が発進するのを防ぐためにパーキングブレーキを効かせてください。

セレクターレバー

シフトポジションの概要

❗ エンジン回転数が高すぎるときや走行中は、 D から直接 R、または R から直接 D か P にシフトしないでください。

走行中には運転席ドアを開かないでください。 開いていると、シフトポジション D または R で低速のときに、パーキングポジション P に自動的にシフトします。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

セレクターレバー

P パーキングポジション

R リバースギア

N ニュートラル

D ドライブ

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります：

- パーキングポジション P に入れる
- リバースギア R に入れる
- ニュートラル N にシフトする
- ECO スタートストップ機能でのニュートラル N（AMG 車両）
- シフトポジション D にシフトする
- ECO スタートストップ機能でのシフトポジション D（AMG 車両）

トランスミッションポジションおよび走行モード表示

① シフトポジション
② 走行モード

現在のシフトポジション ① および走行モード ② がマルチファンクションディスプレイに表示されます。

セレクターレバーがポジション D にあるときは、以下により、オートマチックトランスミッションによるギアシフトに影響を与えることがあります：

- ギアレンジの制限
- ご自身でのギア変速

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- シフトポジション表示と走行モード表示
- シフトポジション
- ギアチェンジ
- 運転のヒント
- 走行モード選択スイッチ
- ステアリングパドルシフト
- 自動走行モード
- マニュアルギアシフト
- シフトレンジ
- トランスミッションの不具合

マニュアル走行モード

全体的な注意事項

マニュアル走行モードは **AMG 車両**でのみ使用できます。マニュアル走行モード **M** では、ステアリングギアシフトパドルを使用して、連続的に自分自身でギアを変えることができます。トランスミッションは、ポジション **D** でなければなりません。そのとき選択され、入っているギアがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

マニュアル走行モード **M** は、ギア変速の作動頻度、応答性および滑らかさの点で、走行モード **E** および **S** と異なります。

マニュアル走行モードの作動

▶ トランスミッションをポジション **D** にシフトします。

▶ マルチファンクションディスプレイに **M** が表示されるまで、走行モード選択スイッチを押します。デジタル版取扱説明書をご覧ください。

シフトアップ

! マニュアルギアシフト **M** では、現在のギアでのエンジン許容回転数に達しても、自動的にシフトアップしません。 エンジンの許容回転数に達すると、エンジンの過回転を防ぎエンジンを保護するため、燃料供給が停止します。 エンジン回転数が許容回転数を超えて、タコメーターのレッドゾーンに入らないように注意してください。 エンジンが損傷するおそれがあります。

▶ メーターパネルのマルチファンクションディスプレイに推奨ギアシフト ① が表示された場合は、右側のステアリングギアシフトパドルを引きます（デジタル版取扱説明書をご覧ください)。
オートマチックトランスミッションが推奨ギア ② にシフトします。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります：

- シフトダウン
- 最も加速できる最適なギアを選択する
- キックダウン
- マニュアル走行モードの解除

給油

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

燃料は可燃性の高いものです。 燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

⚠ **警告**

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料は決して飲まないこと、また目や衣服に付着させないでください。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。無理に吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

! 誤って指定以外の燃料を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。 誤った燃料が燃料系部品全体にまわるおそれがあります。 誤って指定以外の燃料を給油した場合は、燃料タンクや燃料装置から燃料を完全に抜き取る必要があるため、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。

! 給油中に燃料を塗装面にこぼさないよう注意してください。 塗装面が損傷するおそれがあります。

! 燃料携行缶から燃料を補給するときは、フィルターを使用してください。 燃料携行缶に付着した微粒子によって、フューエルラインや燃料噴射システムの部品が詰まるおそれがあります。

燃料および燃料品質についてのさらなる情報 (▷ 262 ページ)。

給油

燃料給油口フラップ装備車両

例：G550 の燃料給油口キャップ
① 燃料給油口フラップを開く
② タイヤ空気圧表
③ 燃料種類
④ 燃料給油口キャップを差し込む

キーで車両を開閉したときは、燃料給油口フラップも自動的に施錠/解錠されます。
メーターパネル内には、燃料給油口キャップの位置 [給油ポンプマーク] が表示されています。給油ポンプマークの横の矢印は、燃料給油口キャップのある車両側面を示しています。燃料給油口フラップは車両の右側後方にあります。

燃料給油口キャップを開く

▶ 燃料給油口キャップを反時計回りにまわして取り外します。
▶ 燃料給油口キャップを給油口フラップ ④ の裏側にあるホルダーブラケットに差し込みます。

給油

▶ 燃料ポンプのノズルをタンクの給油口にいっぱいまで差し込み、給油します。

ℹ 最初にポンプが給油を停止した後は、それ以上燃料を追加しないでください。さもないと、燃料が漏れることがあります。

閉じる

▶ 燃料給油口キャップを取り付けて、時計回りにまわします。音がして、燃料給油口キャップがロックされます。
▶ ロックされるまで、燃料給油口フラップを押して閉じます。

燃料給油口フラップの緊急ロック解除

緊急ロック解除は、ラゲッジルーム内の進行方向右側のリアウォールトリム背面にあります。

ℹ 緊急ロック解除周辺の車両内壁には、鋭い角があります。けがのおそれがあります。車体の内側の鋭利な部分に触れないでください。

▶ リアドアを開きます。
▶ 角の保護材 ① を引き取ります。
▶ リアウォールトリム② を取り外します。

▶ 緊急ロック解除 ③ を矢印の方向に引きます。
燃料給油口フラップが解錠されます。
▶ 燃料給油口フラップを開きます。

燃料および燃料タンクのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
車両から燃料が漏れている。	燃料ラインまたは燃料タンクが故障している。 ⚠ **警告** 火災または爆発のおそれがある。 ▶ ただちにキーを **0** の位置にまわして (▷ 116 ページ) 、抜きます。 ▶ いかなる場合も、エンジンを再始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。
燃料給油口フラップが開かない。	燃料給油口フラップが解錠されていない。 または キーの電池が放電している。 ▶ 車両を解錠してください (▷ 82 ページ)。 または ▶ エマージェンシーキーを使用して車両を解錠してください (▷ 83 ページ)。 ▶ リアドアを開きます。 ▶ エマージェンシーリリースを使用して、燃料給油口フラップを手動で解錠してください (▷ 121 ページ)。
	燃料給油口フラップは解錠されているが、開閉機構に異常がある。 ▶ エマージェンシーリリースを使用して、燃料給油口フラップを手動で解錠してください (▷ 121 ページ)。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

AdBlue®

使用についての重要な注意事項

正しく機能させるためには、BlueTEC 排気ガス後処理装置[6] を除去剤 AdBlue®とともに作動させなければなりません。

AdBlue®の残量がほとんどなくなったときは、マルチファンクションディスプレイに AdBlue を補充してください 取扱説明書を参照 というメッセージが表示されます。警告音も鳴ります。

マルチファンクションディスプレイに X km 以内に AdBlue を補充してください というメッセージが表示された場合は、表示された距離まで車両を走行させることができます。警告音も鳴ります。AdBlue®が補充されない場合は、それ以降エンジンを始動できなくなります。

6 BlueTEC 車両のみ。

警告メッセージが表示されたときは、AdBlue®リザーブタンクに 10 ℓ の AdBlue®を補充することを推奨します。これにより、次の定期点検整備予定期日まで AdBlue®の残量が確保されます。

BlueTEC 排気ガス処理装置や AdBlue®についてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

AdBlue®補充

! ISO 22241 に適合した AdBlue®のみを使用してください。AdBlue®にいかなる添加剤を混ぜたり、AdBlue®を水で薄めないでください。BlueTEC 排気ガス後処理システムを損傷することがあります。

! AdBlue® のタンクに補充するためには、車両は水平な路面に駐車していなければなりません。車両を水平な路面に駐車しているときにのみ、意図したように AdBlue®のタンクに補充することができます。これにより、容量の変動が避けられます。水平でない路面にある車両に補充することは許可されていません。あふれる危険性があり、BlueTEC 排気ガス後処理システムの部品を損傷する原因になることがあります。

! 給油ノズルを使用して AdBlue® 容器に補充しないでください。

! オフロード走行では極度に車両が傾くため、AdBlue® タンクの残量は、それを補うため十分高いレベルにある必要があります。 そのため、オフロード走行の前に最低約 10 L は充填されていることを確認してください。

! 補充を行なっているときに、カーペットや塗装面などの表面に AdBlue®が付着したときは、十分な水でただちに洗い流してください。洗い流したあとは、ただちに湿らせた布と冷水で AdBlue®を拭き取ってください。 AdBlue®が結晶化してしまったときは、スポンジと冷水で取り除いてください。 AdBlue®の残留物は、一定時間後に結晶化し、表面を損傷させます。

! AdBlue® は燃料の添加剤ではなく、燃料タンクに足してはいけません。AdBlue®を燃料タンクに加えると、エンジンの不具合につながるおそれがあります。

AdBlue®タンクのキャップを開くと、少量のアンモニアの気体が放たれることがあります。

アンモニアの気体は、刺激臭で、特に以下を刺激します：

- 肌
- 粘膜
- 目

その結果、咳き込んだり涙目になるとともに、目や鼻、のどに炎症が起きることがあります。

発生したアンモニアの気体を吸い込まないようにしてください。換気の良い場所でのみ、AdBlue®のタンクへの補給を行なってください。

肌、目または衣服に AdBlue®が接触しないように気をつけてください。

- AdBlue®が目または肌に接触した場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。
- AdBlue®を飲み込んだ場合は、ただちに口を十分すすいで、大量の水を飲んでください。
- ただちに AdBlue®に接触した衣服を交換してください。
- アレルギー反応が認められる場合は、速やかに医師の診察を受けてください。

AdBlue®は子供の手の届かないところに保管してください。

AdBlue®のタンクへの補給はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。ただし、以下でも AdBlue®のタンクへの補給を行なうことができます：

- AdBlue®補給用ボトルを備えたガソリンスタンド
- AdBlue®補給容器を備えたガソリンスタンド

外気温度が約 -11 ℃ 以下の場合は、補充することが困難なことがあります。AdBlue®が凍結して警告灯が表示された場合、補給ができなくなることがあります。AdBlue®が再度液体になるまで、車両を車庫の中などの暖かい場所に駐車してください。その後にのみ、補給が再度可能になります。または、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で AdBlue®のタンクへの補給を行なってください。

以下の前に、AdBlue®の残量をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください：

- ヨーロッパ以外を走行する
- オフロードを走行する

▶ 必要な場合は、AdBlue®を補充してください。

ヨーロッパ以外に長期滞在する前には、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

AdBlue® についてのさらなる情報 (▷ 270 ページ)。

AdBlue®補給キャップを開く

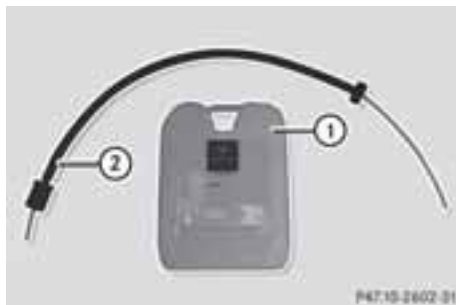
AdBlue®の補給口は、右側後方の燃料給油口フラップの裏側にあります。

▶ イグニッションをオフにします。

▶ 燃料給油口フラップを矢印 ① の方向に押します。
燃料給油口フラップが開きます。

▶ AdBlue®補給口キャップ ② を反時計回りにまわして取り外します。
AdBlue®補給口キャップ ② はプラスチックバンドでつながれています。

AdBlue®補給容器

! 使い捨てホース ② を過度の力で締め付けないでください。 使い捨てホース ② を損傷するおそれがあります。

AdBlue®補給ボトルは、多くのガソリンスタンドまたはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。AdBlue®補給容器は多くの場合、充填ホース付きで販売されています。充填ホースが車両

の AdBlue®タンクに適切に装着されていない場合、過補給を防止することができません。過補給の結果、AdBlue®が溢れることがあります。メルセデス・ベンツでは過補給防止機能付きの専用の使い捨てホースを用意しています。これは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。AdBlue®はさまざまな容器入りで販売されています。この使い捨てホースは、メルセデス・ベンツ AdBlue®補給容器とセットでのみ使用してください。

- AdBlue®補給容器 ① 上部の開口部からキャップを外します。
- 使い捨てホース ② を AdBlue®補給容器 ① の開口部に取り付け、手で締められるところまで時計回りに締め付けます。

ℹ 使い捨てホース ② を車両の AdBlue®補給口に固定するまで、使い捨てホース ② は閉じたままになります。

- 使い捨てホース ② を車両の補給口に取り付け、手で時計回りに締め付けます。手応えを感じたときは、使い捨てホース ② は十分に固定されています。
- AdBlue®補給容器 ① を持ち上げ、傾けます。

ℹ AdBlue®タンクが完全に満たされたら、補給をやめます。それ以上 AdBlue®をタンクに補給しないでください。部分的に空になったときにのみ、AdBlue®補給容器 ① を取り外すことができます。

- 車両の補給口の使い捨てホース ② を反時計回りにまわして取り外します。
- AdBlue®補給容器 ① の開口部の使い捨てホース ② を反時計回りにまわして取り外します。
- 再度キャップで、AdBlue®補給容器 ① に封をします。

AdBlue®補給用ボトル

! AdBlue® 補充ボトルは手の力でのみ締めてください。さもないと、壊れることがあります。

AdBlue®補給ボトルは多くのガソリンスタンドまたはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。スレッドシールのない補給用ボトルには、過補給防止機能がありません。過補給の結果、AdBlue®が溢れることがあります。メルセデス・ベンツでは、ねじ切りされたキャップのある専用補給ボトルを用意しています。これらは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

- AdBlue®補給用ボトル ① の保護キャップを外します。
- 記載されているように AdBlue®補充ボトル ① を補給口にセットし、手の力で締めます。

▶ AdBlue®補給用ボトル ① を補給口方向に押します。
AdBlue®のタンクが充填されます。最大 1 分かかることがあります。

ℹ AdBlue®補給用ボトルを押し下げることができなくなったときは、補給が停止します。部分的に空になったときにのみ、ボトルを取り外すことができます。

▶ AdBlue®補給用ボトル ① のロックを解除します。

▶ AdBlue®補給用ボトル ① を反時計回りにまわして取り外します。

▶ AdBlue®補給用ボトル ① の保護キャップを再度締めます。

AdBlue®補充キャップおよび給油口フラップを閉じる

▶ 青色の AdBlue®補充キャップ② を補給口に取り付け、時計回りにまわします。

▶ 燃料給油口フラップを閉じるには、矢印 ① の方向に押します。

ℹ 数キロの距離を走行した後で、AdBlue を補充してください 取扱説明書を参照 というメッセージが消えます。

ℹ 必要な場合は、AdBlue®残量をいっぱいまで補充します。この目的のためメルセデス・ベンツ指定サービス工場を利用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。

駐車

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキを解除したとき
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

⚠ **警告**

葉、草または小枝のような可燃性の素材は、排気システムの高温部品または排気ガスの排気に長時間触れると発火することがあります。火災の危険性があります。

可燃性の素材が車両の熱い部品に触れないように車両を駐車してください。特に、乾燥した草原、または収穫した穀物畑に駐車しないでください。

⚠ **警告**

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

車両が不意に動き出さないためには、以下のようにしてください：

- パーキングブレーキを効かせなければなりません。
- トランスミッションはポジション P にして、キーをエンジンスイッチから抜かなければなりません
- トランスファーケースは、ポジション N にあってはいけません
- 上り坂または下り坂勾配では、前輪を縁石に向けてまわします。

エンジンの停止

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、エンジンを停止する方法が記載されています。

パーキングブレーキ

ℹ パーキングブレーキで車両にブレーキを効かせる場合は、ブレーキライトは点灯しません ②。

▶ **効かせる：** パーキングブレーキ ② を上に確実に引きます。
パーキングブレーキ ② が効きます。

エンジンスイッチのキーが **1** または **2** の位置にある場合は、メーターパネルの表示灯 (P) が点灯します。

▶ **解除する：** ブレーキペダルを踏んで、踏んだままにします。
セレクタレバーのロックが解除されます。

▶ パーキングブレーキ ② を上に確実に引きます。

▶ パーキングブレーキ ② およびガイドパーキングブレーキ ② のロック解除スイッチ ① を停止するまで下に押します。
メーターパネルの (P) 表示灯が消灯します。

ℹ パーキングブレーキ ② を効かせたまま発進した場合は、警告音が鳴ります。

長期間の車両の駐車

車両を 4 週間以上使用しない場合は、バッテリーが完全に放電して損傷するおそれがあります。

▶ バッテリーの接続を外してください。

または

▶ バッテリーを細流充電器に接続してください。

ℹ 細流充電器についての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

車両を 6 週間以上使用しない場合は、車両に不具合が発生するおそれがあります。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねいただき、アドバイスを受けてください。

運転のヒント

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります：

- 一般的な運転のヒント
- ブレーキ
  - 重要な安全上の注意事項
  - 下り坂勾配
  - 高い、および低い負荷
  - 濡れた路面
  - 塩化物が散布された道路でのブレーキ性能の制約
  - AMG セラミック強化ブレーキシステム
- 濡れた路面の走行
- 寒冷時の走行
  - 全体的な注意事項
  - サマータイヤでの走行
  - 滑りやすい路面
- オフロード走行
  - 全体的な注意事項
  - 砂地の走行
  - わだちや砂利道
  - 障害物を越える走行
- 上り坂の走行
  - アプローチ/デパーチャーアングル
  - 最大登坂能力
  - 丘の頂上
  - 下り坂の走行

走行システム

クルーズコントロール

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

クルーズコントロールが車両にブレーキをかけると、ブレーキペダルが動きます。ブレーキペダル下部に足を入れると、挟まれるおそれがあります。 ブレーキの下部に障害物があると、ペダルの動作が妨げられ車両によるブレーキ制御が制限されるおそれがあります。 事故やけがの危険性があります。

ブレーキペダルの下に足を入れないでください。 ブレーキペダルの下に障害物がない状態にしてください。

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、クルーズコントロールは事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて運転を支援することはできません。 クルーズコントロールは路面、天候および交通状況を考慮することはできません。 クルーズコントロールは補助装置です。 運転者には、走行速度や先行車のと車間距離の確保、適切なブレーキ操作など安全確保を行なう責任があります。 交通状況に応じて運転スタイルを合わせてください。 クルーズコントロールは、現在の路面、天候および交通状況から安全に作動可能な場合のみ使用し、それに応じて

走行スタイルを合わせてください 注意して運転し、先行車との車間距離を適切に保持してください。

次のような場合にはクルーズコントロールを使用しないでください。

- 一定の速度を維持できない交通状況のとき（交通量が多い場合やカーブが連続している場合、オフロードなど）
- 路面が滑りやすい場合。 ブレーキや加速により駆動輪がトラクションを失い、車両が横滑りするおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪などで視界が悪いとき

全体的な注意事項

クルーズコントロールは一定の走行速度を維持します。長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときやトレーラーをけん引しているときは、適時ギアレンジを **1**、**2**、**3** にしてください。そうすることにより、エンジンのブレーキ作用を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。

道路や交通状況が長時間の一定速度の維持に適している場合にのみ、クルーズコントロールを使用してください。30 km/h 以上の走行速度を記憶させることができます。

クルーズコントロールレバー

① 速度を設定する、または上げる

② LIM 表示灯

③ 現在の速度/最後に記憶させた速度に設定する

④ 速度を設定する/下げる

⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える

⑥ クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールを作動させたときは、記憶させた速度がマルチファンクションディスプレイに 5 秒間表示されます。

AdBlue®のディスプレイメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示された場合は、すべてのクルーズコントロール機能を使用できなくなります。

すべてのクルーズコントロール機能は、AdBlue®のディスプレイメッセージを確認すると再度作動可能になります。

▶ マルチファンクションステアリングの ◀、▶、▲ または ▼ スイッチを軽く押します。

または

▶ メーターパネルのリセットスイッチを軽く押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムを表しています。

- **LIM 表示灯が消灯：** クルーズコントロールが選択されています。
- **LIM 表示灯が点灯：** 可変スピードリミッターが選択されています。

作動条件

クルーズコントロールを作動させるためには、以下の条件をすべて満たしている必要があります：

- パーキングブレーキが解除されている。
- 30 km/h 以上で走行している。
- ESP®は設定されているが、介入していない。
- トランスミッションがポジション **D** である。
- クルーズコントロールの機能が選択されている (▷ 131 ページ)。

クルーズコントロールの選択

▶ LIM 表示灯 ② が消灯しているか確認してください。
消灯しているときは、クルーズコントロールが選択されています。
消灯していないときは、クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に押します。
クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が消灯します。 クルーズコントロールが選択されます。

速度の記憶、維持、呼び出し

現在の速度の記憶および維持

30 km/h 以上で走行している場合は、現在の速度を記憶させることができます。

▶ 希望の速度まで車両を加速させます。
▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に軽く押します。
▶ アクセルペダルから足を放してください。
クルーズコントロールが作動します。車両は自動的に記憶させた速度を維持します。

ⓘ 上り坂または下り坂勾配では、クルーズコントロールは記憶した速度を維持できないことがあります。勾配が平坦になったときは、再度記憶させた速度になります。下り坂では、クルーズコントロールは自動的に車両にブレーキを効かせることにより、記憶させた速度を維持します。

記憶させた速度を呼び出す

⚠ **警告**

設定速度を呼び出し、それが現在の速度より低いときは、車両が減速します。 設定速度を覚えていないと、車両が不意に減速することがあります。 事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。 設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

▶ クルーズコントロールレバーを手前 ③ に軽く引きます。
▶ アクセルペダルから足を放してください。
クルーズコントロールが作動し、車両の速度を最後に記憶させた速度に調整します。

ⓘ 速度が記憶されていない場合は、クルーズコントロールは現在の速度を記憶し、それを維持します。

速度の設定

設定

車両が設定速度まで加速または減速するまでには少し時間がかかることに注意してください。

▶ **速度を上げる：** クルーズコントロールレバーを上方 ① に押します。

▶ **速度を下げる：** クルーズコントロールレバーを下方 ④に押します。

▶ 希望する速度に到達するまで、クルーズコントロールレバーを押して保持します。

▶ クルーズコントロールレバーを放します。
新しい速度が記憶されます。

1 km/h 単位で調整する

▶ 高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ④ にクルーズコントロールレバーを軽く押します。
上げた、または下げた最後の速度が記憶されます。

10 km/h 単位の調整

▶ 手応えがあるところを越えるまで、クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に少し押します。
最後に記憶された速度が 10 km/h 単位で上昇または下降します。

クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールを解除するにはいくつかの方法があります：

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ⑥ に軽く押します。

または

▶ ブレーキを効かせます。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に軽く押します。
可変スピードリミッターが選択されます。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

以下の場合はクルーズコントロールが自動的に解除されます：

- パーキングブレーキを効かせた
- 30 km/h 以下で走行した
- ESP®が介入した、または ESP®を解除した
- 走行している間にトランスミッションをポジション **N** にシフトした
- **G350 BlueTEC：**ディファレンシャルロックを作動させた

ⓘ エンジンを停止したときは、記憶させた最後の速度は消去されます。

可変スピードリミッター

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

走行中にブレーキペダルの上に足を置くと、ブレーキシステムがオーバーヒートすることがあります。これにより制動距離が増加して、ブレーキシステムが故障する原因になるおそれもあります。事故の危険性があります。

ブレーキペダルをフットレストとして使用しないでください。ブレーキペダルとアクセルペダルを同時に踏まないでください。

! ブレーキペダルを常時踏むと、ブレーキパッドが極端に早く磨耗する結果になります。

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、可変スピードリミッターは事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて安全を確保することはできません。

可変スピードリミッターは路面、天候および交通状況を考慮することはできません。 可変スピードリミッターは補助装置です。 運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。 可変スピードリミッターは、現在の路面、天候および交通状況から安全に作動可能な場合のみ使用し、それに応じて走行スタイルを合わせてください 注意して運転し、先行車との車間距離を適切に保持してください。

全体的な注意事項

設定された速度を超えないように可変スピードリミッターは自動的にブレーキを効かせます。 長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときやトレーラーをけん引しているときは、適時シフトレンジを **1**、**2**、**3** にしてください。 そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。 その結果、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗するのを防ぎます。 さらにブレーキが必要な場合は、継続的にではなく、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。

ℹ スピードメーターに表示された速度は記憶された制限速度と若干異なる場合があります。

クルーズコントロールレバー

① 現在の走行速度、またはより速い速度を記憶する
② LIM 表示灯
③ 前回の設定速度を呼び出す
④ 現在の走行速度、またはより遅い速度を記憶する
⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ 可変スピードリミッターを解除する

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムの状態を表しています。

- **LIM 表示灯が消灯：** クルーズコントロールが操作可能な状態です。
- **LIM 表示灯が点灯：** 可変スピードリミッターが操作可能な状態です。

エンジンがかかっているときにクルーズコントロールレバーを使用して、約 30 km/h 以上のあらゆる速度に速度を制限できます。

可変スピードリミッターの選択

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、可変スピードリミッターは事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて安全を確保することはできません。 可変スピードリミッターは路面、天候お

よび交通状況を考慮することはできません。 可変スピードリミッターは補助装置です。 運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。 可変スピードリミッターは、現在の路面、天候および交通状況から安全に作動可能な場合のみ使用し、それに応じて走行スタイルを合わせてください 注意して運転し、先行車との車間距離を適切に保持してください。

▶ LIM 表示灯 ② が点灯しているか確認してください。
  点灯しているときは、可変スピードリミッターはすでに選択されています。
  消灯していないときは、クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に押します。
  クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。 可変スピードリミッターが選択されます。

現在の速度の記憶

エンジンがかかっている間に、クルーズコントロールレバーを使用して、30 km/h 以上のあらゆる速度に速度を制限することができます。

▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に軽く操作します。
  現在の速度が記憶され、マルチファンクションディスプレイに表示されます。

ℹ 可変スピードリミッターであっても、下り坂勾配では速度を超過することがあります。このような場合は、警告音が聞こえ、マルチファンクションディスプレイにリミットコエマシタ というメッセージ が 、 ま た は G350 BlueTEC モデルでは リミット というメッセージが表示されます。

最後に記憶させた速度の呼び出し

Zuletzt gespeicherte Geschwindigkeit abrufen

SPEEDTRONIC kann die Unfallgefahr einer nicht angepassten Fahrweise weder verringern noch physikalische Grenzen außer Kraft setzen. SPEEDTRONIC kann die Straßen- und Witterungsverhältnisse sowie die Verkehrssituation nicht berücksichtigen. SPEEDTRONIC ist nur ein Hilfsmittel. Die Verantwortung für Sicherheitsabstand, Geschwindigkeit, rechtzeitiges Bremsen und das Einhalten der Fahrspur liegt bei Ihnen. Setzen Sie SPEEDTRONIC nur ein, wenn die aktuellen Straßen- und Witterungsverhältnisse, sowie die Verkehrssituation dies zulassen. Fahren Sie aufmerksam an und halten Sie ausreichenden Sicherheitsabstand.

▶ Den TEMPOMAT Hebel kurz zu sich herziehen ③.

ℹ Wenn Sie die gespeicherte Geschwindigkeit abrufen und die aktuelle Geschwindigkeit höher ist, hören Sie einen Signalton. Im Multifunktionsdisplay sehen Sie die Meldung Limit überschritten oder beim Modell G 350 BlueTEC Limit.

ℹ Wenn keine Geschwindigkeit gespeichert ist, dann speichert die variable SPEEDTRONIC die aktuelle Geschwindigkeit und hält diese.

Einstellung in 1-km/h-Schritten

▶ Den TEMPOMAT Hebel kurz nach oben ① für eine höhere Geschwindigkeit oder kurz nach unten ④ für eine niedrigere Geschwindigkeit tippen.
Die zuletzt gespeicherte Geschwindigkeit erhöt bzw. verringert sich in 1-km/h-Schritten.

oder

▶ Den Tempomathebel so lange gedrückthalten, bis die gewünschte Geschwindigkeit eingestellt ist. Nach oben ① für eine höhere Geschwindigkeit oder nach unten ④ für eine niedrigere Geschwindigkeit.

Einstellung in 10-km/h-Schritten

▶ Den TEMPOMAT Hebel über den Druckpunkt kurz nach oben ① für eine höhere Geschwindigkeit oder kurz nach unten ④ für eine niedrigere Geschwindigkeit tippen.
Die zuletzt gespeicherte Geschwindigkeit erhöt bzw. verringert sich in 10-km/h-Schritten.

oder

▶ Den Tempomathebel so lange gedrückthalten, bis die gewünschte Geschwindigkeit eingestellt ist. Nach oben ① für eine höhere Geschwindigkeit oder nach unten ④ für eine niedrigere Geschwindigkeit.

可変スピードリミッターの解除

可変スピードリミッターを解除するためにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ⑥ に軽く押します。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に軽く押します。
クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が消灯します。可変スピードリミッターは解除されます。
クルーズコントロールが選択されます。

ブレーキ操作で可変スピードリミッターを解除することはできません。

踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏んだ場合（キックダウン）は、現在の速度が記憶された速度と 20 km/h 以上異ならない場合にのみ、可変スピードリミッターが自動的に解除されます。G350 BlueTEC：警告音が聞こえます。

ディストロニック・プラス

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスは以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 駐停車している車両など、道路上の静止している障害物
- 対向車や横切る車両

この場合、ディストロニック・プラスは警告も介入も行ないません。 事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスは、他の道路使用者および複雑な交通状況を常に明確に認識できるとは限りません。

そのような場合は、ディストロニック・プラスは以下のようになることがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる
- 意図せず加速する、またはブレーキをかける

事故の危険性があります。

特にディストロニック・プラスが警告した場合は、慎重に走行を続け、ブレーキを効かせる準備をしてください。

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスは最大制動力の約 40% までで車両にブレーキをかけます。 制動力が不十分なときは、ディストロニック・プラスが音とランプで警告を送ります。 事故の危険性があります。

その場合は、必ずご自身でブレーキをかけ、危険回避の運転操作を行なってください。

運転スタイルを合わせられない場合は、ディストロニック・プラスは事故の危険性を低減することもできず、また物理的限界を乗り越えることもできません。ディストロニック・プラスは路面、天候および交通状況を考慮することはできません。ディストロニック・プラスは単なる支援に過ぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。常に運転スタイルを合わせ、そのときの道路、天候および交通状況が許すときにのみディストロニック・プラスを作動させてください。慎重に走行し、安全な距離を確保してください。

ディストロニック・プラスが先行車両との衝突の危険を検知したが、先行車両との設定した距離を維持するために車両を十分に減速できない場合は、視覚的および聴覚的に警告されます。運転者の操作なしでは、ディストロニック・プラスは衝突を回避することはできません。断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯が点灯します。安全な場合にのみ、ただちにブレーキを効かせて先行車両との距離を広げ、危険回避の操作を行なってください。

ディストロニック・プラスは、オートバイなど前方を走行している幅の狭い車両、または異なる車線を走行している車両を検知しないことがあります。この理由のため、ディストロニック・プラスが作動しているときでも交通状況に常に注意を払ってください。さもなければ、危険を適時に認識できず、事故やお客様または他の方のけがの原因になります。

ディストロニック・プラス機能が作動しているときは、特定の状況で車両は自動的にブレーキを効かせます。特にけん引しているとき、または洗車機の中で、予期せずこれが起こることがあります。事故の危険性があります。これらの、また

は類似した状況ではディストロニック・プラスを解除してください。

ディストロニック・プラスの支援を必要とする場合は、作動条件が満たされていて (▷ 138 ページ)、レーダーセンサーシステムが作動可能でなければなりません。

全体的な注意事項

ディストロニック・プラスは速度を制御し、前方に検知された車両との距離を自動的に維持する支援を行ないます。ディストロニック・プラスは設定された速度を超えないように自動的にブレーキを効かせます。

長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時ギアレンジを **1**、**2**、**3** にしてください。そうすることにより、エンジンのブレーキ作用を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。

ディストロニック・プラスが前方に速度の遅い車両を検知した場合は、事前に設定された先行車両との距離を維持するため、車両にブレーキをかけて減速させます。

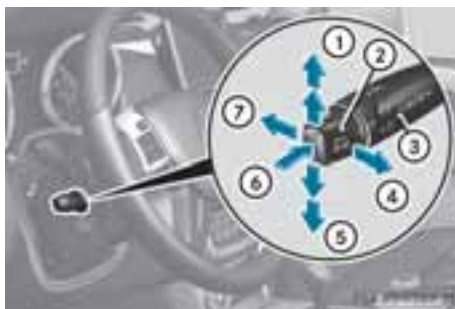
前方に車両がいない場合は、ディストロニック・プラスはクルーズコントロールと同じように 30 km/h から 200 km/h の間の速度域で作動します。前方で車両が走行している場合は、0 km/h～200 km/h の間の速度域で作動します。

急勾配の道路ではディストロニック・プラスを使用しないでください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- 速度の設定
- 指定の最小車間距離の設定
- メーターパネルのディストロニック・プラスディスプレイ

クルーズコントロールレバー

① 速度を設定する、または上げる
② 設定最短距離を設定する
③ LIM 表示灯
④ 現在の速度/最後に記憶させた速度で作動させる
⑤ 速度を設定する/下げる
⑥ ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
⑦ ディストロニック・プラスを解除する

クルーズコントロールレバーでディストロニック・プラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

▶ **可変スピードリミッターとディストロニック・プラスを切り替える：** クルー

走行と駐車

ズコントロールレバーを矢印の方向 ⑥ に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ③ は現在選択されている機能を表示しています。

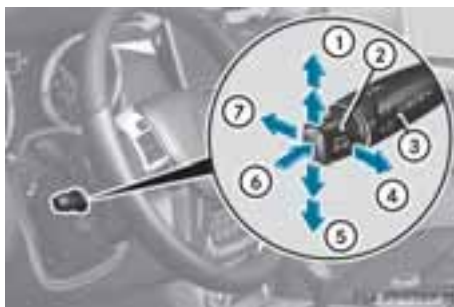
- **LIM 表示灯 ③ が消灯：** ディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯 ③ が点灯：** 可変スピードリミッターが選択されています。

ディストロニック・プラスの作動

作動条件

ディストロニック・プラスを作動させるには、以下の条件を満たしていなければなりません：

- エンジンがかかっていなければならない。ディストロニック・プラスを使用する準備ができるまで、2 分程度走行しなければならない。
- パーキングブレーキが解除されていなければならない。
- ディファレンシャルロックが解除されていなければならない。
- ESP®は設定されているが、介入していない。
- トランスミッションがポジション **D** でなければならない。
- **P** から **D** にシフトするときに運転席ドアが閉じている、または運転者のシートベルトが装着されていなければならない。
- 助手席ドアとリアドアが閉じていなければならない。
- 車両が横滑りしていない。
- ディストロニック・プラスの機能が選択されていなければならない (▷ 137 ページ)
- トランスファーケースがシフトポジション **HIGH RANGE** になければならない。
- 車両が 22-25%以上の上り坂または下り坂勾配にあってはならない。
- レーダーセンサーに汚れがあってはならない (▷ 229 ページ)。

走行時の作動

30 km/h 以下の速度で走行しているときに、先行車両が検知され、マルチファンクションディスプレイに表示された場合は、ディストロニック・プラスを作動させることができます。先行車両が検知および表示されなくなると、ディストロニック・プラスが解除され、確認音が鳴ります。

▶ クルーズコントロールレバーを運転者の方向に軽く引く ④ か、押し上げる ① または下げます ⑤。
ディストロニック・プラスが作動します。

▶ 希望の速度が設定されるまでクルーズコントロールレバーを押し上げたままにするか ① 下げたままにします ⑤。

▶ アクセルペダルから足を放してください。
記憶させた希望の速度までのみ、先行車両の速度に自車の速度が合わせられます。

ℹ アクセルペダルから完全に足を放していない場合は、マルチファンクションディスプレイにディストロニックプラス制御待機中というメッセージが表示されます。このときは、ゆっくり走行している先行車両

との設定距離は維持されません。アクセルペダルの位置に応じた速度で走行します。

車両が停止しているときに作動させる

この機能は、交通渋滞の終了時など交通の流れに乗りたい場合に便利です。

以下の場合にのみディストロニック・プラスを作動させることができます：

- 先行車両があり、および
- 自車が停止している

▶ クルーズコントロールレバーを運転者の方向に軽く引くか ④、押し上げる ① または下げます ⑤。
ディストロニック・プラスが作動します。

ℹ 先行車両が検知されている場合は、車両が停止していて、30 km/h 以下の速度のときにのみ、ディストロニック・プラスを作動できます。そのためには、メーターパネルのディストロニック・プラスの距離表示を作動させなければなりません (▷ 162 ページ)。

▶ 希望の速度が設定されるまで、クルーズコントロールレバーを上 ①、または下 ⑤ に押したままにします。

ℹ クルーズコントロールレバーを使用して希望の速度を設定したり、クルーズコントロールレバーのダイヤルを使用して設定最短距離を設定することができます (▷ 137 ページ)。

現在の速度/最後に記憶させた速度で作動させる

⚠ **警告**

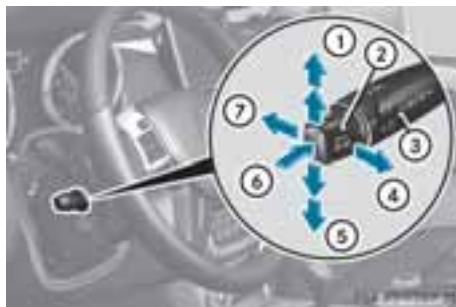
設定速度を呼び出し、それが現在の速度と異なるときは、車両が加速または減速します。 設定速度を覚えていないと、車両が不意に加速したりブレーキがかかることがあります。 事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。 設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

▶ クルーズコントロールレバーを手前 ④ に軽く引きます。

▶ アクセルペダルから足を放してください。
ディストロニック・プラスが作動します。初めて作動させたときは、そのときの速度が記憶されます。それ以外の場合は、車両の巡航速度を以前に記憶させた数値に設定します。

ディストロニック・プラスでの運転

発進と走行

▶ **先行車両が発進した場合は、** ブレーキペダルから足を放します。

▶ クルーズコントロールレバーを手前 ④、上 ① または下 ⑤ に軽く引きます。

または

▶ 軽くアクセルペダルを踏みます。
車両が発進して、走行速度を先行車両の速度に合わせます。

先行車両がいない場合は、ディストロニック・プラスはクルーズコントロールと同じように作動します。

先行車両が減速したことをディストロニック・プラスが検知した場合は、車両

にブレーキを効かせます。このようにして設定した車間距離が維持されます。

ディストロニック・プラスは、先行車が速度を上げたことを検知した場合は、設定速度まで車両を加速します。

ブレーキを踏んだとき、車両が停止していない場合はディストロニック・プラスは解除されます。

車線変更

追い越し車線に移る場合は、以下のときにディストロニック・プラスが運転者を支援します：

- ディストロニック・プラスが先行車両との距離を維持している
- 対応する方向指示灯を作動させている
- ディストロニック・プラスが衝突の危険を検知していない

これらの条件を満たした場合は、車両は加速します。車線変更に時間がかかりすぎたり、車両と先行車両との距離が短すぎる場合は、加速は中断されます。

ℹ 車線を変更するとき、ディストロニック・プラスは左の車線（左ハンドル車両）または右の車線（右ハンドル車両）をモニターします。

停止

⚠ **警告**

車から離れるときは、ディストロニック・プラスによりブレーキがかかっていても以下の場合は車両が動き出すことがあります。

- システムまたは電源供給に異常があるとき
- 乗員または車外の誰かがクルーズコントロールレバーを操作して、ディストロニック・プラスが解除されたとき
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき
- 同乗者などがアクセルペダルを踏んだとき

事故の危険性があります。

車から離れるときは、必ずディストロニック・プラスをオフにして車両が動き出さないように固定します。

先行車両が停止したことをディストロニック・プラスが検知した場合は、車両が停止するまでブレーキを効かせます。

一度車両が停止すると、停車したままになり、ブレーキを踏む必要はありません。

ℹ 設定最短距離によっては、車両は先行車両の後方に十分な距離があるところで停止することがあります。設定最短距離は、クルーズコントロールレバーのダイヤルを使用して設定します。

急な上り坂または下り坂勾配で、または不具合がある場合は、トランスミッションが自動的にポジション **P** にシフトすることがあります。

ディストロニック・プラスの解除

ディストロニック・プラスを解除するためにはいくつかの方法があります：

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ① に軽く押します。

または

▶ 車両が停止していないときにブレーキを効かせます。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ③ に軽く押します。
可変スピードリミッターが選択されます。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

ディストロニック・プラスを解除したときは、マルチファンクションディスプレイに ディストロニックプラス オフ というメッセージが約 5 秒間表示されます。

ℹ エンジンを停止するまでは、最後に記憶させた速度が記憶されたままになります。

以下の場合は、ディストロニック・プラスが自動的に解除されます：

• パーキングブレーキを効かせる
• ESP®が介入した、または ESP®を解除した
• トランスミッションが **P**、**R**、または **N** ポジションにある
• 車両が電波望遠鏡施設の近辺にある
• 発進するためにクルーズコントロールレバーを運転者の方向に引き、助手席ドアまたはいずれかのリアドアが開いている
• 車両が横滑りしている

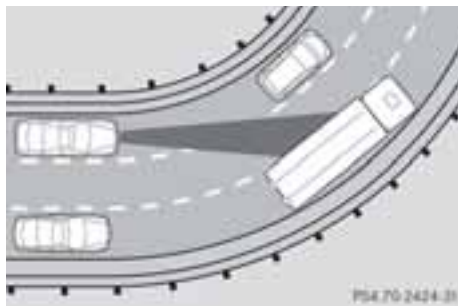
ディストロニック・プラスが解除された場合は、警告音が鳴ります。マルチファンクションディスプレイに ディストロニック・プラス オフ というメッセージが約 5 秒間表示されます。

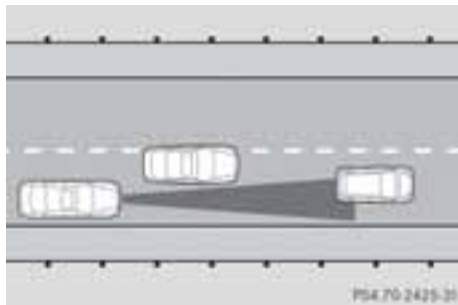
マルチファンクションディスプレイのアシストメニュー (▷ 162 ページ) で、距離表示を選択することができます。

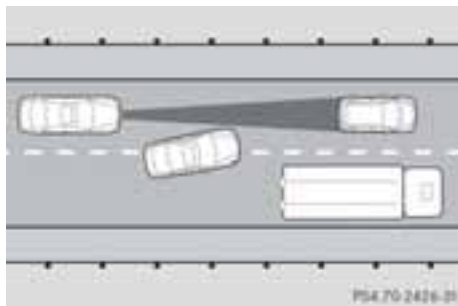
ディストロニック・プラスでの運転のヒント

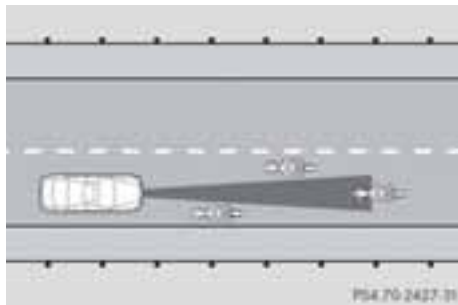
全体的な注意事項

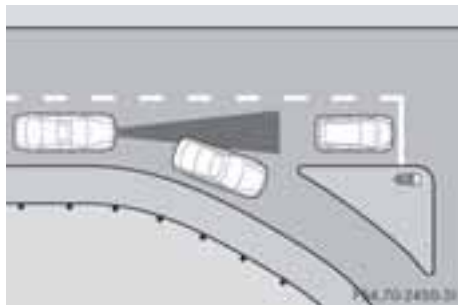
以下には、特に注意すべき道路や交通状況が説明されています。 そのような状況では、必要に応じてブレーキを効かせてください。 ディストロニック・プラスは解除されます。

カーブでの走行、カーブに入るときやカーブを抜けるとき

カーブではディストロニック・プラスの車両検知能力が制限されます。 予期せずまたは遅くブレーキを効かせることがあります。

車線の中央を走行していない車両

ディストロニック・プラスは車線の中央を走行していない車両を認識することができません。 先行車との距離は非常に短くなります。

車線変更している他の車両

ディストロニック・プラスは割り込んでくる車両を検知しません。 この車両との距離は非常に短くなります。

幅の狭い車両

ディストロニック・プラスは道路の端の幅の狭い車両を検知しないことがあります。 先行車との距離は非常に短くなります。

障害物や停止車両

ディストロニック・プラスは障害物や停止車両に対してブレーキを効かせないことがあります。 例えば、検知していた車両がカーブを曲がり、障害物や停止車両が現れたときは、ディストロニック・プラスはこれらに対してブレーキを効かせないことがあります。

横切る車両

ディストロニック・プラスは車線を横切る車両を誤って検知することがあります。交差点の信号でディストロニック・プラスを作動させると、不意に車両が発進することがあります。

ブラインドスポットアシスト

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

ブラインドスポットアシストは以下の場合は車両に反応しません。

- 自車が追い越そうとしている隣接車線の車両が接近し過ぎ、死角エリアに入ったとき
- 接近と追い越しの速度差が非常に大きいとき

このような状況では、ブラインドスポットアシストは運転者に警告を発することができません。事故の危険性があります。

常に交通状況に十分注意を払い、車両の両側と安全な車間距離を維持してください。

ブラインドスポットアシストは単なる支援に過ぎません。いくつかの車両は検知

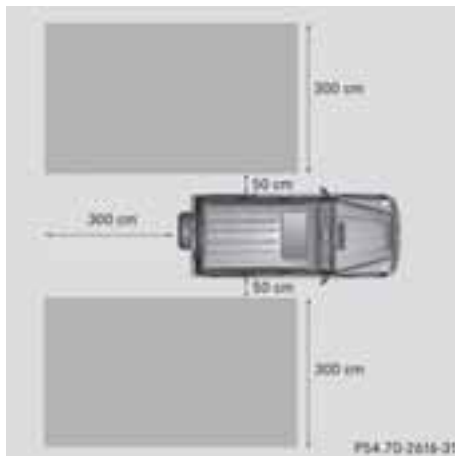
できないことがあり、注意を払った走行の代わりになるものではありません。

特に以下の状況では、障害物の検知が困難になることがあります。

- センサーの汚れ、またはセンサーが覆われている
- 霧や激しい雨、雪などで視界が悪い
- オートバイや自転車のような、前方を走行している幅の狭い車両
- 非常に幅の広い車線
- 幅の狭い車線
- 車線の中央を走行していない車両
- ガードレールまたは他の道路分離帯

全体的な注意事項

ブラインドスポットアシストは、レーダーセンサーシステム装備車両の左および右側のエリアをモニターします。30 km/h 以上の速度で運転者を支援します。ドアミラーの警告表示によって、モニターしている範囲で検知された車両に運転者の注意が向けられます。そのときに車線変更する側の方向指示灯を作動させた場合は、視覚的および聴覚的な衝突警告が行なわれます。そのために、ブラインドスポットアシストはリアバンパーのセンサーを使用します。

センサーのモニター範囲

ブラインドスポットアシストは、図に示すように車両の後方 3m まで、および車両のすぐ隣の範囲をモニターします。

車線の幅が狭い場合は、車両が車線の中央を走行していない場合に、2 車線横を走行している車両が検知されることがあります。これは、車両が車線の外端部を走行している場合などです。

以下は、システムの特性に起因するものです：

- ガードレール、または類似の連続している車線境界の近くを走行しているときに、誤って警告が発せられることがあります。
- トレーラーなどの長い車両と長時間並走しているときに、警告が中断されることがあります。

ブライドスポットアシストの 2 個のセンサーは、リアバンパー側面に内蔵されています。バンパーのセンサー付近に汚れ、氷または泥が付着していないことを確認してください。リアの自転車ラックまたは飛び出た荷物などで、レーダーセンサーが覆われていてはいけません。強い衝撃を受けたり、バンパーに損傷を与えたときは、メルセデス・ベンツ指定サー

ビス工場でレーダーセンサーの機能を点検してください。さもないと、ブラインドスポットアシストが正常に作動しなくなることがあります。

表示および警告表示

⚠ **警告**

ブラインドスポットアシストは以下の場合は車両に反応しません。

- 自車が追い越そうとしている隣接車線の車両が接近し過ぎ、死角エリアに入ったとき
- 接近と追い越しの速度差が非常に大きいとき

このような状況では、ブラインドスポットアシストは運転者に警告を発することができません。事故の危険性があります。

常に交通状況に十分注意を払い、車両の両側と安全な車間距離を維持してください。

① 黄色の表示灯/赤色の警告灯

ブラインドスポットアシストが設定されている場合、約 30 km/h の速度までは、ドアミラーの表示灯 ① が黄色に点灯します。約 30 km/h 以上の速度では、表示灯が消え、ブラインドスポットアシストが作動可能になります。

30km/h 以上の速度で、ブラインドスポットアシストのモニター範囲内で車両が検知された場合は、対応する側の警告灯 ① が赤色に点灯します。この警告は、車両はブラインドスポットのモニター範囲に後方から、または側方から入ったときに発せられます。車両を追い越すときは、速度差が 12 km/h 以下の場合にのみ警告が発せられます。

リバースギアに入れた場合は、黄色の表示灯は消灯します。そして、ブラインドスポットアシストが解除されます。

表示灯/警告灯の明るさは周囲の明るさによって自動的に調整されます。

衝突警告

① 黄色の表示灯/赤色の警告灯

ブラインドスポットアシストのモニター範囲で車両が検知され、対応する方向指示灯を作動させた場合は、警告音が 2 回鳴ります。赤色の警告灯 ① が点滅します。方向指示灯をそのままにしている場合は、赤色の警告灯 ① の点滅により検知された車両が示されます。警告音はそれ以上鳴りません。

ブラインドスポットアシストの作動

① 黄色の表示灯/赤色の警告灯

▶ 内蔵ナビゲーションシステム非装備車両では、Becker® MAP PILOT が接続されていることを確認します。別冊の取扱説明書をご覧ください。

▶ ブラインドスポットアシストがマルチファンクションディスプレイで設定されていることを確認してください (▷ 162 ページ)。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▷ 116 ページ)。
ドアミラーの警告灯 ① が約 1.5 秒間赤色で点灯した後、黄色に変わります。

トレーラーのけん引

トレーラーを連結する場合は、電気接続が正しく確立されていることを確認してください。トレーラーのライトの点灯により、接続が正しいことを確認することができます。そして、ブラインドスポットアシストが解除されます。ドアミラーの表示灯が黄色に点灯し、マルチファンクションディスプレイに ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞｽﾎﾟｯﾄｱｼｽﾄ 現在 使用できません 取扱説明書を参照 というメッセージが表示されます。

ℹ ドアミラーの表示灯を消灯させることができます。そうするためには、以下の場合にブラインドスポットアシストを解除する必要があります：

- エンジンスイッチのキーが **2** の位置にある
- エンジンがかかっていない
- トレーラーとの電気的接続が確立された

ホールド機能

全体的な注意事項

ホールド機能は以下の状況で運転者を支援します。

- 急な坂道などで発進するとき
- 急な坂道でステアリング操作を行なうとき
- 信号待ちをしているとき

ブレーキペダルを踏み続けなくても、停車した状態を維持することができます。
発進するためにアクセルペダルを踏み込むと、ブレーキ効果が解除されホールド機能は解除されます。

ℹ オフロードや急勾配の坂道、滑りやすい路面または軟弱な路面を走行するときは、ホールド機能を使用しないでください。 このような路面では、ホールド機能により停車した状態を維持できません。

作動条件

ホールド機能は、以下のときに作動させることができます。

- 停車しているとき
- エンジンがかかっているとき、または ECO スタート / ストップ機能によりエンジンが自動的に停止しているとき
- エンジンがかかっているとき
- 運転席ドアを閉じているとき、または運転者がシートベルトを着用しているとき

- シフトポジションが D、R、N のいずれかのとき
- ディストロニック・プラスが解除されます。

ホールド機能を作動させる

ホールド機能が作動しているときは車両にブレーキがかかっています。 そのため、自動洗車機の使用時やけん引時はホールド機能を解除してください。

▶ 作動条件を満たしていることを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んでください。

▶ マルチファンクションディスプレイに HOLD が表示されるまでブレーキペダルを素早く深く踏み込みます。
ホールド機能が作動します。 ブレーキペダルから足を放すことができます。

ℹ 最初にブレーキペダルを踏んだときにホールド機能が作動しない場合には、少し待った後に再度試してください。

ホールド機能を解除する

⚠ **警告**

車両を離れるときは、ホールド機能によりブレーキを効かせているにも関わらず、以下のときに発進するおそれがあります。

- システムまたは電圧の供給に不具合がある
- 例えば車両乗員によってアクセルペダルが踏まれることによりホールド機能が解除される
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造される
- バッテリーの接続が外された

事故の危険性があります。

車両を離れる前には常にホールド機能を解除し、発進しないように車両を固定してください。

ホールド機能は以下のときに自動的に解除されます。

- シフトポジションが D または R のときにアクセルペダルを踏んだとき
- シフトポジションを P にしたとき
- マルチファンクションディスプレイの HOLD が消えるまでブレーキペダルを再度深く踏んだとき
- ディストロニック・プラスを作動させたとき

急勾配の上り坂または下り坂を走行しているときや異常が発生したときは、トランスミッションが自動的に P にシフトされることがあります。

フルタイム 4 輪駆動システム

! 片方のアクスルを持ち上げた状態で車両をけん引しないでください。 トランスファーケースを損傷するおそれがあります。このような損傷はメルセデス・ベンツの一般保証では保証されません。 全ての車輪が接地しているか、完全に持ち上がっていなければなりません。 車輪全てが完全に接地している状態で車両をけん引するときは、取扱説明書に従ってください。

! パーキングブレーキをテストするときは、ブレーキテスト用ダイナモメーターで車両を短時間のみ（約 10 秒以内）作動させてください。 そのときは、エンジンスイッチを 0 または 1 の位置にしてください。 お守りいただかないと、駆動装置やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

! 機能テストや性能テストを行なうには、必ず 2 軸式ダイナモメーターを使用してください。 このようなダイナモメーターで車両を作動させる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。 お守りいただかないと、駆動装

置やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

4 輪駆動システムでは、4 輪すべてが常に駆動されます。不十分なグリップにより駆動輪が空転する場合は、4 輪駆動システムは、ESP®や 4ETS とともに車両の駆動力を向上させます。

接地力が不十分なため駆動輪が空転する場合：

- 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- 車両が動いている間は、アクセルペダルから足をゆっくりと放します。

適切な運転スタイルをとっていない場合、または注意が散漫な場合は、フルタイム 4 輪駆動システムは事故の危険性を低減させることはできず、また物理的法則を乗り越えることもできません。4 輪駆動システムは、道路、天候または交通状況を考慮することはできません。4 輪駆動システムは単なる支援に過ぎません。運転者は、先行車両との安全な距離の維持、車両速度、適時のブレーキ操作および車線の維持に対する責任があります。

冬季の走行状況では、常にウィンタータイヤ（M+S タイヤ）を、必要な場合はスノーチェーンを使用してください (▷ 252 ページ)。このようにしてのみ、4 輪駆動の最大の効果を発揮することができます。

"オフロード走行"についての情報は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

パークトロニック

重要な安全上の注意事項

! 駐車するときは、鉢植えやトレーラーけん引部などセンサーの上下にあるものに十分注意をしてください。パークトロニックはこれらが車両の至近距離にあるときは感知できません。車両や物を損傷するおそれがあります。

センサーは雪やその他の超音波を吸収しやすいものを感知しないことがあります。

自動洗車機やトラックの圧縮空気ブレーキ、空気ドリルなどが発生する超音波によりパークトロニックが機能しないことがあります。

不整地などではパークトロニックが正しく作動しないことがあります。

パークトロニックは超音波センサーによる、電子的な駐車の支援です。車両と物体との距離を視覚的および聴覚的に示します。

パークトロニックは単なる支援に過ぎません。周囲に対する運転者の注意の代わりになるものではありません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。移動、駐車または発進する前に、車両の前方、後方および側方が安全であることを確認してください。移動範囲に人、動物または障害物がないことを確認してください。

パークトロニックは、検知範囲の下または上にある人や障害物を検知しません。結果として、パークトロニックはそのような範囲にある障害物に関しては、警告を行なうことができません。

以下のときに、パークトロニックは自動的に作動します：

- イグニッションをオンにした
- トランスミッションをポジション **D**、**R** または **N** にシフトした
- パーキングブレーキを解除した

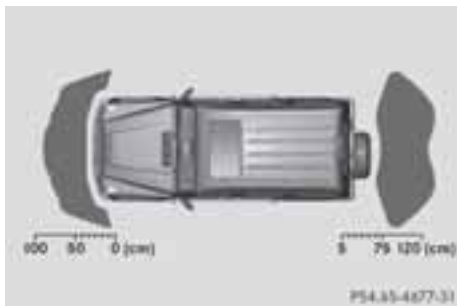
パークトロニックは、18 km/h 以上の速度で解除されます。それより低い速度で再作動します。

パークトロニックはフロントバンパーの 6 個のセンサーとリアバンパーの 4 個のセンサーを使用して、車両周辺のエリアをモニターします。

センサーの範囲

全体的な注意事項

① 例：右側フロントバンパーのセンサー

側面図

上面図

センサーに汚れ、氷および泥がないようにしてください。さもないと、適切に機能しないことがあります。センサーに損傷を与えないように注意して、定期的に清掃してください。(▷ 229 ページ)

フロントセンサー

センター	100 cm
コーナー	60 cm

リアセンサー

センター	約 90 cm（スペアタイヤから）
コーナー	80 cm

最短距離

センター	20 cm
コーナー	20 cm

この範囲内に障害物がある場合は、対応する警告表示が点灯して警告音が鳴ります。距離が最短以下になった場合は、距離が表示されなくなることがあります。

警告表示

前方エリアの警告表示

① 車両左側のセグメント

② 車両右側のセグメント

③ 作動待機を示すセグメント

警告表示はセンサーと障害物との距離を示します。前方エリアの警告表示は、中央送風口上部のダッシュボードにあります。後方エリアの警告表示は後席のルーフライニング部分にあります。

車両の各側の警告表示は、5 個の黄色、および 2 個の赤色のセグメントに分けられます。作動待機を示す黄色いセグメント ③ が点灯している場合は、パークトロニックは作動可能です。

エンジンがかかっているときに、選択されているシフトポジションと車両の進行方向によって、どの警告表示が作動するかが決定されます。

シフトポジション	警告表示
D	前方エリアが作動します。
R、N または車両が後退している	前方および後方エリアが作動します。
P	どのエリアも作動しません。

車両が障害物に近づくにつれ、障害物からの車両の距離に応じて 1 個またはそれ以上のセグメントが点灯します。

以下のように警告が行なわれます：

- 6 個目のセグメントを超えると、断続的な警告音が約 2 秒間聞こえます。
- 7 個目のセグメントを超えると、警告音が約 2 秒間聞こえます。これは、最短距離に達していることを示しています。

パークトロニックの解除/作動

① 表示灯

② パークトロニックの解除 / 作動

表示灯 ① が点灯しているときは、パークトロニックは解除されています。

ℹ エンジンスイッチのキーを 2 の位置にすると、パークトロニックは自動的に作動します。

トレーラーのけん引

車両とトレーラーが電気的に接続されると、リア側のパークトロニックが解除されます。

パークトロニックのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯している。警告音も約 2 秒間鳴った。 パークトロニックが数秒後に解除され、パークトロニックスイッチの表示灯が点灯する。	パークトロニックが故障のため停止している。 ▶ 不具合が続く場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯している。 パークトロニックが数秒後に解除される。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物がある。 ▶ パークトロニックセンサーを掃除してください (▷ 229 ページ)。 ▶ エンジンスイッチを再びオンにしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などが原因で、機能が解除されている。 ▶ 場所を変えてパークトロニックが作動するか確認してください。

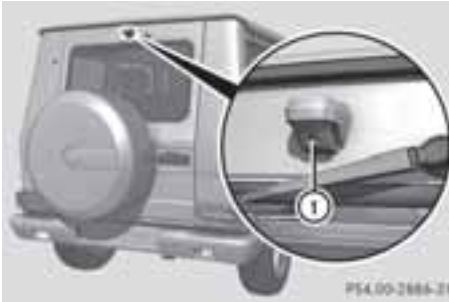
リアビューカメラ

重要な安全上の注意事項

リアビューカメラは単なる支援にすぎません。周囲に対する運転者の注意の代わりになるものではありません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車を行なっている間は、周囲に人や動物、障害物がないことを確認してください。

以下のような環境ではリアビューカメラが機能しなかったり、制限された方法で機能します：

- リアドアが開いている場合
- 激しい雨、雪または霧で
- 夜や非常に暗い場所 で
- カメラが非常に明るい光に照らされている場合
- 周囲が蛍光灯の光、または LED の光で照らされている場合（ディスプレイがちらつくことがあります）
- 冬に暖かい車庫に入ったときなど、急激な温度変化が原因でカメラが曇った場合
- カメラのレンズが汚れていたり、遮られている場合
- 車両の後部が損傷している場合 このような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの位置および設定を点検してください。この目的のためにメルセデス・ベンツ指定サービス工場を利用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。

リアビューカメラの作動/停止

① リアビューカメラ

▶ **作動させる：** エンジンスイッチのキーが 2 の位置にあることを確認します。

▶ “リアビューカメラ” 機能が COMAND システムで選択されていることを確認します。別冊 COMAND システム取扱説明書をご覧ください。

▶ リバースギアに入れます。
車両後方のエリアが COMAND システムのディスプレイに表示されます。

停止する： リアビューカメラは以下のときに停止します：

- トランスミッションをポジション P にシフトした
- 10 m 前進した
- トランスミッションを R から他のポジションにシフトして 15 秒後に
- 10 km/h 以上の速度で前進した

オフロード走行システム

トランスファーケース

全体的な注意事項

車両はフルタイム 4 輪駆動です。フロントおよびリアアクスルは、常時駆動しています。

オフロード走行についてのさらなる情報は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

ギアレンジ

⚠ **警告**

トランスファーのシフトチェンジが完了するまで待たないと、トランスファーがニュートラルポジションに入ったままになることがあります。 被駆動輪への動力伝達が妨げられるおそれがあります。 車両が不意に動き出すおそれがあり危険です。 事故の危険性があります。

トランスファーの変速プロセスが完了するまで待ってください。

ギアを変速している間はエンジンを停止せず、またオートマチックトランスミッションを他のギアにシフトしないでください。

HIGH RANGE	通常のあらゆるオンロード走行状況用の位置。
LOW RANGE	オフロード走行用のローレンジ位置。 特にトレーラーをけん引するときに、急な上り坂または下り坂勾配でも使用。 車両は、オンロード走行レンジ **HIGH RANGE** の約半分の速度で走行します。それに応じて、駆動力が高くなります。

トランスファーケースのシフト

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

トランスファーがニュートラルポジションのときは、被駆動輪への動力伝達が遮断されます。 そのため、車両が動き出すおそれがあります。 事故の危険性があります。

パーキングブレーキをかけて車両を確実に固定してください。また、上り坂や下り坂では輪止めなどをかけてください。

HIGH RANGE から LOW RANGE、および LOW RANGE から HIGH RANGE へのギアチェンジ操作は、完了するまで常に待つようにしてください。ギアを変速している間はエンジンを停止せず、またオートマチックトランスミッションを他のギアにシフトしないでください。

全体的な注意事項

① 現在のギアレンジ

① 表示灯

② LOW RANGE スイッチ

オフロードギアレシオを作動させる

! 選択操作は以下のときのみ行なってください。

- エンジンがかかっているとき
- 車両が走行しているとき
- セレクターレバーが N に入っているとき
- 約 40 km/h 以下で走行しているとき

お守りいただかないと、トランスファーを損傷するおそれがあります。

ℹ **AMG 車両：** ECO スタートストップ機能は、トランスファーケース位置 **LOW RANGE** では作動しません (▷ 118 ページ)。

▶ LOW RANGE スイッチ ② を押します。
シフト動作が完了したときは、マルチファンクションディスプレイにトランスファーケース位置 LOW RANGE が表示されます。
表示灯 ① が点灯します。

▶ トランスミッションをポジション **D** にシフトします。

オフロードギアレシオを解除する

⚠ 警告

トランスファーがニュートラルポジションのときは、被駆動輪への動力伝達が遮断されます。 そのため、車両が動き出すおそれがあります。 事故の危険性があります。

パーキングブレーキをかけて車両を確実に固定してください。また、上り坂や下り坂では輪止めなどをかけてください。

▶ スイッチ ② を押します。
シフト動作が完了したときは、マルチファンクションディスプレイにトランスファーケース位置 HIGH RANGE が表示されます。
表示灯 ① が消灯します。

ギア変速が完了していない場合は、以下のメッセージがディスプレイに表示されることがあります：

- トランスファー切り替え 条件不十分
  1 つまたは複数のシフト条件が満たされていません。
- トランスファーニュートラル
  トランスファーケースはギア変速動作を中止し、**N** になります。マルチファンクションディスプレイにトランスファーケース位置 N が表示されます。
- トランスファー切り替え 中止
  トランスファーケースがギア変速動作を実行していません。

▶ ギア変速動作を繰り返してください。
シフトチェンジのすべての条件が満たされていることを確認します。

- トランスファー故障 サービス工場に連絡
  トランスファーケースが故障しています。

▶ トランスファーケースをシフトしないでください。

▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で、車両の点検を受けてください。

ニュートラルにシフト

> ⚠ **警告**
> トランスファーがニュートラルポジションのときは、被駆動輪への動力伝達が遮断されます。 そのため、車両が動き出すおそれがあります。 事故の危険性があります。
> パーキングブレーキをかけて車両を確実に固定してください。また、上り坂や下り坂では輪止めなどをかけてください。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置に設定します(▷ 116 ページ)。

▶ パーキングブレーキを効かせてください。

▶ ブレーキペダルを踏んでください。

▶ セレクターレバーをポジション **N** に動かします (▷ 118 ページ)。

▶ LOW RANGE スイッチ ② を約 10 秒間押して保持します。
シフト動作が完了したときは、マルチファンクションディスプレイにトランスファーニュートラル というメッセージが 5 秒間表示されます。

ギア変速が完了していない場合は、以下のメッセージがディスプレイに表示されることがあります：(▷ 162 ページ)。

ℹ トランスファーケースが**ニュートラル**にあり、キーがエンジンスイッチにあって運転席ドアを開いた場合は、マルチファンクションディスプレイに トランスファーニュートラル というメッセージが表示されます。その後にパーキングブレーキを解除した場合は、警告音が鳴ります。

ディファレンシャルロック

全体的な注意事項

> ⚠ **警告**
> ディファレンシャルロックが作動しているときは、ABS、4ETS、ESP®および BAS が解除されます。これにより、車輪がロックして、制動距離を増加させる原因となることがあります。事故の危険性があります。
> ただちに、グリップの良い硬い路面でディファレンシャルロックを解除します。

! トランスファーケースの損傷を防ぐためには、以下の場合はローラーダイナモメーター（単軸ローラーダイナモメーター）でのみ車両を操作してください。

- 駆動していない軸を持ち上げる
  または
- 対応するプロペラシャフトが切り離されていて、トランスファーケースのディファレンシャルロックが作動している

さもないと、トランスファーケースが損傷するおそれがあります。

ディファレンシャルロックは車両のトラクションを高めます。

車両には以下のそれぞれにディファレンシャルロックが装備されています：

- トランスファーケース：これはフロントおよびリアアクスル間のバランスを制御します。
- リアアクスル：これはリアアクスルの車輪間のバランスを制御します。
- フロントアクスル：これはフロントアクスルの車輪間のバランスを制御します。

ディファレンシャルロックの作動

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

硬い、滑りにくい路面でディファレンシャルロックを作動する場合は、車両の操舵性能は大きく制限されます。特にカーブでかける場合は車両を操作できなくなることがあります。事故の危険性があります。

ただちに、グリップの良い硬い路面でディファレンシャルロックを解除します。

⚠ 警告

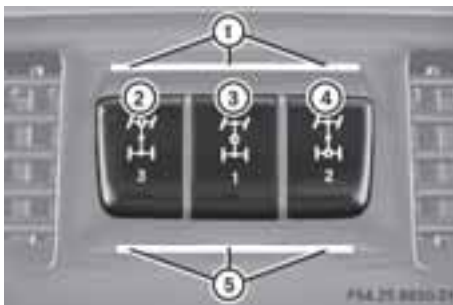
ディファレンシャルロックが作動しているときは、ABS、4ETS、ESP®および BAS が解除されます。これにより、車輪がロックして、制動距離を増加させる原因となることがあります。事故の危険性があります。

ただちに、グリップの良い硬い路面でディファレンシャルロックを解除します。

! 以下のときにのみディファレンシャルロックを作動してください。

- 歩く速度で走行している
- 駆動輪が空転していない
- 硬い路面を走行していない

全体的な注意事項

スイッチは、センターコンソール上部にあります。

① 機能表示灯（赤色）
② フロントアクスルのディファレンシャルロック
③ トランスファーケースのディファレンシャルロック
④ リアアクスルのディファレンシャルロック
⑤ 作動表示灯（黄色）

以下では、ディファレンシャルロックを作動させてください：

- オフロードで
- オフロード時に ABS、4ETS、ESP® および BAS を解除するために
- 河川などを渡るとき

オフロード走行についてのさらなる情報は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

ℹ 以下の順番でディファレンシャルロックを作動させることができます。③、④、②。

トランスファーケースのディファレンシャルロック

▶ **作動させる：** トランスファーケースをオフロードポジション **LOW RANGE** にシフトします(▷ 152 ページ)。

▶ スイッチ ③ を押します。
トランスファーケースがオフロードポジション **LOW RANGE** にある場合は、スイッチ ③ の下の黄色の作動表示灯が点灯します。
メーターパネルの表示灯 [OFF] が点灯します。
ディファレンシャルがロックされた場合は、スイッチ ③ の上の赤色の機能表示灯が点灯します。
マルチファンクションディスプレイに以下が表示されます。
ABS シヨウフカノウ ロック サレテイマス というメッセージ。
メーターパネルの警告灯 [OFF] [ABS] [ ] が点灯します。
トランスファーケースのディファレンシャルロックが作動します。
4ETS、ESP®、BAS および ABS が解除されます。

車両の操舵性能が著しく制限されます。最適なトラクションを得るために、慎重に走行して緩やかに加速します。

ℹ 必要に応じて、リアアクスル ④ のディファレンシャルロックおよびフロントアクスル ② のディファレンシャルロックを作動させることができます。

リアアクスルのディファレンシャルロック

▶ **作動させる：** スイッチ ④ を押します。
最初に黄色の作動表示灯 ⑤ が点灯し、続いてスイッチ ④ の赤色の機能表示灯 ① が点灯します。
リアアクスルのディファレンシャルロックが作動します。

フロントアクスルのディファレンシャルロック

▶ **作動させる：** スイッチ ② を押します。
最初に黄色の作動表示灯が点灯し、続いて赤色の機能表示灯が点灯します。
フロントアクスルのディファレンシャルロックが作動します。

ディファレンシャルロックの解除

以下の順番でディファレンシャルロックを解除できます：②、④、③。

▶ **すべてのディファレンシャルロックを同時に解除する：** スイッチ ③ を押します。
黄色の作動表示灯 ⑤ および赤色の機能表示灯 ① が消灯します。
通常走行の約 3 秒後に、ABS、4ETS、ESP®および BAS が作動します。
マルチファンクションディスプレイの ABS シヨウフカノウ ロック サレテイマス というメッセージが消え、メーターパネルの警告灯 [OFF]、[ABS] および [ ] が消灯します。

▶ トランスファーケースをオンロード位置 **HIGH RANGE** にシフトします(▷ 152 ページ)。

ディファレンシャルロックを解除したときに赤色の表示灯 ① が消灯しない場合：

▶ 交通状況に従ってください。

▶ 車両が動いている間に少しステアリングを動かしてください。
ディファレンシャルロックが解除されたときは、赤色の機能表示灯 ① が消灯します。

トレーラーのけん引

トレーラーをけん引する際の注意事項

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

走行中にブレーキペダルの上に足を置くと、ブレーキシステムがオーバーヒートすることがあります。これにより制動距離が増加して、ブレーキシステムが故障する原因になるおそれもあります。事故の危険性があります。

ブレーキペダルをフットレストとして使用しないでください。ブレーキペダルとアクセルペダルを同時に踏まないでください。

⚠ **警告**

車両/トレーラーの連結が傾き始めると、そのコントロールを失うことがあります。車両/トレーラーの連結が横転する場合があります。事故の危険性があります。

速度を上げることによって車両/トレーラーの連結を真っ直ぐにしようとするべきではありません。車両速度を下げ、カウンターステアを行なわないでください。必要であればブレーキをかけてください。

⚠ **警告**

ボールカップリングが正しく装着されていない、または提供されたボルトおよび対応する割りピンで固定されていない場合は、トレーラーが緩むことがあります。事故の危険性があります。

必ず記載されているようにボールカップリングを装着して固定してください。各走行前に、ボールカップリングがボルトおよび対応する割りピンで固定されていることを確認してください。

超えてはならない適切な許容値は車両の書類に記載されています。

メーカーによって承認された数値はビークルプレートに、けん引車両用のものは"サービスデータ"の項目にあります (▷ 270 ページ)。

トレーラーの連結および切り離しは慎重に行ってください。トレーラーをけん引車両に正しく連結していない場合は、トレーラーが外れるおそれがあります。

以下の数値が超えていないことを確認してください：

- 許容ノーズウェイト
- 許容トレーラー荷重
- けん引車両の許容後軸荷重
- けん引車両とトレーラー両方の最大許容車両総重量

トレーラーをけん引するときは、トレーラーなしで走行しているときと比べて車両操縦性が以下のように異なります。

トレーラー連結車両：

- 重くなります
- 加速および登坂性能が制限されます
- 制動距離が長くなります
- 強い横風の影響を受けやすくなります
- より繊細なステアリング操作が要求されます
- ターニングサークルが大きくなります

これにより、車両操縦性が損なわれることがあります。

トレーラーをけん引するときは、現在の道路と天候の状況によって常に速度を調整してください。トレーラー連結車両の最高許容速度を越えないようにしてください。

運転のヒント

▶ 長い急な下り坂勾配では、ギアレンジ **1**、**2** または **3** を適時選択します (▷ 119 ページ)。

ℹ これは、クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターを作動させている場合も該当します。

▶ 必要な場合は、トランスファーケースを **LOW RANGE** にシフトします (▷ 152 ページ)。
これによりエンジンのブレーキ効果を利用し、車両の速度を維持するために必要なブレーキ操作が少なくなります。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。さらに制動効果が必要な場合は、連続的にではなく、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。

トレーラー連結車両の許容最高速度は、トレーラーの種類によって異なります。走行を始める前に、トレーラーの書類で最高許容速度を確認してください。関連する国の法律で定められている最高速度に従ってください。

一部のメルセデス・ベンツ車では、トレーラーけん引時は最高許容後軸荷重が増大します。このことがお客様の車両に該当するかは、"サービスデータ"の項目を参照してください。トレーラーけん引時に追加の最大後軸荷重を使用する場合は、車両/トレーラー連結では、使用許可に関する理由で最高速度が 100 km/h を超えないようにします。これは、車両/トレーラー連結の最高許容速度が 100 km/h を超える国でも適用されます。

トレーラーをけん引するときは、車両操縦性はトレーラーなしでの走行時に比べて異なり、より燃料を消費します。

運転のヒント

トレーラーが横揺れする場合

▶ 加速しないでください。

▶ カウンタステアを避けてください。

▶ 必要に応じてブレーキをかけてください。

- トレーラーをけん引していないときよりも、先行車との車間距離を十分に保ってください。
- 急ブレーキを避けてください。 できれば、最初は穏やかにブレーキをかけ、トレーラーの動力を維持してください。その後、急速にブレーキ踏力を上げてください。
- 停止状態からの登坂性能は、海抜ゼロでの数値を示しています。 山岳地域を走行するときは、高度が増すにつれてエンジン出力および車両の登坂性能が低下します。

トレーラーの連結

⚠ **警告**

オーバーランブレーキを固定した状態でトレーラーを外すと、車両とトレーラのけん引バーの間に手を挟むおそれがあります。けがの危険性があります。

オーバーランブレーキが固定されている場合は、トレーラーを外さないでください。

! アンチロック・ブレーキング・システムが装備されているので、トレーラーブレーキシステム（トレーラーにこれが装備されている場合）をけん引車両の油圧ブレーキシステムに直接接続しないでください。さもなければ、けん引車両のブレーキもトレーラーのブレーキも作動しなくなります。

トレーラーの最大許容寸法（幅と長さ）を遵守してください。

ほとんどの州とカナダのすべての州が以下のことを規定しています。

- けん引車両とトレーラー間の安全チェーン。 チェーンはトレーラーけん引バーの下に十字パターンで通してください。 それらはバンパーまたは車軸ではなく、トレーラーけん引ヒッチに接続してください。
  きついコーナリングを可能にするためにチェーンには十分な遊びを持たせてください。
- 特定のトレーラーの独立したブレーキシステム
- ブレーキのかかったトレーラーの安全スイッチ。 お客様の州の法律に従って特定の要件を決定します。
  トレーラーがけん引車両から外されると、安全スイッチがトレーラーのブレーキを効かせます。

▶ オートマチックトランスミッションがトランスミッション P の位置であることを確認してください。

▶ 車両のパーキングブレーキを効かせます。

▶ トレーラーを連結します。

▶ すべての電気接続を確立します。

トレーラーの連結解除

! オーバーランブレーキを締結した状態でトレーラーを外さないでください。 オーバーランブレーキの反発により車両が損傷する可能性があります。

▶ オートマチックトランスミッションがシフトポジション P にあることを確認してください。

▶ パーキングブレーキを効かせてください。

▶ エンジンを始動します。

▶ リアドアを含むすべてのドアを閉じます。

▶ トレーラーのパーキングブレーキを効かせます。

▶ トレーラーケーブルを外し、トレーラーの連結を外してください。

▶ エンジンを停止します。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- トレーラーの電力供給
- LED ライトの電球切れ表示灯
- 7 ピンコネクター付きトレーラー

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。 国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 28 ページ).

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。 安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

⚠ **警告**

メーターパネルに故障や異常がある場合は、安全性に関わる機能を認識することができません。走行安全性が損なわれる可能性があります。 事故の危険性があります。

注意して運転してください。すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムからのメッセージや警告のみを表示します。そのため、車両が安全に作動していることを常に確認ください。さもないと、安全に作動していない車両により、事故の原因になることがあります。

マルチファンクションディスプレイを操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。

メーターパネルのイラストについては、(▷ 160 ページ) をご覧ください。

表示および操作

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります：

- メーターパネル
- メーターパネル照明
- 冷却水温度計
- タコメーター
- セグメント付きスピードメーター
- マルチファンクションディスプレイ
- 外気温度表示

マルチファンクションディスプレイの操作

概要

① マルチファンクションディスプレイ
② 音声認識機能に切り替える：別冊の取扱説明書をご覧ください
③ 右側コントロールパネル
④ 左側コントロールパネル
⑤ リターンスイッチ

▶ **マルチファンクションディスプレイを作動させる：** エンジンスイッチのキーを **1** の位置にまわします (▷ 116 ページ)。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイの表示と設定を操作することができます。

左側コントロールパネル

	• メニューやメニューバーの呼び出し
▲	**軽く押す：** • リストのスクロール • サブメニューや機能の選択 • オーディオ メニュー：保存した放送局、音楽トラックまたはビデオシーンの選択 • TEL（電話）メニュー：電話帳の表示、名前や電話番号の選択
	押して保持する： • オーディオ メニュー：高速スクロールによる、前/次の放送局または音楽トラック、ビデオシーンの選択 • TEL （電話）メニュー： 電話帳を開いている場合は、高速スクロールの開始
	• 選択/ディスプレイメッセージの確定 • TEL（電話）メニュー：電話帳への切り替えと発信の開始 • オーディオ メニュー：放送局サーチ機能による希望の放送局の選局

右側コントロールパネル

	• 通話の拒否、または終了 • 電話帳/発信履歴の終了
	• 発信、または受話 • 発信履歴への切り替え
+	• 音量の調整
🔇	• ミュート

リターンスイッチ

	軽く押す： • 戻る • 音声認識の停止：別冊取扱説明書をご覧ください • ディスプレイメッセージの消去/最後に使用した トリップ メニュー機能の呼び出し • 電話帳/発信履歴の終了
	押して保持する： • トリップ メニューの基本画面の呼び出し

メニューおよびサブメニュー

メニュー概要

ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押してメニューバーを呼び出し、メニューを選択します。

マルチファンクションディスプレイの操作 (▷ 161 ページ)

デジタル版取扱説明書には、個別のメニューに関するさらなる情報が記載されています。

車両に装着されている装備に応じて、以下のメニューを呼び出すことができます。

- トリップ メニュー
- ナビ メニュー（ナビゲーション案内）
- オーディオ メニュー
- TEL メニュー（電話）
- アシスト メニュー（アシスト）
- メンテナンス メニュー
- 設定 メニュー （設定）
- AMG 車両の AMG メニュー

ディスプレイメッセージ

はじめに

全体的な注意事項

本項目では、安全に関わるディスプレイメッセージおよびその対応方法などについて記載しています。他のメッセージおよびその対応方法の記載については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

ディスプレイメッセージはマルチファンクションディスプレイに表示されます。

取扱説明書では記号マークを伴うディスプレイメッセージを簡略化しているため、マルチファンクションディスプレイのマークと異なる場合があります。

ディスプレイメッセージの指示に従って対応し、この取扱説明書の追加の注意事項にも従ってください。

いくつかのディスプレイメッセージは、警告音、または連続音が伴います。

車両を停止して駐車したときは、駐車についての注意事項に注意してください (▷ 127 ページ)。

ディスプレイメッセージを非表示にする

▶ ディスプレイメッセージを非表示にするには、ステアリングの OK または ⮌ スイッチを押します。
ディスプレイメッセージが消えます。

重要度の高いディスプレイメッセージは赤色で表示されます。

特に重要度の高いディスプレイメッセージは、非表示にすることができません。これらのメッセージは、故障や異常の原因が解決するまでマルチファンクションディスプレイに常時表示されます。

メッセージメモリーメニュー

マルチファンクションディスプレイには、特定のディスプレイメッセージが記憶されています。 **メッセージメモリー** にディスプレイメッセージを呼び出すことができます。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、メンテナンス メニューを選択します。
メッセージがある場合は、マルチファンクションディスプレイに "2 メッセージ" のように故障の件数が表示されます。

▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、"2 メッセージ" を選択します。

▶ OK を押して確定します。

▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、ディスプレイメッセージをスクロールします。

エンジンスイッチをオフにすると、重要度の高い一部のメッセージを除いて、メッセージがすべて削除されます。 故障の原因が解決すると、重要度の高いメッセージも削除されます。

安全システム

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 現在 使用できません 取扱説明書を参照	ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、BAS（ブレーキアシスト）、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよび ESP® トレーラースタビライゼーションが一時的に作動しない。 BAS およびアダプティブブレーキライトも故障している。 さらにメーターパネルの 、 、 警告灯も点灯している。 考えられる原因： • 自己診断がまだ完了していない • バッテリーの電圧が不十分なことがある ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがあります。 ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリングを動かしながら、適切な直線路で慎重に走行してください。 ディスプレイメッセージが消えた場合は、上記の機能が再度作動可能になります。 ディスプレイメッセージが表示され続ける場合： ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
 作動できません 取扱説明書を参照	故障のため、ABS、ESP®、BAS、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよび ESP® トレーラースタビライゼーションが作動しない。 BAS およびアダプティブブレーキライトも故障している。 さらに、メーターパネルの 、 、 、 警告灯も点灯している。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがあります。 ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
 現在 使用できません 取扱説明書を参照	故障のため、ABS、ESP®、BAS、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよび ESP® トレーラースタビライゼーションが作動しない。 BAS およびアダプティブブレーキライトも故障している。 さらに、メーターパネルの と 警告灯も点灯している。 例えば、自己診断がまだ完了していないことがある。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。 緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリングを動かしながら、適切な直線路で慎重に走行してください。 ディスプレイメッセージが消えた場合は、上記の機能が再度作動可能になります。 ディスプレイメッセージが表示され続ける場合： ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 作動できません 取扱説明書を参照	故障のため、ABS、ESP®、BAS、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよび ESP® トレーラースタビライゼーションが作動しない。 BAS およびアダプティブブレーキライトも故障している。 さらに、メーターパネルの と 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。 緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
 作動できません 取扱説明書を参照	故障のため、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）、ABS、ESP®、BAS、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよび ESP® トレーラースタビライゼーションが作動しない。 BAS およびアダプティブブレーキライトも故障している。 さらに、メーターパネルの警告灯 と 、 も点灯し、警告音が鳴った。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがあります。 ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ブレーキ液レベル 点検して ください	ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液が不十分である。さらに、メーターパネルの (!) 警告灯が点灯し、警告音も鳴った。 ⚠ **警告** ブレーキ性能が損なわれることがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ 発進しないように車両を固定してください (▷ 127 ページ)。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。これを行なっても問題は解消しません。
SRS システム 故障 工場で点検	乗員保護装置が故障している。メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。 乗員保護装置についてのさらなる情報は、(▷ 42 ページ) をご覧ください。
フロント左 SRS システム故障 工場で点検またはフロント右 SRS システム故障 工場で点検	左フロントまたは右フロントの乗員保護装置に異常がある。メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 リア左¶SRS システム故障¶工場で点検またはリア右¶SRS システム故障¶工場で点検	左リアまたは右リアの乗員保護装置に異常がある。メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
 リア中央¶SRS システム故障¶工場で点検	リア中央の乗員保護装置に異常がある。メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
 左ウインドウバッグ故障 工場で点検または右ウインドウバッグ 故障 工場で点検	左側または右側のウインドウバッグに異常がある。メーターパネルの 警告灯も点灯している。 ⚠ **警告** 左側または右側のウインドウバッグが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

エンジン

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
冷却水が減少 停車して エンジンを停止	冷却水が熱すぎる。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** オーバーヒートしたエンジンで絶対に走行しないでください。エンジンがオーバーヒートしているときに走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがあります。 ボンネットを開くことにより、オーバーヒートしたエンジンからの蒸気により重度の火傷を負うおそれがあります。 けがのおそれがあります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 発進しないように車両を固定してください (▷ 127 ページ)。 ▶ 車両から降り、エンジンが冷えるまで車両から安全な距離を確保してください。 ▶ 凍った泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないことを確認してください。 ▶ ディスプレイメッセージが消え、冷却水温度が 120 ℃以下になるまではエンジンを再始動しないでください。さもないと、エンジンが損傷することがあります。 ▶ 冷却水温度表示に注意してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。 通常の使用条件下で指定の冷却水レベルでは、冷却水温度が 120 ℃まで上がることがあります。
	V ベルトが切れている可能性がある。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ V ベルトを点検してください。 **V ベルトが切れている場合：** ❗ 走行しないでください。 エンジンがオーバーヒートするおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	V ベルトに問題がない場合： ▶ メッセージが消えない場合はエンジンを始動しないでください。さもないと、エンジンが損傷することがあります。 ▶ 冷却水温度表示に注意してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

走行システム

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
トランスファー切り替え 条件不十分 ブレーキ/パーキングブレーキを効かせてください。	パーキングブレーキを効かせておらず、ブレーキを踏んでいない。トランスファーケースはギア変速操作を中止し、**ニュートラル**になります。エンジンと駆動輪が接続されていない。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ ブレーキを踏んで、パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ オートマチックトランスミッションをニュートラルポジション **N** にシフトします。 ▶ ギア変速のすべての条件が満たされていることを確認します (▷ 152 ページ)。 ▶ ギアシフト操作を繰り返します。
ﾄﾗﾝｽﾌｧｰ故障 工場で点検 about applying the parking brake（パーキングブレーキに使用について）	トランスファーケースが故障しています。 ▶ トランスファーケースをシフトしないでください。 ▶ 駐車時は、車両が発進しないように固定してください (▷ 127 ページ)。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
トランスファー切り替え 中止 再作動させてください	トランスファーケースは、ギア変速操作を実行しません。 ▶ ギアシフト操作を繰り返します。 ▶ ギア変速のすべての条件が満たされていることを確認します (▷ 152 ページ)。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
トランスファー切り替え 条件不十分 最高速度 40 km/h	ギアシフト操作に対する最高速度を超えている。 ▶ ゆっくり走行してください。 ▶ ギアシフト操作を繰り返します。
トランスファー切り替え 条件不十分 ニュートラルにシフトしてください	1 つまたはそれ以上のシフト条件が満たされていない。 ▶ オートマチックトランスミッションをニュートラルポジション **N** にシフトします。 ▶ ギアシフト操作を繰り返します。
トランスファー切り替え 条件不十分 最高速度 70 km/h	ギアシフト操作に対する最高速度を超えている。 ▶ ゆっくり走行してください。 ▶ ギアシフト操作を繰り返します。
LOW RANGE ON	トランスファーケースがオフロード走行ポジション **LOW RANGE** にあります。
HIGH RANGE ON	トランスファーケースを オンロードポジション **HIGH RANGE** にシフトします。
ディファレンシャルロックLOW RANGE でのみ使用可能	LOW RANGE スイッチが押された。トランスファーケースがオフロード走行ポジション **LOW RANGE** にあり、ディファレンシャルロックが作動している。 ▶ ディファレンシャルロックを解除します (▷ 153 ページ)。 ▶ ギアシフト操作を繰り返します。
トランスファーニュートラル ON	トランスファーケースが **ニュートラル** ポジションにある。 運転席ドアを開き、ブレーキペダルが踏まれていないときにも警告音が鳴ります。 ▶ 運転席ドアを閉じます。 ▶ 発進しないように車両を固定してください (▷ 127 ページ)。 ▶ 走行状況に応じて、トランスファーケースを切り替えます (▷ 151 ページ)。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ﾌﾟﾘｾﾚｸﾄ ﾃﾞｨﾌｧﾚﾝｼｬﾙﾛｯｸ ESP 使用できません	ディファレンシャルロックが作動している。それぞれのディファレンシャルで、ディファレンシャルギアシステムがまだロックされていません。スイッチの作動表示灯（黄色）(▷ 153 ページ) が点灯します。 ESP は作動しません。 ABS はまだ作動します。
ﾃﾞｨﾌｧﾚﾝｼｬﾙﾛｯｸ ｱｸﾃｨﾌﾞ ABS、ESP 使用できません	ディファレンシャルロックが作動し、それぞれのディファレンシャルでディファレンシャルギアシステムがまだロックされていない。スイッチの作動表示灯（黄色）および機能表示灯（赤色）(▷ 153 ページ) が点灯します。 ABS および ESP は作動しません。

車両

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	リアドアが開いている。 ⚠ **警告** テールゲートが開いている場合は、エンジンがかかっているときに排気ガスが車内に入るおそれがあります。 中毒の危険性があります。 ▶ リアドアを閉じます。
	ボンネットが開いている。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** 車両が動いているときは、開いたボンネットで視界が遮られることがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 発進しないように車両を固定してください (▷ 127 ページ)。 ▶ ボンネットを閉じてください。
パワーステアリング 故障 取扱説明書を参照	パワーステアリングのアシストが故障している。 警告音も鳴った。 ⚠ **警告** ステアリング操作に大きな力が必要になります。 事故の危険性があります。 ▶ 必要とされる大きな力を加えることができるかどうかを確認してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができる場合：**慎重にメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができない場合：**走行を続けないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

メーターパネルの警告および表示灯

全体的な注意事項

この章では、メーターパネルに表示される安全に関わる表示灯と警告灯および対応方法について説明しています。 メーターパネルに表示される他の表示灯と警告灯の概要および対応方法については、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

安全性

シートベルト

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
[シートベルト警告灯] エンジンを始動した後、運転席ドアまたは助手席ドアを閉じるとすぐに、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	運転者または助手席乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください (▷ 46 ページ)。 警告灯が消灯します。
	助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートから物を取り除き、安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯します。
[シートベルト警告灯] 赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴った。	運転者または助手席乗員がシートベルトを着用していない。同時に、25 km/h 以上の速度で走行しているか、または速度が短時間 25 km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください (▷ 46 ページ)。 警告灯が消灯し、警告音も停止します。
	助手席シートの上に荷物を置いている。同時に、25 km/h 以上の速度で走行しているか、または速度が短時間 25 km/h を超えた。 ▶ 助手席シートから物を取り除き、安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯し、警告音も停止します。

安全システム

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(!) エンジンがかかっている間に、赤色のブレーキ警告灯が点灯する。	⚠ 警告 ブレーキシステムが故障しているため、ブレーキ特性に影響を与えることがあります。 事故の危険性があります。 ▶ マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されている場合は、それに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
(!) エンジンがかかっている間に、黄色のブレーキシステム警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	⚠ 警告 ブレーキの倍力装置が故障しているため、ブレーキ特性に影響を与えることがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ 発進しないように車両を固定してください (▷ 127 ページ)。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
(!) エンジンがかかっている間に、黄色のブレーキシステム警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	リザーブタンクのブレーキ液の量が不十分である。 ⚠ 警告 ブレーキ性能が損なわれることがあります。 事故の危険性があります。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ 発進しないように車両を固定してください (▷ 127 ページ)。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。補給しても問題は解消しません。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(ABS) エンジンがかかっている間に、赤色の ABS 警告灯が点灯する。	故障のため、ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）が解除されている。そのため、BAS（ブレーキアシスト）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトおよび ESP® トレーラースタビライゼーションなども解除されている。 ⚠ **警告** ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがあります。 ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。 ABS コントロールユニットが故障している場合は、ナビゲーションシステム、オートマチックトランスミッションなどの他のシステムも作動しないことがあります。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(ABS) エンジンがかかっている間に、赤色の ABS 警告灯が点灯する。	ABS が一時的に作動しない。そのため、BAS、ESP®、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、ESP® トレーラースタビライゼーションおよびアダプティブブレーキライトなども解除されている。 考えられる原因： • 自己診断がまだ完了していない • バッテリーの電圧が不十分なことがある ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがあります。 ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。 事故の危険性があります。 ▶ 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリングを動かしながら、適切な直線路で慎重に走行してください。 警告灯が消灯したときは、上記の機能が再度作動します。 警告灯が点灯したままの場合： ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
(ABS) エンジンがかかっている間に、赤色のABS 警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	EBD が故障している。そのため、ABS、BAS、ESP®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトおよび ESP® トレーラースタビライゼーションなども作動しない。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがあります。 ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
(ABS) エンジンがかかっている間に、赤色のABS 警告灯が点灯する。	ディファレンシャルロックを作動させた。ABS が解除されます。 ▶ ディファレンシャルロックを解除します。 続いて、ABS が再度設定されます。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっている間に、黄色のブレーキ警告灯、黄色の ESP®および ESP®解除警告灯および黄色の ABS 警告灯が点灯する。	ABS および ESP®が故障している。そのため、BAS、EBD、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトおよび ESP®トレーラースタビライゼーションなどが作動しない。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがあります。 ステアリング操作やブレーキ特性が著しく影響を受けることがあります。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。
車両が動いている間に、黄色の ESP®警告灯が点滅する。	車両が横滑りをする危険性があるか、少なくとも 1 つの車輪が空転し始めているため、ESP®やトラクションコントロールが作動している。 クルーズコントロールやディストロニック・プラスは解除されます。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中は緩やかに加速してください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP®を解除しないでください。 例外については、(▷ 73 ページ) をご覧ください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっている間に、黄色のESP®解除警告灯が点灯する。	ESP®が解除されている。 ⚠ 警告 ESP®が解除されている場合は、ESP®が車両を安定させることができません。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ ESP®を再度設定してください。 例外については、(▷ 73 ページ) をご覧ください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ESP®を設定することができない場合： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP®の点検を受けてください。
エンジンがかかっている間に、黄色のESP®および ESP®解除警告灯が点灯する。	故障のため、ESP®、BAS、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトおよび ESP® トレーラースタビライゼーションが作動しない。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。 緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっている間に、黄色のESP®およびESP®解除警告灯が点灯する。	ESP®、BAS、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよび ESP® トレーラースタビライゼーションが一時的に作動しない。 BAS およびアダプティブブレーキライトも故障している。 自己診断がまだ完了していない。 ⚠ 警告 ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。 緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがあります。 ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができません。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。 ▶ 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリングを動かしながら、適切な直線路で慎重に走行してください。 警告灯が消灯したときは、上記の機能が再度作動します。 警告灯が点灯したままの場合： ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがかかっている間に、黄色のESP®解除警告灯が点灯する。	ディファレンシャルロックを作動させた。ABS、ESP®、4ETS および BAS が解除されている。 ▶ ディファレンシャルロックを解除します。 続いて、ESP®、4ETS および BAS が再度設定されます。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
エンジンがかかっている間に、赤色の乗員保護装置警告灯が点灯する。	乗員保護装置が故障している。 ⚠ **警告** エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しないことがあります。 けがの危険性が高まります。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で乗員保護装置を点検してください。 乗員保護装置についてのさらなる情報は、(▷ 42 ページ) をご覧ください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
[冷却水警告灯] エンジンがかかっている間に、赤色の冷却水警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	冷却水温度が 120 ℃を超えている。エンジンラジエターへの送風が遮られているか、冷却水レベルが低すぎることがある。 ⚠ **警告** エンジンが十分に冷却されないため、エンジンが損傷するおそれがある。 オーバーヒートしたエンジンで絶対に走行しないでください。エンジンがオーバーヒートしているときに走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがあります。 ボンネットを開くことにより、オーバーヒートしたエンジンからの蒸気により重度の火傷を負うおそれがあります。 けがのおそれがあります。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 発進しないように車両を固定してください (▷ 127 ページ)。 ▶ 車両から降り、エンジンが冷えるまで車両から安全な距離を確保してください。 ▶ 注意事項に従って、冷却水レベルを点検し、冷却水を補給してください (▷ 226 ページ)。 ▶ 頻繁に冷却水を補給する必要がある場合は、エンジン冷却システムの点検を受けてください。 ▶ 凍った泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないことを確認してください。 ▶ 冷却水温度が 120 ℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ 山道の走行や発進/停止を繰り返す走行など、エンジンへ大きな負荷をかけることは避けてください。

走行システム

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。	設定された速度に対し、先行車との車間距離が近すぎる。 ▶ 車間距離を広げてください。
走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	同じ走行車線にいる前車または固定障害物に急速に近付いている。 ▶ ただちにブレーキをかける準備をしてください。 ▶ 交通状況に注意して運転してください。 ブレーキ操作や危険回避の操作が必要となる可能性があります。 ディストロニックプラスについて詳しくは、(▷ 136 ページ) をご覧ください。

役に立つ情報

ℹ これらの取扱説明書は印刷時点で利用可能な COMAND システムのすべての標準装備やオプション装備について記載しています。 国により、仕様が異なる場合があります。 本書に記載されているすべての機能が、お客様の車両に当てはまらない可能性があることにご留意ください。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 28 ページ).

全体的な注意事項

本取扱説明書の COMAND システムの項目には、基本的な操作概要が記載されています。さらなる情報はデジタル版取扱説明書をご覧ください。

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。 安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

COMAND システムを操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。

COMAND システムは、例えば以下のことを考慮せずに目的地までのルートを検索します。

- 信号
- 一時停止および優先標識
- 駐車または停車の規制
- 道路の道幅の狭さ
- その他、道路や交通ルール、規則

COMAND システムは地図上のデータが実際の状況と違う場合には、適切でない走行案内をすることがあります。例えば、道が変更されたり、または一方通行の方向が変更になったときです。

このため、走行中は、道路や交通ルール、規則を常に遵守してください。システムの走行案内よりも道路や交通ルール、規則を常に優先してください。

わずか 50 km/h の速度でも、車両は 1 秒あたり約 14 m の距離を進むことを念頭においてください。

著作権の情報

全体的な注意事項

車両やその電子部品で使用されているフリーのオープンソースソフトウェアのライセンスの情報を以下のウェブサイトで見つけることができます：**http://www.mercedes-benz.com/opensource**

機能の制限

安全のために、車両走行中は COMAND システムのいくつかの機能が制限されたり、利用できないことがあります。このことは、例えば、いくつかのメニュー項目が選択できなかったり、COMAND システムにこの結果に対するメッセージが表示されることで、ご確認いただけます。

COMAND システムの操作システム

概要

① COMAND ディスプレイ (▷ 190 ページ)
② シングル DVD ドライブ付き COMAND コントロールパネル
③ COMAND コントローラー (▷ 195 ページ)

COMAND システムを使用して以下の基本機能が操作できます。

- ナビゲーションシステム
- オーディオ機能
- 電話機能
- ビデオ機能
- システムの設定
- オンラインとインターネット機能
- デジタル版取扱説明書

以下のようにして基本機能を呼び出すことができます。

- 対応するスイッチを使用して
- COMAND ディスプレイの基本機能バーを使用して
- リモコンを使用して

COMAND ディスプレイ

ディスプレイの概要

ラジオの表示例

①	ステータスバー	時刻および電話操作の現在の設定を表示します。
②	オーディオメニューの呼び出し	作動しているオーディオ基本機能を強調します。三角はこの基本機能に選択可能なサブメニューがあることを示します。
③	基本機能バー	基本機能バーから希望する基本機能を呼び出すことができます。 基本機能が作動しているときは、白色の文字によって識別可能です。
④	表示/選択ウインドウ	ラジオモードで作動しているオーディオ基本機能の内容を表示します。
⑤	ラジオメニューバー	ラジオモードで作動しているオーディオ基本機能の他の機能を表示します。

メニュー概要

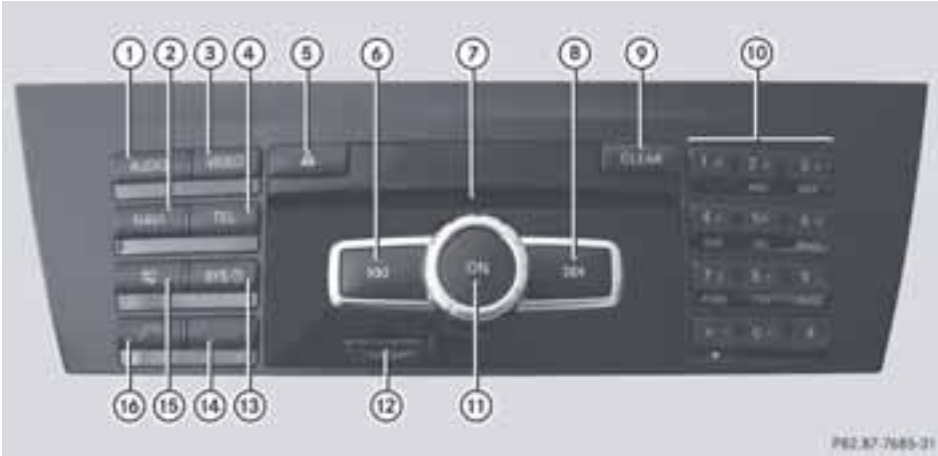
ナビ	オーディオ	電話	ビデオ	システム	マーク
地図表示切替	ラジオ	電話	テレビ	設定メニューを呼び出す	デジタル版取扱説明書を呼び出す
地図表示形式	ディスク	アドレス帳	ビデオDVD		COMAND Onlineとインターネットを呼び出す
VICS 表示	メモリーカード		外部入力		
施設マークの表示	ミュージックレジスター				
設定	USB メモリー				
案内の中止/継続	メディアインターフェース				
コンパス	Bluetooth®オーディオ				
	外部入力				

システムメニュー概要

システム	時刻	スプリットビュー	燃費	シート	ディスプレイオフ
ディスプレイの設定	☑ 自動時刻設定のオン/オフを切り替え	助手席側からのCOMAND システム機能の操作	燃料消費量表示を呼び出す	運転席/助手席の設定を変更する	ディスプレイのオフ
音声認識	手動時刻設定				

システム	時刻	スプリットビュー	燃費	シート	ディスプレイオフ
リアビューカメラまたは 360° カメラシステム	時刻/日付形式の設定				
言語の設定					
お気に入りスイッチ					
☑Bluetooth® の作動/解除					
自動音量調整					
データのインポート/エクスポート					
COMAND システムをリセットする					

ℹ メニュー項目の 360° カメラ が表示されている場合は、システムメニューの システム に 画面 OFF を呼び出されます。

COMAND コントロールパネル

	機能	ページ
①	ラジオモードなどの最後に選択されていたオーディオモードに切り替える	
②	ナビゲーションモードに切り替える 設定メニューを表示する	
③	テレビモードなどの最後に選択されていたビデオモードに切り替える	
④	電話基本メニュー（Bluetooth®インターフェース経由での電話機能）を呼び出す アドレス帳を呼び出す	
⑤	CD/DVD の格納/排出	
⑥	放送局サーチ機能を使用して放送局を設定する 早戻しする 前のトラックを選択する	

	機能	ページ
⑦	ディスクスロット • CD/DVD を格納する • CD/DVD を排出する	
⑧	放送局サーチ機能を使用して放送局を設定する 早送りする 次のトラックを選択する	
⑨	クリアスイッチ • 文字を削除する • 項目を削除する	

	機能	ページ
⑩	テンキー	
	• 放送局プリセットにより放送局を選択する	
	• 手動で放送局を登録する	
	• 携帯電話を認証する	
	• 電話番号を入力する	
	• 文字を入力する	
	• メモリーから天気予報の場所を選択する	
	# 再生されている現在のトラックを表示する	
	# 文字バーのあるリスト：文字の設定（かな/漢字/アルファベット/カタカナ/数字入力）を切り替える	
	# 選択リストとしてのリスト：文字の設定（カタカナ/アルファベット）を切り替える	
	* 周波数を手動で入力して放送局を選択する	
	* トラックを選択する	
⑪	COMAND システムの作動/停止を切り替える	
	音量を調整する	
⑫	SD メモリーカードスロット	
⑬	設定メニューを呼び出す	
⑭	通話を拒否する	
	通話を終える	
	保留中の通話を拒否する	
⑮	サウンドのオン/オフを切り替える	
	マイクのオン/オフを切り替える	
	ナビゲーションの音声案内を停止する	
⑯	通話を受ける	
	番号をダイアルする	
	リダイアルする	
	保留中の通話を受ける	

COMAND コントローラー

概要

① COMAND コントローラー

COMAND コントローラーを使用して COMAND ディスプレイのメニュー項目を選択できます。
以下のことができます。

- メニューまたはリストの呼び出し
- メニューまたはリスト内のスクロール、そして
- メニューまたはリストの終了

操作

例：COMAND コントローラーを操作する

COMAND コントローラーは以下のようなことができます。

- 軽く押す、または押して保持する
- 時計回り、または反時計回りにまわす ◎
- 左右にスライドする ←◎→
- 前後にスライドする ↑◎↓
- 斜めにスライドする ◎

操作の例

説明では、操作の順番は以下に記載されているようになります。

▶ AUDIO スイッチを押します。
最後に選択されていたオーディオソースがオンになります。

▶ COMAND コントローラーをスライドして ↑◎、オーディオ を選択し、押して 確定します。
オーディオメニューが表示されます。

▶ COMAND コントローラーをまわして ◎、ミュージックレジスター のように異なるオーディオソースを選択し、押して 確定します。
ミュージックレジスターがオンになります。

COMAND コントローラーのスイッチ

概要

① リターンスイッチ (▷ 196 ページ)
② クリアスイッチ (▷ 196 ページ)
③ シート機能スイッチ
④ お気に入りスイッチ

車両にシート機能スイッチがない場合は、2 つのお気に入りスイッチがあります。

AMG 車両：COMAND コントローラーは、① および ② スイッチで構成されています。

リターンスイッチ

⮌ スイッチを使用してメニューを終了したり、現在の操作モードの基本画面を呼び出すことができます。

▶ **メニューを終了する：** リターンスイッチ ⮌ を軽く押します。
COMAND システムは、そのときの操作モードの中で、1 つ上のメニュー階層に切り替わります。

▶ **基本画面を呼び出す：** リターンスイッチ ⮌ を押して保持します。
COMAND システムは、そのときの操作モードの基本画面に切り替わります。

クリアスイッチ

▶ **個々の文字を削除する：** c スイッチを軽く押します。

▶ **入力全体を削除する：** c スイッチを押して保持します。

シート機能スイッチ

シート機能スイッチを使用して、以下のシート機能を呼び出すことができます：

- マルチコントロールシートバック（電動ランバーサポート付）
- マルチコントロールシートバック（ドライビングダイナミックシートおよびマッサージ機能）
- バランス（シートヒーターの配分）

お気に入りスイッチ

あらかじめ設定されている機能をお気に入りスイッチ ＊ に指定して、スイッチを押すことによりそれらを呼び出すことができます。

オンラインとインターネット機能

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- インターネットアクセスデータの選択/設定
- COMAND Online とインターネット
- Google™ ローカル検索
- 目的地/ルートのダウンロード
- 天気表示
- インターネット

全体的な注意事項

アクセスの条件

⚠ **警告**

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。 安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

COMAND システムを操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。

オンライン機能とインターネットアクセスは、Bluetooth® インターフェースを介して利用することができます。

機能を使用するには、以下の条件が必要です。

- 携帯電話が DUN Bluetooth® プロファイル（**D**ial-**U**p **N**etworking：ダイアルアップネットワーク）をサポートしていて、Bluetooth® 経由で COMAND システムに接続されてい

る。DUN Bluetooth® プロファイルは携帯電話のインターネットへのダイアルアップ接続を確立させることができます。
- 関連する接続費用を計算するために使用される、データオプション付きの有効な携帯電話サービス契約が必要です。
- 接続されている携帯電話のために、携帯電話ネットワークプロバイダーのアクセスデータが、COMAND システムで設定されていなければなりません (▷ 198 ページ)。

ℹ 接続されている携帯電話が PAN Bluetooth プロファイル（パーソナルエリアネットワーク)をサポートしている場合は、自動設定機能を使用できます (▷ 199 ページ)。

ℹ 適合している携帯電話の詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場へお問い合わせください。

ℹ 携帯電話によっては、独立して DUN Bluetooth® プロファイルをオンにしなければならないものもあります (携帯電話の取扱説明書をご覧ください)。

ℹ 携帯電話の中には同時に 2 つの Bluetooth® プロファイルのみをサポートするものがあります (例：Bluetooth® 電話機能のハンズフリープロファイルおよびオーディオストリーミングの Bluetooth® オーディオプロファイル)。さらにインターネット接続を確立させたときは、Bluetooth® オーディオ経由での再生が停止することがあります。

ℹ 正しくないアクセスデータを使用すると、追加の費用が発生することがあります。これは、契約と違う項目や、他の契約/データパッケージの項目を使用したときに発生します。

ℹ 個々の COMAND システムのメルセデス・ベンツアプリが使用できるかは、国によって異なります。

ℹ 利用規約は、COMAND システムが初めて使用されたとき、およびそれ以降年に 1 度表示されます。車両が停止しているときにのみ、利用規約を読んで同意してください。

ℹ 車両が動いている間は、インターネットのページは表示できません (▷ 206 ページ)。

データをインポート/エクスポートし、そのために インターネットデータ オプションを選択するときは、携帯電話のネットワークプロバイダーのパスワードは保存**されません**。

インターネットに再度接続するときは、以下のように進めます。

▶ **ステップ 1：** 携帯電話のネットワークプロバイダーを削除します。

▶ **ステップ 2：** 携帯電話のネットワークプロバイダーを再度選択する (オプション 1)か、手動で設定します (オプション 2)。

車両が走行している間の接続障害

以下の場合は、接続が切断されることがあります。

- 特定の地域において、携帯電話のネットワーク範囲が不十分なとき
- 携帯電話の送信/受信エリア（携帯電話の基地局）を他に移動して空いているチャンネルがないとき
- 使用可能なネットワークに適していない SIM カードを使用しているとき

機能の制限

以下の状況のときは、携帯電話を使用できなかったり、携帯電話を使用できなくなったり、使用できるようになるまでに待たなければならないことがあります。

- 携帯電話の電源が入っていないとき
- COMAND システムの"Bluetooth®"機能がオフになっているとき
- Bluetooth® 接続の電話を使用していて、携帯電話の"Bluetooth®" 機能がオフになっているとき
- 携帯電話が携帯電話のネットワークにログインしていないとき
- 携帯電話ネットワークと携帯電話がともに、電話とインターネット接続の同時使用が認められていないとき

ℹ 使用している携帯電話と携帯電話ネットワークによっては、インターネットに接続しているときは着信できないことがあります。

ローミング

他の国でご自身の車両を運転していて、COMAND システムのインターネットおよびオンライン機能を使用しているときは、追加の費用（ローミング料金）が発生することがあります。他の国にいるときは、SIM カードがデータローミングをできるようにしなければなりません。携帯電話のネットワークプロバイダーがローミングパートナーとデータローミングの契約を結んでいない場合は、インターネット接続を確立できないことがあります。他の国にいるときにデータローミングを避けたい場合は、携帯電話のこの機能を非作動にしてください。

アクセスデータの設定

はじめに

接続された携帯電話のインターネットアクセスデータは、携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。COMAND システムでのインターネットアクセスデータに必要な設定は、以下に記載されています。

選択された/手動で設定された携帯電話のネットワークプロバイダーは、選択/設定されたときに接続されている携帯電話のみで有効です。再接続されたときは携帯電話のネットワークプロバイダーは自動的に設定されます。

ℹ 他の国でお客様の車両を運転していて、COMAND システムとインターネットアクセス機能を使用しているときは、追加費用（ローミング料金）が発生することがあります。

ℹ 車両が停止しているときにアクセスデータの設定を調整してください。さもないと、交通状況から注意がそれて、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

インターネットアクセスデータの選択/設定

携帯電話のネットワークプロバイダーのリストを呼び出す

▶ COMAND コントローラーをまわして ⟲◎⟳、基本機能バーで 🌐 アイコンを選択し、押して ⊛ 確定します。
カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ↓◎、まわして ⟲◎⟳、設定 を選択し、押して ◎ 確定します。
初めて携帯電話を COMAND システムに接続するときは、プリセットされている携帯電話のネットワークプロバイダーはありません。プロバイダ名： に 選択されていません という言葉が続きます。
携帯電話が接続されていて、携帯電話のネットワークプロバイダーが選択されている場合は、携帯電話のネットワークの名称が プロバイダ名： の後に表示されます。

▶ COMAND コントローラーを押します ◎。
携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。

携帯電話のネットワークプロバイダーのリスト（空欄）

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを設定するために、以下のことができます：

- 携帯電話のネットワークプロバイダーのあらかじめ設定されたアクセスデータを選択する (▷ 200 ページ)
- 自動設定を選択する－このオプションは接続されている携帯電話が Bluetooth® PAN（Personal Area Network：パーソナルエリアネットワーク）プロファイルをサポートしている場合にのみ、プロバイダーリストに表示されます。(▷ 199 ページ)
- 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定 (▷ 202 ページ)

アクセスデータの自動設定

条件：Bluetooth® 経由で電話が COMAND システムに接続されていて、

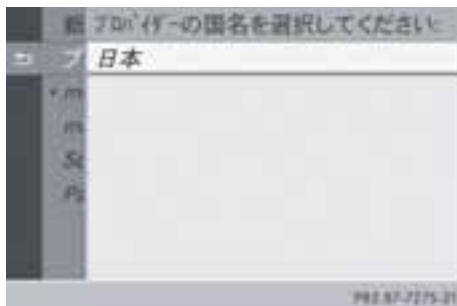
Bluetooth® PAN プロファイルをサポートしていなければなりません。

オプション 1 電話がまだインターネットアクセスに設定されていない場合

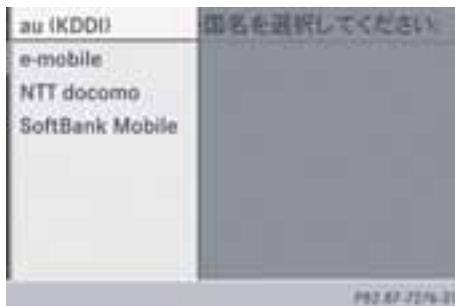
- COMAND コントローラーをスライドしてから ↑◎、まわして ⟲◎⟳、基本機能バーで 🌐 アイコンを選択し、押して ◎ 確定します。
  自動設定が可能であることを知らせるメッセージが表示されます。
- はい を選択し、押して ◎ 確定します。

オプション 2：

- 携帯電話ネットワークプロバイダーのリストで、COMAND コントローラをまわして ⟲◎⟳、自動設定 <機器名> を選択し、押して ◎ 確定します (▷ 198 ページ)。
  携帯電話から設定データが転送されます。設定が成功した場合は、ドット • が 自動設定 <機器名> の前に表示されます。

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの選択

プロバイダーの検索

- COMAND コントローラーをまわして ⟲◎⟳、携帯電話のネットワークプロバイダーリストで プロバイダー検索 を選択し、押して ◎ 確定します (▷ 198 ページ)。
  国のリストが表示されます。
- 押して ◎、日本 を確定します。
  使用可能な携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。

ℹ 接続している携帯電話用に携帯電話ネットワークプロバイダーのアクセスデータが 1 度選択されると、携帯電話が接続されるたびに再度読み込まれます (▷ 198 ページ)。

ℹ 接続している携帯電話の SIM カードおよび関連するデータパッケージ（アクセス設定）を提供している携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを設定しなければなりません。他の国にいる場合は、アクセスデータは同じままです（ローミング）。他のネットワークのアクセスデータは選択**されません**。

複数のアクセスデータを提供している携帯電話のネットワークプロバイダーがあります。これは、たとえば使用しているデータパッケージによって異なります。

携帯電話のネットワークプロバイダーは1つのアクセス設定のみを持っています。

▶ COMAND コントローラーをまわして ◎、携帯電話のネットワークプロバイダーを選択し、押して 確定します。
メニューが表示されます。

▶ **プリセットアクセスデータを確認する：** 編集 を選択し、 で確定します。
アクセスデータのリストが表示されます。
アクセスデータを確認します (▷ 202 ページ)。

▶ **アクセスデータが正しい場合：** リセットスイッチ を押すか、または マークを選択し、押して 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを受け取ることができます。

▶ 保存 を選択し、押して 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。プロバイダーのアクセスデータを受け取ります。

▶ **アクセスデータを編集する：** "携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセステータの手動設定"に記載されているように進めてください (▷ 202 ページ)。
編集したアクセスデータを確定すると、携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示され、選択したプロバイダーが表示されます。

携帯電話のネットワークプロバイダーには複数のアクセス設定があります。

▶ COMAND コントローラーをまわして ◎、適切なアクセス設定を選択し、押して 確定します。
メニューが表示されます。

▶ **アクセス設定を確認する：** 編集 を選択し、押して 確定します。
アクセスデータのリストが表示されます。
アクセスデータを確認します (▷ 202 ページ)。

▶ **アクセスデータが正しい場合：** リターンスイッチ またはマーク を押して、押して 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータを受け取ることができます。

▶ 保存 を選択し、押して 確定します。
携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示されます。プロバイダーのアクセスデータを受け取ります。

▶ **アクセスデータを編集する：** "携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセステータの手動設定" (▷ 202 ページ) に記載されているように進めてください。
編集したアクセスデータを確定すると、携帯電話のネットワークプロバイダーのリストが表示され、選択したプロバイダーが表示されます。

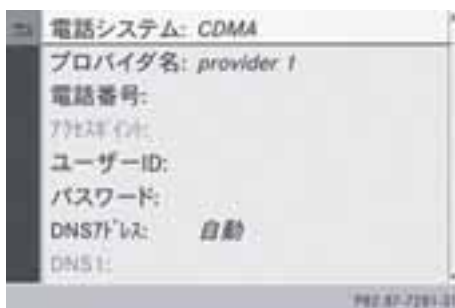
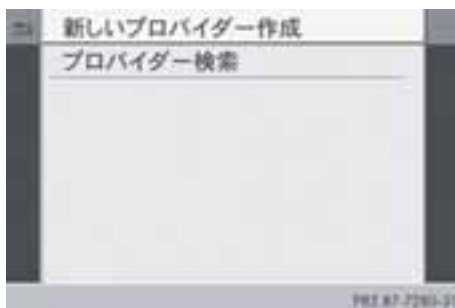
選択したプロバイダーがある携帯電話のネットワークプロバイダーのリスト

現在選択されているアクセス設定（項目の前の ● で示されています）は接続されている携帯電話に使用されています。

▶ **カルーセルビュー（マルチウインドウ）に戻る：** リターンスイッチ ⮌ を 2 回押します。

または

▶ COMAND コントローラーを押して ⊛、リターンスイッチ ⮌ を押します。

携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータの手動設定

アクセスデータのリスト（新しいプロバイダー）

アクセスデータのリストを呼び出す

▶ COMAND コントローラーを押して ⊛、携帯電話のネットワークプロバイダーのリストで 新しいプロバイダー作成 を確定します。
アクセスデータのリストが表示されます。標準的な名前 プロバイダー <x> が プロバイダー名： の欄に自動的に入力されます。ここで項目を作成することができます。

ℹ 携帯電話のネットワークプロバイダーのアクセスデータは接続されている携帯電話に一度設定されます。

アクセスデータの説明

入力欄	意味
プロバイダー名：	携帯電話のネットワークプロバイダーのリストに表示されるプロバイダーの名前。名前は自由に選択できます。 標準的な項目は プロバイダー <x> です。
電話番号	接続を確立するためのアクセス番号 ℹ アクセス番号はプロバイダーによって異なります。
アクセスポイント：	APN ネットワークアクセスポイント（**A**ccess **P**oint **N**ame：アクセスポイント名） ℹ ネットワークのアクセスポイントは入力されている必要はありません。
ユーザー ID:	ユーザー ID は携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ℹ すべての携帯電話ネットワークプロバイダーで入力が必要なわけではありません。
パスワード：	パスワードは携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ℹ すべての携帯電話ネットワークプロバイダーで入力が必要なわけではありません。 ℹ パスワードはデータをインポート/エクスポートすると失われます。
DNS アドレス：	DNS アドレス（**D**omain **N**ame **S**ervice：ドメインネームサービス）は自動的に決めるか、手動で入力することができます。必要な情報は携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。 ℹ ほとんどの携帯電話のネットワークプロバイダーは自動 機能をサポートしています。マニュアル オプションを選択すると、通常は DNS アドレスを入力する必要があります。
DNS1: DNS2:	DNS サーバーのアドレスを手動で入力するための欄。アドレスは携帯電話のネットワークプロバイダーから取得することができます。

接続の確立/終了

接続を確立する

接続の確立の条件は、"全体的な注意事項"に記載されています (▷ 196 ページ)。

- **オプション 1：** COMAND コントローラーをまわして ◎、基本機能バーで 🌐 アイコンを選択し、押して確定します。
  カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。
- Mercedes-Benz Apps または Internet Favorites（インターネットお気に入り）パネルが前面になるまで、COMAND コントローラーをまわすか ◎、スライドします ◎。
- **オプション 2：** ウェブアドレスを入力します (▷ 206 ページ)。

- どちらのオプションも、COMAND コントローラーを押します。
  インターネットの接続が確立されます。マーク ① により、作動しているインターネット接続を認識できます。例は、Mercedes-Benz Apps メニューを示しています。
- **接続を中止する：** 接続を確立している間に、押して 中止 を確定します。

または

- COMAND システムまたはマルチファンクションステアリングの 📞 スイッチを押します。

ℹ 作動しているインターネット接続がある間に通話が行なわれた場合は、📞 マークが ① エリアに表示されます。使用している携帯電話および携帯電話のネットワークによっては、インターネット接続は作動したままになります。

接続を終了する

- COMAND システムまたはマルチファンクションステアリングの 📞 スイッチを押します。

または

- カルーセルビュー（マルチウインドウ）の右下にあるハサミマークを選択して、押して確定します。

ℹ 携帯電話のインターネット接続が中止された場合は、COMAND システムは再接続しようとします。そのため、接続は常に COMAND システムまたはマルチファンクションステアリング経由で終了してください。

インターネットラジオ

全体的な注意事項

良好なインターネット接続のためには、オーディオデータを効果的に送信することが要求されます。最良の受信を可能にするためには、携帯電話が電話ブラケット（オプション）経由で車両の外部アンテナに接続されていなければなりません。

インターネットラジオを使用しているときは、比較的大きな量のデータが送信できることを念頭においてください。1 秒当たり平均 128 kbit のデータ転送速度は、1 時間当たり 56 MB のデータを転送できます。

データを受信している間は、放送局のデータ転送速度が表示されます。

インターネットラジオの呼び出し

▶ COMAND コントローラーをスライドしてから ↑◎、まわして ◖◎◗、基本機能バーで 🌐 アイコンを選択し、押して ◎ 確定します。
カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。

▶ COMAND コントローラーをまわして ◖◎◗、インターネットラジオ のパネルを前面にし、押して ◎ 確定します。
インターネットラジオのメニューが表示されます。

放送局検索

▶ インターネットラジオのメニューで 検索 を選択します。
検索条件のあるリストが表示されます。

▶ 条件を選択し、押して ◎ 確定します。

ℹ 検索条件としての例として、ナビゲーションの目的地の近くにあるインターネットラジオの放送局を設定することができます。

放送局への接続

▶ 放送局を検索します (▷ 205 ページ)。

▶ メニューでインターネットラジオ（再生）を選択し ▶、押して ◎ 確定します。
接続が確立されます。

データストリーミングが中断された場合は、接続を再確立するための試みが自動的に行なわれます。

接続の手動再確立：

▶ メニューでもう一度インターネットラジオ（再生）を選択し ▶、押して ◎ 確定します。

データー転送の終了：

▶ メニューでインターネットラジオ（停止）を選択し ■、押して ◎ 確定します。

または

▶ 例えば ディスク のような、他のオーディオソースに切り替えます。

ナビゲーションなどのオーディオソースでない基本機能に切り替えた場合は、データ接続は作動したままになります。設定した放送局を聴き続けることができます。

インターネット

表示制限

車両の走行中にインターネットページは表示できません。

ウェブサイトを呼び出す

カルーセルビュー（マルチウインドウ）を呼び出す

P82.87-9383-31

▶ COMANDコントローラーをスライドしてから ↑◎、まわして ◖◎◗、基本機能バーで 🌐 アイコンを選択し、押して ◎ 確定します。
カルーセルビュー（マルチウインドウ）が表示されます。

ウェブアドレスを入力することができます。

ウェブアドレスの入力

P82.87-7294-31

文字バーまたはテンキーのいずれかを使用してウェブアドレスを入力できます。

▶ COMANDコントローラーをスライドしてから ◎↓、まわして ◖◎◗、www を選択し、押して ◎ 確定します。
入力メニューが表示されます。

▶ **文字バーを使用して入力を行なう：**
ウェブアドレスを入力行に入力します。最初の文字を入力行に入力するとすぐに、リストがその下に表示されます。入力した文字で始まるウェブアドレスと、すでに呼び出されたウェブアドレスがリストに表示されます。
初めて呼び出したときはリストは空欄です。

▶ ウェブアドレスを入力した後に、COMANDコントローラーをスライドしてから ◎↓、まわして ◖◎◗、ok マークを選択し、押して ◎ 確定します。
ウェブサイトが呼び出されます。

ウェブサイトを操作する

手順	動作
▶ コントローラーをまわす ◖◎◗ 。	選択できる（リンク、文字欄または選択リストなど）そのときの項目から次に移動し、ウェブサイトのそれぞれの項目を強調します。
コントローラーをスライドする。 ▶ 左右 ←◎→ ▶ 上下 ↑◎↓ ▶ 斜め ↘◎↙	ページのポインターを動かします。
▶ コントローラーを押す ◎。	メニューを呼び出す、または選択した項目を開きます。

手順	動作
▶ 押す [↩]	前のページを呼び出します。
▶ 押す [c]	インターネットのブラウザを、または複数が開いているときは現在のウインドウを閉じます。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。 国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 28 ページ).

積載のガイドライン

⚠ **警告**

荷物や重い荷物が固定されていない、または十分に固定されていないと、すべったり、放り出されて乗員にぶつかるおそれがあります。 特にブレーキ操作時や急な進路変更時にけがをする可能性があります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。 走行前に、荷物や積載物などがすべったりひっくり返ったりしないように固定されていることを確認してください。

⚠ **警告**

車両に不均等に積載している場合は、走行特性、およびステアリング操作やブレーキ操作が大幅に損なわれることがあります。事故の危険性があります。

車両には均等に積載してください。滑らないように荷物を固定してください。

⚠ **警告**

燃焼型エンジンは、一酸化炭素などの有毒な排気ガスを排出します。 エンジン作動中、とくに走行中にテールゲート / リアドアが開いていると、排気ガスが車内に入るおそれがあります。 中毒を起こすおそれがあります。

テールゲート / リアドアを開く前に、エンジンをオフにしてください。 テールゲート / リアドアを開いたまま走行しないでください。

走行、ブレーキおよびステアリング特性は以下によって変化します：

- 荷物の種類
- 重量
- 荷物の重心

そのため、車両には図に示すように積載してください。

荷物を運搬するときは、以下の注意事項に注意してください。

- 最高許容車両総重量および車両の許容軸重を超えないようにしてください（乗員を含む）。
- 重い物はできるだけラゲッジルームの前方の低い位置に積んでください。
- 荷物がシートのバックレストの上端よりも高くならないようにしてください。
- フロントまたはリアシートのバックレストに接するように常に荷物を置いてください。
- 可能な場合は、着座していないシートの後方に常に荷物を置くようにしてください。
- 可能な場合は、シートのバックレストを起こし、ロックした状態でラゲッジ

ルーム内で常に荷物を運搬してください。

リアベンチシートに乗車していない場合：

▶ ベルトのプレート ① を反対側のシートベルトのバックルに対角パターンで差し込みます。

▶ 十分な耐破断性および耐摩耗性のある固定用具で荷物を固定してください。

▶ とがった角にはパッドを取り付けてください。

ℹ 適用される規格に準拠していることが確認された固定用具は、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で入手できます。

収納エリア

小物入れ

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

収納物を車内に正しく収納しないと、滑ったり、飛び出したりして、乗員がけがをするおそれがあります。 特にブレーキ操作や急な進路変更を行ったときは、けがをするおそれがあります。

- このようなときや似たような状況で収納物が飛び出さないように、常に収納する
- 収納物は必ず小物入れ、収納ネットまたはラゲッジネットからはみ出さないようする
- 走行中はロック可能な小物入れを閉じる
- 重い物、固い物、先の尖った物、鋭利な物、壊れやすいもの、大きな物はラゲッジルームに収納し、固定する

積載のガイドライン (▷ 210 ページ) に注意してください。

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- グローブボックス
- アームレストの小物入れ / 携帯電話入れ
- ドア収納ボックス
- フロントセンターコンソールの小物入れ

収納ネット

収納ネットは、助手席足元にあります。

積載のガイドライン (▷ 210 ページ) および収納用スペースに関する安全上の注意事項 (▷ 211 ページ) に従ってください。

ラゲッジルームの拡大

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

リアベンチシート/後部座席と座席の背もたれが固定されていない場合、急なブレーキ操作や事故のときに、前に倒れる可能性があります。

- これにより、乗員は、リアベンチシート/後部座席または座席の背もたれによってシートベルトに押さえ込まれます。 シートベルトは、充分な保護効果

を発揮することができず、さらにけがをするおそれがあります。
- ラゲッジルームの荷物や重い荷物はシートバックレストで固定することはできません。

けがをするおそれが高まります。

走行前に、必ずシートバックレストおよびリアベンチシート/後部座席が固定されていることを確認してください。

⚠ 警告

燃焼型エンジンは、一酸化炭素などの有毒な排気ガスを排出します。 エンジン作動中、とくに走行中にテールゲート / リアドアが開いていると、排気ガスが車内に入るおそれがあります。 中毒を起こすおそれがあります。

テールゲート / リアドアを開く前に、エンジンをオフにしてください。 テールゲート / リアドアを開いたまま走行しないでください。

! リアベンチシートのバックレストとシートクッションを前に倒す前に、後席のカップホルダーから容器を取り除いてあることを確認してください。

積載のガイドライン (▷ 210 ページ) を守ってください。

リアベンチシートは左右非対称に分割します。

左側および右側のリアベンチシートを前方に倒し、後席のスペースを増やすことができます。以下の変更が可能です：

- シートバックレストを前方に倒す
- リアベンチシートをいっぱいまで倒す

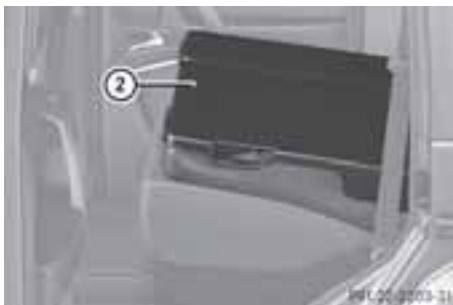
シートのバックレストを前方に倒す

シートバックレストを前方に倒すには、以下のようにしてください。

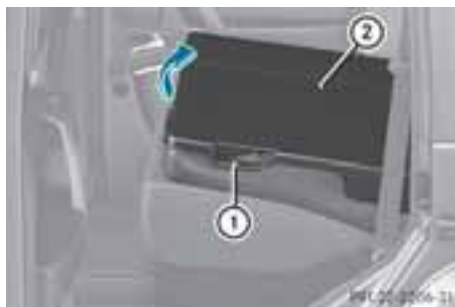
▶ リアドアを開きます。
こうすると、ロック解除レバー ① に手が届きやすくなります。

▶ センターヘッドレスト (▷ 94 ページ) を取り外します。

▶ キャッチ ① を矢印の方向に引きます。
対応する側のリアシートバックレストがロックされていません。

▶ バックレストを前に倒します。
リアシートバックレストは音をたててかみ合います。

② 前方に倒したバックレスト

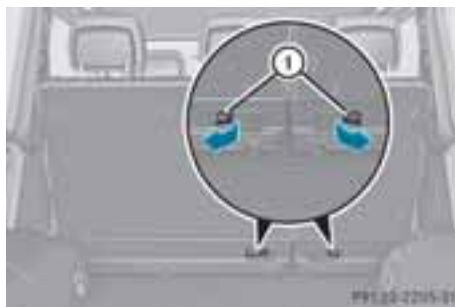
シートのバックレストを起こす

! リアシートバックレストを起こすときは、シートベルトが挟まれていないことを確認してください。 損傷するおそれがあります。

▶ ロック解除レバー ① を引きます。
対応するシートバックレストのロックが解除されます。

▶ バックレスト ② を矢印の方向に後方に起こします。
音がして、シートキャッチがロックされます。

▶ ヘッドレストを取り付けます (▷ 94 ページ)。

リアシート

リアシートを前に倒す

▶ リアシートバックレスト (▷ 212 ページ) を前方に倒します。

▶ キャッチ ① を矢印の方向に引きます。
対応する側のリアベンチシートが解除されます。

▶ リアベンチシート ② を前方に倒します。

② 前に倒したリアベンチシート

リアシートを立てた位置に起こす

⚠ 警告

リアベンチシート/後部座席と座席の背もたれが固定されていない場合、急なブレーキ操作や事故のときに、前に倒れる可能性があります。

- これにより、乗員は、リアベンチシート/後部座席または座席の背もたれによってシートベルトに押さえ込まれます。 シートベルトは、充分な保護効果を発揮することができず、さらにけがをするおそれがあります。
- ラゲッジルームの荷物や重い荷物はシートバックレストで固定することはできません。

けがをするおそれが高まります。

走行前に、必ずシートバックレストおよびリアベンチシート/後部座席が固定されていることを確認してください。

▶ リアベンチシートを後方に起こします。
音がして、シートキャッチが固定されます。

▶ バックレストを後方に起こします (▷ 212 ページ)。

▶ ヘッドレストを取り付けます (▷ 94 ページ)。

荷物の固定

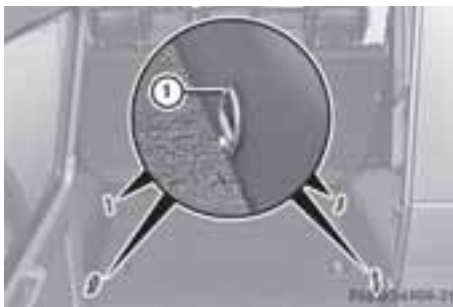
重要な安全上の注意事項

荷物固定用リングには、均等に力がかかるようにしてください。

固定用ポイント、固定用リングまたは固定用具を、改造したり修理しないでください。メンテナンス作業ならびに改造、取り付けおよび変更は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください(▷ 28 ページ)。

荷物の固定に関する、以下の点に注意してください：

- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 伸縮性のあるストラップまたはネットを使用して荷物を固定しないでください。これらは、軽い荷物のための滑り止め防止としてのみ意図されています。
- 最小引っ張り強度 Fperm = 600 daN および伸縮率約 7%の固定用具のみを使用してください。
- 固定用具をとがった端部や角にかけないようにしてください。
- 保護のため、とがった角にはパッドを取り付けてください。
- 固定ネットや固定ストラップなど、適用される規格に従って確認された固定用具のみを使用してください。
- 荷物と、ラゲッジルームウォールおよびホイールハウスの間の空間を形状が崩れない方法で埋めてください。輪止め、木製固定具またはパッドのような、空間を安定させる運搬サポートのみを使用してください。

ラゲッジルーム内の荷物固定用リング

ラゲッジルーム内には、側面に取り付けられた 4 つの固定用リング ① があります。

ラゲッジルームカバー

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

ラゲッジルームカバーには、荷物や重い荷物などを固定することはできません。固定されていない荷物や重い荷物が、急な進路変更やブレーキ操作または事故のときなどにぶつかる可能性があります。けがや致命的なけがをするおそれが高まります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。ラゲッジルームカバーを使用していても、荷物や重い荷物がすべったり、放り出されることを防ぐために、荷物固定用ストラップなどで固定してください。

! 荷物を車内に積むときは、ラゲッジルーム内の荷物をサイドウインドウ下端より高く積み上げないでください。 ラゲッジルームカバーの上に重い物を載せないでください。

ラゲッジルームカバーは、リアベンチシートのバックレスト後方にあります。

ラゲッジルームカバーの開閉

ℹ ラゲッジルームカバー ① は、２つのローラーブラインドで構成されています。リアシートのバックレストが下に倒れている場合でもラゲッジルーム全体を覆うことができます。

▶ **開く：** ラゲッジルームカバー ① を後方に引き、リアドアの左右の固定部に掛けます。
▶ **閉じる：** ラゲッジルームカバー ① を外し、完全に巻き上がるまで前方に動かします。

ラゲッジルームカバーの取り付け/取り外し

▶ **取り外す：**ラゲッジルームカバー ② が巻き取られていることを確認します。
▶ ラゲッジルームカバー ② の左右のキャッチ ① を車両の中心に向かってスライドさせます。
▶ ラゲッジルームカバー ② を上にあげて出します。
▶ **取り付ける：** キャッチ ① を車両の中心に向かってスライドさせます。
▶ ラゲッジルームカバー ② をサイドトリムのリセスに差し込みます。
▶ ラゲッジルームカバー ② の左右をロックされるまで押し下げます。
▶ キャッチ ① をサイドトリムの方向にスライドさせます。

セーフティネット

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

セーフティネットには、荷物や重い荷物などを固定することはできません。固定されていない荷物や重い荷物が、急な進路変更やブレーキ操作または事故のときなどにぶつかる可能性があります。けがや致命的なけがをするおそれが高まります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。セーフティネットを使用していても、荷物や重い荷物がすべったり、放り出されることを防ぐために、荷物固定用ストラップなどで固定してください。

シートのバックレストの高さを超える小物を車両に積載する場合は、セーフティネットを使用することが特に重要になります。安全上の理由により、荷物を運搬するときは常にセーフティネットを使用してください。

ラゲッジルームを拡大していないときのセーフティネット

▶ リアドアを開きます。
これにより、より容易にセーフティネットに掛けることができます。

▶ あらかじめシートバックレストを前方に倒さずに、リアシートを前方に倒します (▷ 213 ページ)。

▶ セーフティネット ① を両側の固定部 ② に掛けます。

▶ テンショニングストラップ ④ のテンショニングバックル③ が,、進行方向に向いていなければなりません。

▶ テンショニングバックル ③ を使用して、テンショニングストラップ ④ を固定用リング ⑥ の長さに設定します。

▶ フック ⑤ を固定用リング ⑥ に固定します。

▶ テンショニングストラップ④ の端部を引き、セーフティネットを張ります。

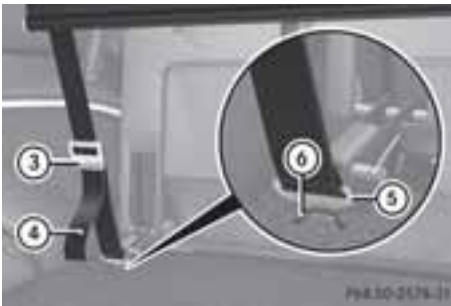
▶ リアベンチシートを起こした位置に前方に起こします (▷ 213 ページ)。
リアベンチシートにより、セーフティネットが張られます。

▶ 短距離を走行した後で、セーフティネットの張りを点検し、必要な場合は再度締めます。

セーフティネットを取り付ける

ラゲッジルームを拡大しているときのセーフティネット

▶ リアベンチシートを前方に倒します(▷ 213 ページ)。

▶ セーフティネット ① を両側の固定部 ② に掛けます。

③ テンショニングバックル
④ テンショニングストラップ
⑤ フック
⑥ 固定用リング

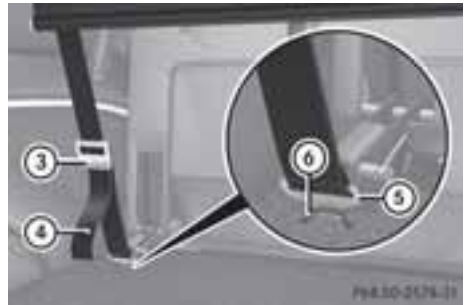
▶ テンショニングバックル ③ を使用して、テンショニングストラップ ④ を固定用リング ⑥ の長さに設定します。
テンショニングストラップ ④ のテンショニングバックル ③ が、ラゲッジルームの方向を向いていなければなりません。

▶ フック ⑤ を固定用リング ⑥ に固定します。

▶ セーフティネットが適切に張られるまで、テンショニングストラップ ④ の端部を引いて締めます。

▶ 短距離を走行した後で、セーフティネットの張りを点検し、必要な場合は再度締めます。

セーフティネットを取り付ける

セーフティネットの取り外し

③ テンショニングバックル
④ テンショニングストラップ
⑤ フック
⑥ 固定用リング

▶ テンショニングバックル③ を水平方向に上げます。
テンショニングストラップ ④ が緩みます。

▶ フック ⑤ を固定用リング ⑥ から外します。

セーフティネットを取り外す

▶ セーフティネット ① をブラケット ② から取り外します。

セーフティネットを収納する

▶ セーフティネット ① を巻き上げて、同梱のベルクロストリップを使用して固定します。
▶ セーフティネット ① をリアベンチシート背面に置きます。

ルーフラック

⚠ 警告
ルーフに荷物を積むと、車両の重心位置が上がり、走行特性が変化します。 ルーフの最大積載量を越える場合、走行特性や、ステアリング操作やブレーキ操作が大幅に損なわれるおそれがあります。 事故の危険性があります。
運転スタイルを調整し、ルーフの最大積載量を決して超えないでください。

! ルーフラックは、メルセデス・ベンツ車用に認定された推奨品の使用をお勧めします。 推奨品以外の製品を取り付けると車両を損傷するおそれがあります。

ルーフラックに荷物を積むときは、走行中に車両を損傷しないように確実に固定してください。

スライディングルーフをチルトアップしたときに接触しない用にしてください。

不適切に固定されたルーフラック、またはルーフ上の荷物は、車両から落下することがあります。メルセデス・ベンツにより承認されたルーフラックを使用してください。ルーフラックメーカーの取扱説明書、および最大ルーフ積載量 200 kg に従わなければなりません。

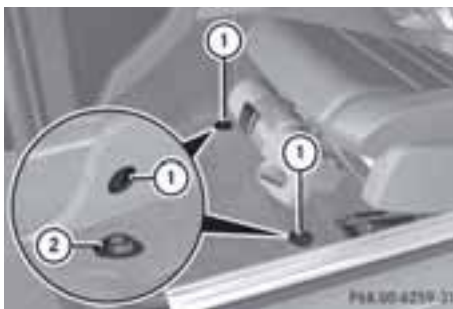
機能

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります：

- カップホルダー
- 灰皿
- ライター
- 12V 電源ソケット
- ルーフラック

運転席側のフロアマット

⚠ 警告
運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。
運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。

▶ シートを後方にスライドします。
▶ **取り付ける：**フロアマットを足元に敷きます。
▶ 凹部 ① を固定部 ② に押し込みます。

- ▶ **取り外す：**固定部 ② からフロアマットを引いて外します。
- ▶ フロアマットを取り外します。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。 国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 28 ページ).

エンジンルーム

ボンネット

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

解除すると、走行中にボンネットが開いて視界の妨げとなり危険です。 事故の危険性があります。

走行中にボンネットを解除しないでください。

⚠ **警告**

走行システムやラジエーターなど、エンジンルーム内の特定の構成部品が非常に熱くなることがあります。エンジンルーム内の作業を行なうときは、けがの危険性があります。

可能な場合は、走行システムを冷却し、以下に記載されている構成部品のみに触れてください。

⚠ **警告**

エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。 けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。 エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

⚠ **警告**

イグニッションシステムおよび燃料噴射システムは高電圧下で作動しています。高電圧を含んだ構成部品に接触すると、感電するおそれがあります。 けがの危険性があります。

イグニッションをオンにしたら、イグニッションシステムまたは燃料噴射システムの構成部品に決して触れないでください。

⚠ **警告**

エンジンルームには可動部品があります。ラジエターファンなどの特定の構成部品は、イグニッションをオフにした後も動き続けたり、再度突然動くことがあります。けがの危険性があります。

エンジンルームの作業を行わなければならない場合は：

- イグニッションをオフにしてください。
- ファンの回転範囲など、可動部品周囲の危険な範囲には決して触れないでください。
- 宝飾品や時計は外してください。
- 衣服や髪の毛などの物は、動いている部品から離してください。

⚠ **警告**

ボンネットを開いているとき、ワイパーを作動位置のままにしていると、ワイパーリンケージでけがをするおそれがあります。 けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、必ずワイパーおよびエンジンスイッチをオフにしてください。

❗ ワイパーアームを起こしたままでボンネットを開かないでください。ボンネッ

トとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。

イグニッションがオンのときは以下に触れないでください：

- イグニッションコイル
- スパークプラグコネクター
- 診断ソケット

ボンネットを開く

ボンネットのロック解除レバーは、進行方向に見たときの車両の左側の足元にあります。

▶ フロントウインドウワイパーが停止していることを確認します。

▶ ボンネットのロック解除レバー ① を引きます。
ボンネットのロックが解除されます。

▶ ボンネットを少し持ち上げます。

▶ ボンネットキャッチ ② を矢印の方向に押して、ボンネットを持ち上げます。

ボンネットを閉じる

⚠ **警告**

解除すると、走行中にボンネットが開いて視界の妨げとなり危険です。 事故の危険性があります。

走行中にボンネットを解除しないでください。

▶ ボンネットを下げ、約 20 cm の高さから下ろします。

▶ ボンネットが確実に固定されていることを確認します。
ボンネットがわずかに上がる場合は、確実に固定されていません。再度開き、少し力を入れて閉じます。

エンジンオイル

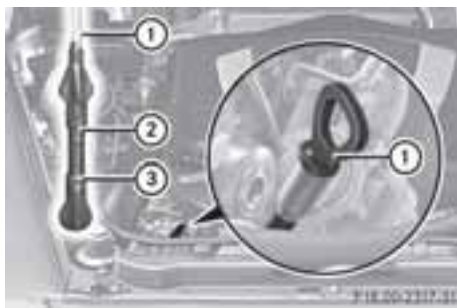
エンジンオイル量に関する注意事項

運転スタイルによって、車両は 1,000 km 当たり最大 0.8 L のオイルを消費します。新車のときや頻繁にエンジン回転数を上げて走行する場合は、オイル消費量はこれより増加します。

オイルレベルゲージを使用してオイルレベルの点検

⚠ **警告**

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。 エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

例：オイルレベルゲージ

G 65 AMG では、オイルレベルはマルチファンクションディスプレイを使用してのみ点検できます。

そのほかのすべてのモデルは、エンジンオイルレベルを点検するために、レベルゲージを必ず使用してください。

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 車両を水平な場所に停車している。
- エンジンが通常の作動温度のときは、エンジンを停止してから 5 分以上経過している。
- エンジンを短時間のみ始動した場合など、エンジンが作動温度でない場合は、エンジンを 30 分以上停止している。

▶ レベルゲージ ① をレベルゲージのチューブから引き抜きます。

▶ レベルゲージ ① を拭きます。

▶ レベルゲージ ① を停止するまでガイドチューブにゆっくりスライドし、再度取り出します。
レベルが MIN マーク ③ と MAX マーク ② の間にある場合は、オイルレベルは適正です。

▶ 必要な場合は、オイルを補給します。

マルチファンクションディスプレイを使用してのオイルレベルの点検

! オイルを過剰に補給しないでください。 エンジンオイルを過剰に補給すると、エンジンまたは触媒が損傷する可能性があります。 余分なエンジンオイルを抜き取ってください。

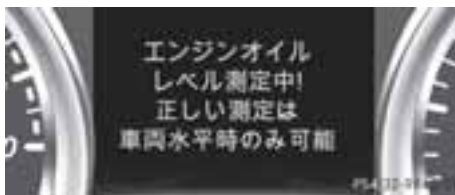
G 65 AMG：オイルレベルは、マルチファンクションディスプレイを使用してのみ点検できます。

そのほかのすべてのモデルは、エンジンオイルレベルを点検するために、レベルゲージを必ず使用してください。

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 車両を水平な場所に停車している。
- エンジンが通常の作動温度のときは、エンジンを停止してから 5 分以上経過している。

▶ エンジンスイッチのキーが **2** の位置にあることを確認します。

▶ ステアリングの [▲] または [▼] スイッチを押して、以下のメッセージを選択します。

測定は数秒かかります。マルチファンクションディスプレイに、以下のメッセージのいずれかが表示されます：

- エンジンオイルレベル セイジョウ
- エンジン オイル 1.0 リッタ ツイカ
- エンジン オイル 1.5 リッタ ツイカ
- エンジン オイル 2.0 リッタ ツイカ

▶ 必要な場合は、オイルを補給します。

エンジンが通常の作動温度で、エンジンオイルレベル オイル ヲ ヌイテクダサイというディスプレイが表示された場合は、追加したオイルが多すぎます。

▶ 余分なエンジンオイルは抜き取ってください。

エンジン オイルレベル イグニッション オン というメッセージが表示された場合：

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▷ 116 ページ)。

マチジカン ジュンシュ というメッセージが表示された場合：

▶ **エンジンが通常の作動温度の場合：** 約 5 分後に測定を繰り返します。

▶ **エンジンが通常の作動温度でない場合：**エンジンが短時間のみ始動していたなどの場合は、約 30 分後に測定を繰り返します。

エンジン オイルレベル エンジン オフノトキ というメッセージが表示された場合：

▶ エンジンを停止します。

▶ **エンジンが通常の作動温度の場合：** 測定を実行する前に、約 5 分間待ちます。

▶ **エンジンが通常の作動温度でない場合：** エンジンが短時間のみ始動していたなどの場合は、測定を実行する前に約 30 分待ちます。

ⓘ 測定を中止したい場合は、マルチファンクションステアリングの [▲] または [▼] スイッチを押します。

エンジンオイルの追加

⚠ **警告**

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。 エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ **警告**

エンジンオイルがエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。 火災およびけがの危険性があります。

エンジンオイルが補給口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを冷やし、エンジンを始動する前に、エンジンオイルで汚れた構成部品を清掃してください。

環境

エンジンオイルを補給するときは、こぼさないように注意してください。 エンジンオイルが地面や排水溝に流れると、環境に悪影響を与えます。

! サービスシステム装備車両のために承認されているエンジンオイルとオイルフィルターのみを使用してください。サービスプロダクトに関するメルセデス・ベンツの仕様に適合するためにテストされ、承認されたエンジンオイルとオイルフィルターのリストはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

エンジンまたは排気システムの損傷は以下のことに起因します。

- サービスシステムで承認されていない仕様のエンジンオイルやオイルフィルターの使用
- サービスシステムで要求される交換期間を過ぎた後のエンジンオイルやオイルフィルターの交換
- エンジンオイル添加剤の使用

! 多すぎる量のオイルを補給しないでください。オイル量がオイルレベルゲージの"MAX"マークを超えている場合は、多すぎる量のオイルが補給されています。ンジンまたは触媒コンバーターの損傷につながるおそれがあります。必ず余分なエンジンオイルを抜き取ってください。

エンジンオイルキャップ（例：G 65 AMG）

▶ キャップ ① を反時計回りにまわして、取り外します。

▶ 必要な量のオイルを補給します。

そのときは、マルチファンクションディスプレイの指定に従うか、オイルレベルゲージの MAX マークまで慎重に補充します。

エンジンオイルについての詳しい情報は、(▷ 266 ページ)をご覧ください。

ℹ オイルレベルゲージの MIN マークと MAX マークの間の差は、約 2 L です。

▶ キャップ ① を補給口に合わせ、時計回りに締めます。
キャップが元の場所に確実にロックされていることを確認します。

他のサービスプロダクト

冷却水レベルの点検

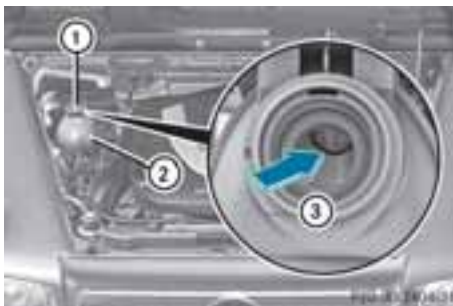
⚠ **警告**

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。 エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ **警告**

エンジンが温まっている場合は特に、エンジン冷却システムに圧力がかかっています。 キャップを開くとき、高温の冷却水が吹き出す可能性があります。 けがの危険性があります。

キャップを開く前に、エンジンを冷ましてください。 開くときは、手袋と保護メガネを着用してください。 キャップをゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

▶ 車両を水平な場所に停めます。
車両が水平な場所にあり、エンジンが冷えている場合にのみ、冷却水量を点検してください。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▷ 116 ページ)。

▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度表示を確認します。
冷却水温度は 70 ℃以下でなければなりません。

▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。
冷えているときに、冷却水が補給口内のマーカーバー ③ の高さにある場合は、冷却水リザーブタンク ② 内に十分な冷却水があります。
温かいときに、冷却水量が補給口内のマーカーバー③ から約 1.5 cm 上にあ

る場合は、冷却水リザーブタンク ② 内に十分な冷却水があります。

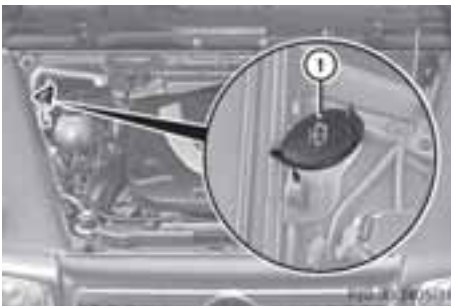
▶ 必要な場合は、メルセデス・ベンツでテストされ、承認された冷却水を補給します。

▶ キャップ ① を合わせ、時計回りにいっぱいまでまわします。

冷却水に関するさらなる情報は、(▷ 268 ページ) をご覧ください。

ウインドウウォッシャーとヘッドライトウォッシャーの補給

> ⚠ **警告**
>
> エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。 エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。
>
> なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

> ⚠ **警告**
>
> ウインドウウォッシャー液が熱いエンジン部品または排気システムに触れた場合、発火するおそれがあります。 火災およびけがの危険性があります。
>
> ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。

例：ウォッシャー液リザーブタンク

▶ **開く：** タブを持ってキャップ ① を引き上げます。

▶ あらかじめ混合しておいたウォッシャー液を補給します。

▶ **閉じる：** 固定されるまで、キャップ ① を補給口に押し付けます。

ウォッシャー液リザーブタンクは、ウインドウウォッシャーおよびヘッドライトウォッシャー両方に使用されます。

ヘッドライトウォッシャー装備車両では、推奨される最低ウォッシャー液量は 3.5 リットルです。ヘッドライトウォッシャー非装備車両では、推奨される最低ウォッシャー液量は 1 リットルです。ウォッシャー液レベルが推奨される最小の 1 リットル以下に下がった場合は、ウォッシャー液を補充するように促すメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます (▷ 162 ページ)。

ウインドウウォッシャー液/不凍液についてのさらなる情報は、(▷ 268 ページ)をご覧ください。

メンテナンス

ASSYST メンテナンスインジケーター表示

メンテナンスメッセージ

点検の種類と点検時期に関する情報（別冊の整備手帳をご覧ください）。

さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

ASSYST メンテナンスインジケーター画面は、次回の点検期日をお知らせします。

点検整備時期を超えると、警告音が鳴ります。

マルチファンクションディスプレイに以下のようなメンテナンスメッセージが数秒間表示されます。

メンテナンス A アト 99999 km
メンテナンス A ジッコウ
メンテナンス A99999 km コエテイマス

時期に応じたメンテナンススケジュールは、以下のように管理してください。

▶ バッテリーの接続を外す前に、点検整備時期を呼び出し、メモします。

または

▶ バッテリーを再度接続した後に、ディスプレイに表示されているメンテナンス予定期日からバッテリーの接続を外していた期間を引いてください。

どのメンテナンスの種類が期日であるかを表示するマークおよび文字は以下の通りです。

[🔧] 小規模メンテナンス A
[🔧🔧] 大規模メンテナンス B

ASSYST メンテナンスインジケーター画面は、バッテリーの接続を外している間の期日を考慮していません。

メンテナンスメッセージを非表示にする

▶ メンテナンスメッセージを隠すには、マルチファンクションステアリングの [↩] スイッチを押します。(▷ 35 ページ)

メンテナンスメッセージを表示する

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用します。

▶ イグニッションをオンにします。

▶ [◀] または [▶] を押して、ステアリングの**基本画面** メニューを選択します。(▷ 162 ページ)

▶ [▲] または [▼] を押して、ASSYST メンテナンスインジケーター画面を選択します。
メンテナンスマーク [🔧] または [🔧🔧] および点検整備時期が表示されます。

メンテナンスに関する情報

所定の点検整備間隔は、通常の車両の使用を元にしています。以下のような過酷な状況、または大きな負荷で車両が使用される場合は、より頻繁に点検整備作業を行なう必要があります。

- 頻繁に停止を繰り返す一般的な市街地走行
- 車両が主に短距離で使用される場合
- 山間地や路面の悪い道路での頻繁な使用
- エンジンを長い時間アイドリングさせることが多い場合

上記または類似の使用条件では、エアフィルター、エンジンオイルおよびオイルフィルターなどをより頻繁に交換してください。高い負荷で車両が使用されている場合は、より頻繁にタイヤを交換する必要があります。さらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

燃料/ウォータセパレーター

環境

燃料および油脂は、環境汚染を配慮して、廃棄処分してください。

! 燃料 / ウォータセパレーターを整備しないで走行を続けると、エンジンを損傷

するおそれがあります。いかなる損傷も保証の対象外になります。

燃料 / ウォータセパレーターに整備が必要な場合、以下のメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

短い警告音も発せられます。

▶ できるだけ早くメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

手入れ

全体的な注意事項

! お車の手入れをされる場合は、次のものは絶対に使用しないでください。

- 乾いた布や目の粗い布、硬めの布など
- 研磨剤を含む洗剤
- 溶剤
- 溶剤を含む洗剤

強く擦らないでください。

リングやスクレーパーなどのかたい物が、塗装面や保護膜に触れないようにしてください。塗装面や保護膜が損傷するおそれがあります。

! 特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、清掃したままで車両を長い間駐車しないでください。ホイールクリーナーが、ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングの錆を増加させる原因になるおそれがあります。このため、清掃した後は数分間走行してください。ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングを、ブレーキ制動により加熱して乾燥させます。その後で駐車してください。

環境

空の容器や使用済みのクリーニングクロスは、環境に配慮した方法で廃棄してください。

定期的な車の手入れにより、長い期間品質を保つことができます。

メルセデス・ベンツが推奨し、承認した手入れ用品およびクリーナーを使用してください。

外装の手入れ

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります：

- 高圧式洗浄機器
- 車輪の清掃
- 塗装面の清掃
- マットペイントの手入れと取り扱い
- ウインドウの清掃
- ワイパーブレードの清掃
- ヘッドライトの清掃
- センサーの清掃
- リアビューカメラの清掃
- マフラーの清掃
- クローム部品の清掃

自動洗車機

⚠ 警告

自動洗車機で洗車した直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。事故の危険性があります。

車両を洗車した後は、完全にブレーキの性能が元に戻るまでは道路状況に注意して慎重にブレーキ操作を行ってください。

! 自動洗車機が車両のサイズに合っていることを確認してください。 車両を洗車する前に、ドアミラーをたたんでください。 ドアミラーを損傷するおそれがあります。

! けん引式の洗車機で洗車するときは、オートマチックトランスミッションが N の位置にあることを確認してください。トランスミッションが他の位置にあると、車両の損傷につながります。

! 注意：

- サイドウインドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。
- ベンチレーション / ヒーターの送風が停止していること（送風コントローラーが 0 の位置にあり、AUTO および A/C REST スイッチがオフであること）。
- ワイパースイッチが 0 の位置になっていること

車両を損傷するおそれがあります。

最初から自動洗車機で洗車することができます。

ひどい汚れは、自動洗車機で洗車をする前に洗ってください。

自動洗車機を使用した後は、フロントウインドウやワイパーブレードのワックスを拭いてください。フロントウインドウの残留物に起因する汚れを防ぎ、ワイパーのノイズを低減します。

車内の手入れ

デジタル版取扱説明書の情報

デジタル版取扱説明書には、以下の項目に関する情報が記載されています。

- ディスプレイの清掃
- 樹脂製トリムの清掃
- ステアリングとギアレバー / セレクターレバーの清掃
- ウッド / トリムストリップの清掃
- シートカバーの清掃
- シートベルトの清掃
- ルーフライニングとカーペットの清掃

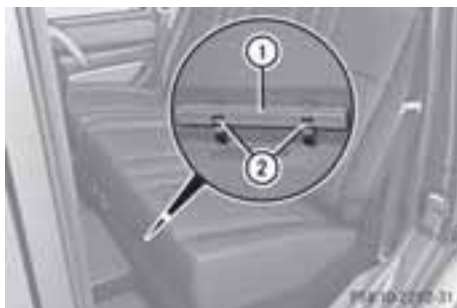
役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国により、仕様が異なる場合があります。お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 28 ページ).

車載品の収納場所

停止表示板

停止表示板の取り外し

停止表示板 ① は、後席シート下部に固定されています。

▶ 固定具 ② を開きます。

▶ 停止表示板 ① を取り外します。

停止表示板の組み立て

▶ スタンド ③ を下および横に引き出します。

▶ 側方の反射板 ② を上方に起こして三角形を作り、固定用ノブ ① を使用して上部で固定します。

救急セット

救急セット ① は、右側ドアの小物入れにあります。

ℹ 最低 1 年に 1 度、救急セットの使用期限を点検してください。必要な場合は内容物を交換し、なくなった物は補充してください。

車載工具キット

全体的な注意事項

車載工具キットには以下のものが含まれています：

- 以下を含む車載工具キット：
  - ヒューズエクストラクター
  - アレンキー： 非常時にスライディングルーフを手動で操作するときなどに。
  - ジャッキ用ポンプレバー
  - ドライバー
  - ホイールレンチ
- ジャッキ

車載工具キット

車載工具キットは、リアシート前方の足元のカバー下部に収納されています。

▶ カバー ① を横に開きます。

▶ タブで車載工具キット ② を取り出します。

ジャッキ

❗ ジャッキを収納するときは、ホルダーにケーブルがないことを確認し、挟み込まないように注意してください。

ジャッキ ② は、進行方向右側のリアシート下部に収納されています。

▶ リアシートを前方に倒します (▷ 213 ページ)。

▶ カバー ①を開きます。

▶ バー ③ を引き上げ、タブ ④から外します。

▶ ジャッキ ②を取り出します。

外側のスペアタイヤブラケット

全体的な注意事項

ℹ 車輪交換をするときは、"パンクしたとき"の項目に記載されている安全上の注意事項をお守りください (▷ 254 ページ)。

スペアタイヤは、リアドアの外側にあります。

カバーの取り外し

タイヤ保護カバー

▶ タイヤ保護カバー ② のラバーリング ① を引いて、外します。

▶ タイヤ保護カバー ② を引いて、外します。

ステンレススチール製スペアタイヤカバー

▶ ドライバー ③ または類似の工具を使用して、カバーリング ① のロックを開きます。

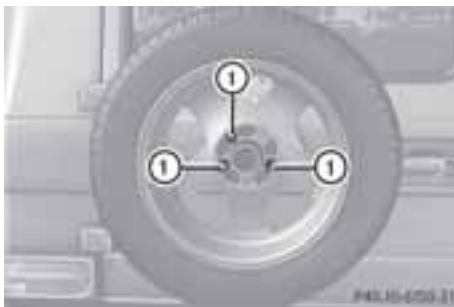
▶ タブ ② を下に開きます。

▶ カバーリング ① を引いて、取り外します。

▶ カバーパネル ④を引いて、外します。

ℹ カバーパネル ④ を再度取り付けるときは、固定部 ⑤ が凹部 ⑥ に固定されていることを確認してください。

スペアタイヤの取り外し

スペアタイヤは重量があります。スペアタイヤを取り外すときは、このことに注意してください。

▶ ホイールナット ①を取り外します。
▶ スペアタイヤを取り外します。

車輪の取り付け

車輪交換後は：

▶ 損傷したスペアタイヤをホイールナット ① でスペアタイヤブラケットに固定します。そうするときは、車輪が緩んでいないことを確認してください。
▶ タイヤ保護カバーをタイヤに被せます。
▶ **ステンレススチール製スペアタイヤカバー装備車両：** カバーパネル ④ を再度取り付ける場合は、固定部 ⑤ が凹部 ⑥(▷ 234 ページ) に固定されていることを確認します。
▶ カバーリング ①を再び取り付けるときは、タブ ② が下方にあることを確認してください。(▷ 234 ページ)
▶ 安全上の理由により、定期点検を行ないタイヤが確実に固定されていることを確認してください。

パンク

車両の準備

▶ 交通の妨げにならず、固く滑らない水平な場所に車両を停車します。
▶ 非常点滅灯を作動させます (▷ 100 ページ)。
▶ 車速感応ドアロックを解除してください。(▷ 162 ページ)
▶ パーキングブレーキを効かせてください。
▶ 前輪を直進位置にします。
▶ セレクターレバーを P に動かします。
▶ エンジンを停止します。
▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。キーを抜くとすぐに、ステアリングロックが作動します。
▶ 乗員全員を車両から降ろします。そのときは、乗員が危険にさらされないことを確認してください。
▶ 車輪交換をするときは、危険なエリアの近くに誰もいないことを確認してください。車輪交換を直接補助しない人は、ガードレールの向こう側に立つなどしてください。
▶ 車両から降りてください。そのときは交通状況に注意してください。
▶ 運転席ドアを閉じます。
▶ 適切な位置に停止表示板 (▷ 232 ページ) または停止表示灯を置きます。法規に従ってください。

ℹ 自動車専用道路や高速道路では、停止表示板を使用することにより後続車両に警告を発することが法律で義務付けられています。

バッテリー（車両）

重要な安全上の注意事項

バッテリーの取り外し、または取り付けなどの作業は、専門的な知識および専用工具の使用が必要です。そのため、バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

> ⚠ **警告**
>
> バッテリーに不適切な作業を行なうと、例えばショートにつながり、車両の電子部品を損傷します。これにより、ライトシステム、ABS（アンチロック・ブレーキングシステム）または ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）のような安全に関連したシステムに機能の制限を与えることにつながるおそれがあります。車両の操作安全性が制限されるおそれがあります。例えば、以下のときに車両のコントロールを失うおそれがあります。
>
> - ブレーキ時
> - 急なステアリング操作時、および/または車両速度が道路の状態に合っていないとき
>
> 事故の危険性があります。
>
> ショート、または似たような出来事のときは、すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。それ以上走行しないでください。バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

ABS が故障している場合は、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。これにより、ブレーキ時の操舵性が制限され、制動距離が長くなることがあります。

ESP®が故障している場合は、横滑りしたとき、または車輪が空転したときに車両を安定させることができません。

ℹ ABS (▷ 72 ページ) および ESP® (▷ 73 ページ) に関するさらなる情報

> ⚠ **警告**
>
> 充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。 バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。 爆発の危険性があります。
>
> - 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
> - 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
> - バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
> - ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
> - ブースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
> - エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

> ⚠ **警告**
>
> 静電気を帯びていると、火花が発生してバッテリーから発生する高可燃性のガスに引火することがあります。 爆発の危険性があります。
>
> バッテリーを取り扱う前に、車体に触れて身体の静電気を放電させてください。

バッテリー充電時、およびジャンプスタート時は、可燃性の高い混合ガスが発生します。

お客様にも、そしてバッテリーにも静電気が帯電していないことを常に確認してください。静電気は以下のような場合に発生します：

- 合成繊維製の衣服を着用することにより
- 衣服とシートの間で摩擦が起こることにより
- カーペットまたは他の合成繊維の上でバッテリーを引きずった、または押したとき
- バッテリーを布で拭いたとき

⚠ **警告**

バッテリー液は腐食性です。けがのおそれがあります。

皮膚、目または衣服への付着を防いでください。バッテリーのガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。子供の手の届かない所に置いてください。ただちにバッテリー液を多量の清潔な水で十分にすすぎ、至急医師の診断を受けてください。

! メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を定期的に受けてください。

整備手帳のメンテナンスインターバルを確認するか、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。やむを得ず お客様自身でバッテリーを切り離す必要がある場合は、以下の注意事項をお守りください。

- エンジンを停止し、キーを抜き取ります。 メーターパネルのすべての表示灯が消灯していることを確認します。 オルタネーターなどの電子部品を損傷するおそれがあります。
- 先にマイナス端子、次にプラス端子を外します。 決して端子を逆に接続しないでください。 車両の電子部品を損傷するおそれがあります。
- オートマチックトランスミッション搭載車では、バッテリーを切り離した後、シフトポジションが P にロックされます。 車両が動き出さないように固定されます。 そのため、車両を動かすことができなくなります。

運転中はバッテリーおよびプラス端子のカバーを確実に装着しておく必要があります。

! メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受け、2 年ごとまたは 20,000 km ごとにバッテリーを交換してください。

環境保護に関する注意

電池には環境汚染物質が含まれています。 電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられています。 使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。

電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分に充電されていることが必要です。

バッテリーを取り扱うときは、安全上の注意事項および防護措置を守ってください。

警告

バッテリーを取り扱うときは、火気、裸火および喫煙は禁止されています。火花の発生は避けてください。

バッテリー液は腐食性です。

皮膚、目または衣服への付着を防いでください。

保護眼鏡を着用してください。

子供を近づけないでください。

取扱説明書の指示に従ってください。

車両のバッテリーは他のバッテリーと同様に、車両を使用しないと徐々に放電するおそれがあります。そのような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの接続を外してください。メルセデス・ベンツにより推奨された充電器で、バッテリーを充電することもできます。さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

安全上の理由のため、お客様の車両用にメルセデス・ベンツによりテストおよび承認されたバッテリーのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。これらのバッテリーには、衝撃に対する高い耐性があり、その結果、事故の際にバッテリーが損傷した場合の乗員への酸による火傷の危険性を低減します。

車両を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多い場合は、通常よりも頻繁にバッテリー液量や充電状態を点検してください。車両を長期間使用しないときの保管方法については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

ℹ 車両を駐車するとき、電気装備を必要としない場合は、キーを抜いてください。車両は非常にわずかな電力を使用し、これによりバッテリーの電力を消費します。

ℹ バッテリーの放電などで電源供給が遮断された場合は、以下を行なわなければなりません：

• 時計の設定 時計の設定に関する情報は、デジタル版取扱説明書にあります。
COMAND システムおよびナビゲーションシステム装備車両では、時計は自動的に設定されます。
• フロントシートのヘッドレストのリセットヘッドレストのリセットに関する情報は、デジタル版取扱説明書にあります。
• ミラーを一度展開することによる、ドアミラーの自動展開/格納機能のリセット (▷ 97 ページ)

バッテリーの充電

⚠ 警告

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。 バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確保してください。 バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性です。けがのおそれがあります。

皮膚、目または衣服への付着を防いでください。バッテリーのガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。子供の手の届かない所に置いてください。ただちにバッテリー液を多量の清潔な水で十分にすすぎ、至急医師の診断を受けてください。

⚠ 警告

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。 ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリー液を解凍してください。

! バッテリーを充電する場合は、必ずジャンプスタートターミナルを使用してください。

! 必ず最大充電電圧が約 14.8 V のバッテリー充電器を使用してください。

! バッテリーの充電に使用する充電器は、必ず純正品を使用してください。 このバッテリー充電器を使用することにより、バッテリーを車両に取り付けたままで充電を行なうことができます。

低温時に表示/警告灯が点灯しない場合は、放電したバッテリーが凍結していることがあります。このような場合は、車両をジャンプスタートすることも、バッテリーを充電することもできないことがあります。解凍したバッテリーの寿命は短くなることがあります。特に低温時の始動性能が損なわれることがあります。解凍したバッテリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メルセデス・ベンツ車両用に特別に適合し、メルセデス・ベンツによりテストおよび承認されたバッテリー充電器ユニットはアクセサリーとして入手できます。情報および入手については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。バッテリー充電器の取扱説明書に従って、バッテリーを充電してください。

ジャンプスタート接続端子は、エンジンルーム内にあります (▷ 240 ページ)。

▶ バッテリー充電器の取扱説明書をお読みください。

▶ ボンネットを開きます (▷ 223 ページ)。

▶ ジャンプスタート作業で救援用バッテリーを接続するときと同じ順序で、バッテリー充電器をプラス端子とアースポイントに接続してください。(▷ 240 ページ)

ジャンプスタート

ジャンプスタート作業には、エンジンルーム内のプラス端子とアースポイントで構成されているジャンプスタート接続端子のみを使用してください。

⚠ **警告**

バッテリー液は腐食性です。けがのおそれがあります。

皮膚、目または衣服への付着を防いでください。バッテリーのガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。子供の手の届かない所に置いてください。ただちにバッテリー液を多量の清潔な水で十分にすすぎ、至急医師の診断を受けてください。

⚠ **警告**

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。 バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確保してください。 バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ **警告**

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。 バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。 爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
- ブースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

⚠ **警告**

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。 ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。 爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリー液を解凍してください。

! ガソリンエンジン車： 繰り返しての、および長時間にわたる始動の試みは避けてください。未燃焼燃料によって触媒コンバーターを損傷するおそれがあります。

低温時に表示/警告灯が点灯しない場合は、放電したバッテリーが凍結していることがあります。このような場合は、車両をジャンプスタートすることも、バッテリーを充電することもできないことがあります。

解凍したバッテリーの寿命は著しく短くなることがあります。

特に低温時の始動性能が損なわれることがあります。

解凍したバッテリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

車両の始動のために急速充電器を使用しないでください。車両のバッテリーが放電した場合は、ブースターケーブルを使用して他の車両や他のバッテリーからエンジンをジャンプスタートすることができます。以下の点に注意してください：

- すべての車両でバッテリーに手が届くわけではありません。他の車両のバッテリーに手が届かない場合は、他のバッテリーまたはジャンプスタート用機器を使用して、車両をジャンプスタートしてください。
- **ガソリンエンジン車両：**エンジンおよび排気システムが冷えているときにのみ、車両のジャンプスタートを行なってください。
- バッテリー液が凍結しているときは、エンジンを始動しないでください。最初にバッテリーを解凍してください。
- ジャンプスタートは、定格電圧 12 V のバッテリーからのみ実行できます。
- 十分な太さ、および絶縁された端子クランプを持つブースターケーブルのみを使用してください。
- バッテリーが完全に放電している場合は、始動を試みる前に、ジャンプスタートのために接続したバッテリーを数分間接続したままにしてください。これにより、放電したバッテリーに若干充電されます。
- 2 台の車両が接触していないことを確認します。

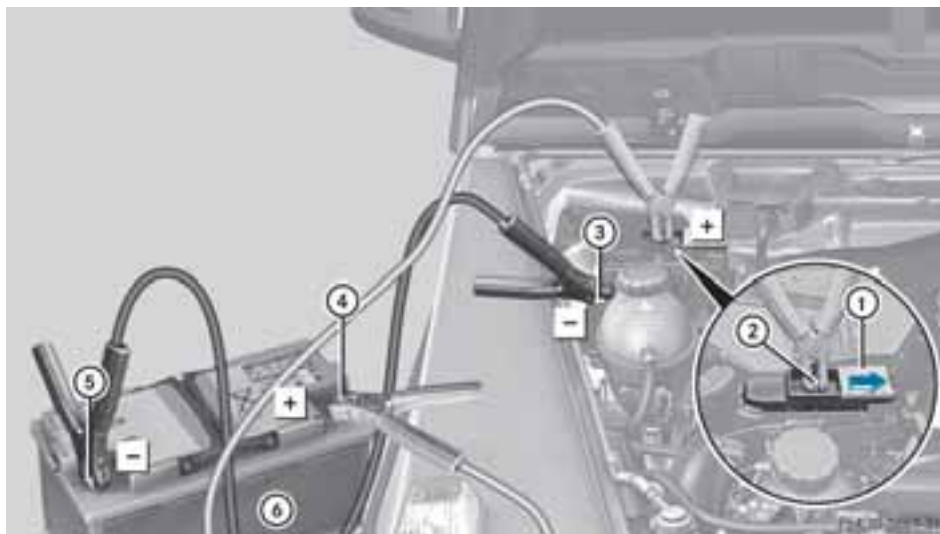
以下を確認してください：

- ブースターケーブルが損傷していない
- ブースターケーブルをバッテリーに接続している間、端子クランプの絶縁されていない部分が他の金属部品と接触していない
- プーリーやファンなどの部品にブースターケーブルが触れていないエンジンが始動したとき、そしてかかっている間は、これらの部品が動きます。

▶ パーキングブレーキを効かせてください。

▶ セレクターレバーを P に動かします。

▶ すべての電力装備（ラジオ、送風など）を停止します。

▶ ボンネットを開きます (▷ 223 ページ)。

位置番号 ⑥ は、他の車両の充電されているバッテリーまたは対応するジャンプスタート装置を示しています。

ジャンプスタートターミナルは、端子 ② および ③ で構成されています。

- ▶ プラス端子 ② のカバー ① を矢印の方向に引き上げてます。
- ▶ お客様のバッテリーから始めるようにして、ブースターケーブルを使用して、 お客様の車両のプラス端子 ② を救援用バッテリーのプラス端子 ⑥ のプラス端子 ④ に接続します。
- ▶ 救援用車両のエンジンを始動し、アイドリング回転数で作動させます。
- ▶ 救援用バッテリー ⑥ に最初にジャンプケーブルを接続するようにして、ブースターケーブルを使用して、救援用バッテリー ⑥ のマイナス端子 ⑤ をお客様の車両のアース端子 ③ に接続します。
- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ 最初にアースポイント ③ とマイナス端子 ⑤ から、次にプラス端子 ② とプラス端子 ④ からブースターケーブルを取り外します。いずれの場合も、お客様の車両のバッテリーから始めます。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

ℹ ジャンプスタートは、正常な操作状態とはみなされていません。

ℹ ジャンプスタートのケーブル、およびジャンプスタートについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

けん引とけん引始動

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

安全性に関連する機能は以下の場合に制限されるか、または使用できなくなります。

- エンジンが作動しないとき
- ブレーキシステムまたはパワーステアリングに不具合がある
- 電圧供給または車両の電気システムに不具合がある

車両をけん引する場合は、ステアリング操作、またはブレーキ操作により大きな力が必要になることがあります。事故の危険性があります。

そのような場合は、けん引バーを使用してください。けん引する前に、ステアリングが自由に動くことを確認してください。

⚠ 警告

他の車両をけん引する、またはけん引始動するとき、その重量がお客様の車両の許容総重量よりも大きい場合：

- けん引フックがちぎれる可能性があります
- トレーラー連結車両が蛇行し、横転するおそれがあります

事故の危険性があります。

他の車両をけん引する、またはけん引始動するときは、その重量はお客様の車両の許容総重量よりも大きくてはいけません。

! ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。 車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引されるとき
- 洗車時

! 車両は最長で約 50 km までけん引できます。けん引する際の速度は、約 50 km/h を超えないように注意してください。

距離が約 50 km を超える場合は、必ず車両全体をリフトアップして、車両積載車を利用してください。

! けん引ロープやロッドは、けん引フック以外に固定しないでください。 車両を損傷するおそれがあります。

! スタックから脱出するためにけん引フックを使用しないでください。車体を損傷するおそれがあります。 できれば、クレーンを使用して車両を脱出させてください。

! けん引する時は、ゆっくりとスムーズにけん引します。けん引力が大きすぎると、車両が損傷するおそれがあります。

! この車両にはオートマチックトランスミッションが装備されています。 そのため、車両をけん引で始動させることはできません。 トランスミッションが損傷するおそれがあります。

けん引を行なうときは、各国の法規制に従ってください。

できるだけけん引は避け、車両を運搬してください。

トランスファーを **N** にシフトすることができれば、車両をけん引することができます。

トランスファーを **N** にシフトすることができない場合は、いずれかのアクスルを上げた状態で車両をけん引することができます。以下に注意してください：

- トランスファーケースと駆動側アクスルの間からプロペラシャフトを取り外します。
- エンジンスイッチのキーを **1** の位置にまわします (▷ 116 ページ)。

バッテリーが接続されていて、充電されていなければなりません。さもないと、以下のようになります：

• エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわす(▷ 116 ページ)
• オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトできない

ℹ 車両をけん引する前に、車速感応ドアロックを解除してください (▷ 86 ページ)。さもないと、車両を押したり、けん引するときに、閉め出されるおそれがあります。

車両をけん引する前に、けん引防止機能を解除してください (▷ 77 ページ)。

けん引フック

フロント側けん引フック

① けん引フック、フロント

けん引フック、リア

リアのけん引フック ① は、進行方向に見てバンパー下部左側にあります。

両アクスルを接地させての車両のけん引

けん引を行なうときは、以下の安全注意事項を守ってください。 (▷ 243 ページ)

▶ 非常点滅灯を点滅させせます。 (▷ 100 ページ)

ℹ 非常点滅灯を点滅させてけん引してもらうときは、方向指示を行なうために、通常通りコンビネーションスイッチを操作してください。 このときは、操作した側の方向指示灯が点滅します。 コンビネーションスイッチを元に戻すと、非常点滅灯が再度点滅し始めます。

▶ エンジンスイッチを **2** の位置にまわします。(▷ 116 ページ)
▶ 車両が停止しているときに、ブレーキペダルを踏んで、そのまま保持します。
▶ トランスファーを**ニュートラル**にシフトします。 (▷ 153 ページ)
▶ オートマチックトランスミッションのシフトポジションを **N** にします。
▶ ブレーキペダルを徐々に戻します。
▶ パーキングブレーキを解除します。 (▷ 128 ページ)

ℹ トランスミッションは、バッテリーの充電状態が十分なときのみギアチェンジを行なうことができます。

セレクターレバーを **N** に動かすことができない場合は、駆動アクスル側のプロペラシャフトを取り外す必要があります。

車両の運搬

❗ 車両を固定するときは、アクスルやステアリング構成部品などにかけずに、ホイールにのみかけてください。 車体を損傷するおそれがあります。

トレーラーや車両運搬車で運搬する必要がある場合は、けん引フックを使用して車両をけん引してください (▷ 244 ページ)。

- パーキングブレーキを効かせます。
- エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▷ 116 ページ)。
- セレクターレバーを **N** に動かします。
- トランスファーケースをニュートラルポジション **Neutral** にシフトします (▷ 153 ページ)。
- けん引ケーブルをけん引フックに固定してください (▷ 244 ページ)。
- 車両が動き出さないことを確認してください。
- パーキングブレーキを解除します。
- 車両を車両運搬車に積載します。

車両を積載したら、ただちに以下のようにします：

- パーキングブレーキを効かせます。
- オートマチックトランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして、取り外します (▷ 116 ページ)。
- 車両を固定します。

スタックしたときの脱出方法

! 車両がスタックから回復した場合、できるだけスムーズに均一に引いてください。 けん引力が大きすぎると、車両が損傷するおそれがあります。

ぬかるみなど柔らかい路面に駆動輪が埋まり込んで動けなくなったときは、細心の注意を払って脱出してください。荷物積載時は特に注意してください。

トレーラーを連結したままで脱出しないでください。

できれば埋まり込んだときにできたわだちを利用して、後退して脱出してください。

故障時のけん引

全体的な注意事項

! プロペラシャフトを取り外すときは、M8 ボルトのスペーサとして M10 ナットを使用し、M8 ナットで固定してください。

プロペラシャフトが装着されている場合は、必ず新品のセルフロッキングナットを使用してください。

- この作業を行なうときは安全上の注意に従ってください。 (▷ 243 ページ)

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

エンジン損傷、ギア損傷または電気的故障

- セレクターレバーを **N** の位置に動かします。 (▷ 118 ページ)
- トランスファーを**ニュートラル**にシフトします。 (▷ 153 ページ)

トランスファーが損傷したとき

アクスルとトランスファー間のプロペラシャフトを取り外します。

フロントアクスルが損傷したとき

リアアクスルとトランスファー間のプロペラシャフトを取り外します。

フロントアクスルを持ち上げた状態で車両をけん引してもらいます。

リアアクスルが損傷したとき

フロントアクスルとトランスファー間のプロペラシャフトを取り外します。

次に、リアアクスルを持ち上げ、ホイールローラーをフロントアクスルの下にした状態でけん引してもらいます。

けん引始動（エンジンエマージェンシースタート）

! オートマチック車はけん引始動しないでください。オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

"ジャンプスタート" に関する情報は、(▷ 240 ページ) にあります。

ヒューズ

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

切れたヒューズを使用したり、ブリッジしたり、またはより高いアンペア数のヒューズと交換すると、ケーブルに過負荷がかかります。 火災の原因になります。事故やけがの危険性があります。

切れたヒューズは、必ず正しいアンペア数の指定された新品のヒューズと交換してください。

! ヒューズは必ずメルセデス・ベンツ車両に適合し、該当する電気装備と同じ規定容量を満たすものを使用してください。適切でないヒューズを使用すると、構成部品や電気装備を損傷するおそれがあります。

車両のヒューズは異常のある回路への接続を切断します。ヒューズが切れた場合は、回路上のすべての構成部品とそれらの機能が作動しなくなります。

切れたヒューズを交換するときは、ヒューズの色と定格を確認し、必ず同じ定格のヒューズと交換してください。ヒューズの定格は、ヒューズ配置表に記載されています。

新しいヒューズに交換してもすぐに切れる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因究明および修理を行なってください。

ヒューズを交換する前に

▶ 停車して、パーキングブレーキを効かせます。

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。 メーターパネル内のすべての表示灯が消灯します。

ヒューズは、以下のヒューズボックス内にあります。

- ダッシュボードの運転席側のメインヒューズボックス
- 助手席足元のヒューズボックス
- トランスミッショントンネルのヒューズボックス
- バッテリーケース内のヒューズボックス
- ラゲッジルーム内のヒューズボックス

ヒューズ配置表およびスペアヒューズは、ダッシュボードのメインヒューズボックス内にあります。 (▷ 246 ページ)

ヒューズ取り外し工具は車載工具に収納されています (▷ 233 ページ)。

ダッシュボードのヒューズボックス

! ドライバーなどの鋭利な物を使用して、ダッシュボードのカバーを開かないでください。 ダッシュボードやカバーを損傷するおそれがあります。

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認して

ください。 ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。

▶ 助手席ドアを開いてください。

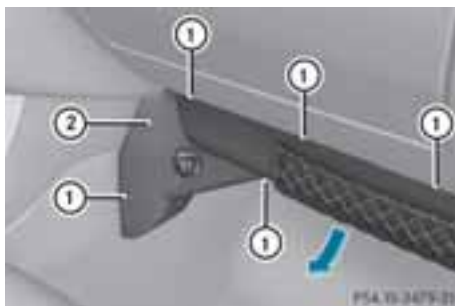
▶ **開く：** カバー ① を外側（矢印の方向）に引いて、取り外します。

▶ **閉じる：** カバー ① をダッシュボードの前面に差し込みます。

▶ 固定されるまでカバー ① を内側に閉じます。

助手席足元のヒューズボックス

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。 ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。

▶ スクリュー ①を取り外します。

▶ カバー ② を矢印の方向に持ち上げます。

③ ヒューズボックス

トランスミッショントンネルのヒューズボックス

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。 ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。

▶ センターコンソールのカップホルダーを閉じます。 (▷ 218 ページ)

▶ 助手席シートを最も前方の位置にスライドします。(▷ 94 ページ)

▶ 開く： スクリュー ①を取り外します。

▶ カバー ② を矢印の方向に引いて取り外します。
▶ **閉じる：** カバー ② を押し込みます。
▶ カバー ② をスクリュー ①で取り付けます。

バッテリー収納部のヒューズボックス

バッテリーケース内のヒューズは、通常交換の必要がありません。ヒューズの交換が必要になったときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

ラゲッジルーム内のヒューズボックス

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にはまっていることを確認してください。ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。

▶ リアドアを開きます。
▶ **開く：** カバー ① を矢印の方向に引いて、取り外します。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。 国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 28 ページ).

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

誤ったサイズのホイールやタイヤを使用すると、車輪ブレーキまたはサスペンションの部品を損傷することがあります。 事故の危険性があります。

純正部品の仕様に適合するホイールやタイヤと必ず交換してください。

ホイールを交換する場合、正しく取り付けるために以下を確認してください：

- 型式
- タイプ

タイヤを交換する場合、正しく取り付けるために以下を確認してください：

- 型式
- メーカー
- タイプ

⚠ **警告**

パンクは車両の走行、ステアリング、ブレーキ特性を著しく損なうことがあります。 事故を起こすおそれがあります。

パンクしたタイヤで走行しないでください。 ただちにパンクしたタイヤをスペアタイヤと交換するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

メルセデス・ベンツにより車両への使用が承認されていないアクセサリーを装着したり、アクセサリーが正しく使用されていないと、操作安全性を損なうおそれがあります。

承認されていないアクセサリーを購入し、ご使用になる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねになり、以下をご確認ください：

- 適合性
- 合法性
- 推奨品

車両のホイールおよびタイヤのサイズと種類についての情報は、"ホイール/タイヤの組み合わせ"の項目にあります(▷ 258 ページ)。

車両のタイヤの空気圧についての情報は、以下にあります：

- 燃料給油口フラップにあるタイヤ空気圧ラベル
- "タイヤ空気圧" の項目

ブレーキシステムやホイールの改造は許可されておらず、またスペーサープレートやブレーキダストシールドを使用しないでください。これらは車両の一般使用許可を無効にします。

ℹ タイヤとホイールについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

使用

走行時の注意

車両に重い荷物を積んでいるときは、タイヤ空気圧を点検し、必要な場合は調整してください。

走行中は、振動、騒音、および片方に引かれるなどの普段とは異なるハンドリング特性に注意してください。これは、タイヤやホイールが損傷していることを示していることがあります。タイヤ不具合

が疑われる場合は、ただちに速度を落としてください。すみやかに安全な場所に停車して、タイヤとホイールの損傷を点検してください。目に見えないタイヤの損傷も、普段とは異なるハンドリング特性の原因になるおそれがあります。損傷の兆候がない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でタイヤおよびホイールの点検を受けてください。

車両を駐車するときは、タイヤが縁石や障害物により変形していないことを確認してください。また、縁石や路面の段差などを乗り越える必要がある場合は、速度を落とし、縁石や段差に対してタイヤをできるだけ直角にして乗り越えてください。さもないと、タイヤ、特にサイドウォールが損傷するおそれがあります。

ホイールとタイヤの定期点検

⚠ 警告

タイヤが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。その結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。 事故発生の危険性があります。

タイヤに損傷がないか定期的に点検を行ない、損傷したタイヤはただちに新品と交換してください。

- タイヤとホイールの定期点検は、少なくとも 2 週間に 1 度、またオフロードや凹凸路の走行後に行ない、損傷がないか確認してください。損傷には、タイヤの切り傷、穴、ひび割れ、突起、およびホイールの著しい腐食や変形などが含まれます。損傷したホイールは、タイヤ空気圧低下の原因になるおそれがあります。
- タイヤトレッドの深さやタイヤの幅全体にわたるトレッドの状態を定期的に点検してください (▷ 251 ページ)。タイヤ表面の内側を点検するために、ステアリングをフルロックまでまわしてください。
- ほこりや水分の侵入を防ぎバルブを保護するため、すべてのホイールにバルブキャップを必ず装着してください。純正品またはメルセデス・ベンツが承認しているバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。
- 特に長距離走行の前に、スペアタイヤも含めて、すべてのタイヤの空気圧を定期的に点検してください。必要に応じて、タイヤ空気圧を調整してください (▷ 254 ページ)。

タイヤの耐用年数は、以下を含むさまざまな要因に左右されます：

- 運転スタイル
- タイヤ空気圧
- 総走行距離

タイヤのトレッド

⚠ 警告

タイヤのトレッドが不十分であると、タイヤのグリップが低下します。 このようなタイヤは水を排出することができなくなり、 濡れた路面で、特に走行状況に適していない速度で走行すると、ハイドロプレーニング現象が生じる危険性が高くなります。事故発生の危険性があります。

タイヤ空気圧が高すぎたり低すぎたりすると、トレッド面の位置によって偏摩耗が生じることがあります。タイヤの定期点検を行なう時は、タイヤの溝の深さだけでなく、タイヤの内側の摩耗状態も点検してください。

タイヤの溝の深さの最小値：

- サマータイヤ：3mm
- ウィンタータイヤ：4mm

安全保持のために、タイヤの溝の深さが法律で定められた最小値に達する前に、

該当するタイヤを新品と交換してください。

タイヤの選択、装着および交換

- 同じ種類で同じ銘柄のタイヤおよびホイールのみを装着してください。
- 適正なサイズの指定されたタイヤのみをホイールに装着してください。
- タイヤは、工場で保護コーティングされています。新しいタイヤでは、最初の 100 km は控えめな速度で走行してください。この距離の後でのみ、最高の性能に達します。
- トレッドの深さがほとんどないタイヤで走行しないでください。さもないと、濡れた路面ではタイヤのグリップが著しく低下します（ハイドロプレーニング現象）。
- 摩耗の程度にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは交換してください。これはスペアタイヤにも該当します。

寒冷時の取り扱い

これに関する情報はデジタル版取扱説明書に記載されています。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧基準値

重要な安全上の注意事項

⚠ **警告**

タイヤ空気圧が不足または過剰な場合、以下の危険があります。

- 荷重が大きく車両速度が高い場合は特に、タイヤが破裂するおそれがある。
- タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が損なわれるおそれがある。
- ステアリング操作やブレーキ操作などの車両操縦性が大幅に損なわれるおそれがある。

事故を起こすおそれがあります。

指定のタイヤ空気圧を遵守し、以下のときにはスペアタイヤを含むすべてのタイヤの空気圧を点検してください。

- 少なくとも 2 週間に 1 回
- 荷重が変化したとき
- 長距離走行を開始する前
- オフロード走行など、使用条件が変わったとき

必要であれば、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

⚠ **警告**

適切でないアクセサリーをバルブに取り付けると、バルブに過負荷がかかって誤作動し、タイヤ空気圧が不足する原因となります。設計上、タイヤ空気圧モニターシステムを後装着すると、バルブが開いたままになり、タイヤ空気圧が不足するおそれもあります。事故発生の危険性があります。

標準仕様のバルブキャップまたはメルセデス・ベンツ純正の車両専用バルブキャップのみをバルブに取り付けてください。

⚠ 警告

タイヤ空気圧が何度も低下する場合は、ホイール、バルブまたはタイヤが損傷している可能性があります。タイヤ空気圧が不十分であると、タイヤが破裂するおそれがあります。事故発生の危険性があります。

- タイヤに異物がないか点検します。
- ホイールやバルブからの空気漏れがないか点検します。

損傷を修理できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

環境保護に関する注意

少なくとも 2 週間に 1 度、タイヤ空気圧の点検を行なってください。

全体的な注意事項

車両の燃料給油口フラップ内側には、さまざまな使用状況でのタイヤ空気圧の表があります。

トレーラー使用時の運用： リアタイヤに適用される数値は、燃料給油口フラップ内側の表に記載されている最大タイヤ空気圧の数値です。

燃料給油口フラップ内側の表には、さまざまな積載状態でのタイヤ空気圧が記載されていることがあります。この表には、さまざまな乗員数および積載量のものが指定されています。実際の座席数と異なることがあります。さらなる情報は、車両の登録書類を確認してください。

タイヤサイズの指定がない場合、タイヤ空気圧情報ラベルに記載されているタイヤ空気圧は、車両用に承認されているすべてのタイヤに適用されます。

タイヤ空気圧表

タイヤ空気圧の前にタイヤサイズがある場合は、そのタイヤ空気圧についての情報は、そのタイヤサイズにのみ有効です。

タイヤサイズの一部であるリム径 ① は、タイヤのサイドウォールにあります。

タイヤ空気圧を点検するためには、適切な空気圧ゲージを使用してください。タイヤの外観を点検しても空気圧を正しく判断することはできません。

可能な場合は、タイヤが冷えているときにのみ、タイヤ空気圧を修正してください。

以下では、タイヤは冷えています：

- タイヤに直射日光が当たらない状態で、最低 3 時間車両を駐車した場合、および
- 1.6 km 以上車両が走行していない場合

周辺温度、走行速度、およびタイヤへの負荷に応じて、タイヤ温度およびタイヤ

空気圧は 10 ℃ごとに約 10 kPa (0.1 bar/1.5 psi) 変化します。温まっているタイヤの空気圧を点検するときは、このことを考慮に入れてください。そのときの使用条件に対して非常に低い場合にのみ、タイヤ空気圧を修正してください。

著しく高い、または著しく低いタイヤ空気圧で走行すると以下のようになります：

- タイヤ寿命が短くなります
- タイヤの損傷が増える原因になります
- ハンドリング特性および走行安全性へ悪影響を与えます（ハイドロプレーニング現象など）

ℹ 低負荷用のタイヤ空気圧値は、快適な乗り心地を得ることができる最低限度の値です。

ただし、高負荷用の数値を使用することもできます。これらは許容値であり、車両の走行に悪影響を与えることはありません。

タイヤ空気圧の点検

重要な安全上の注意事項

タイヤ空気圧についての注意事項に従ってください (▷ 252 ページ)。

車両のタイヤ空気圧データは以下にあります：

- 燃料給油口フラップにあるタイヤ空気圧ラベル
- "タイヤ空気圧データ"の項目

タイヤ空気圧の手動点検

適切なタイヤ空気圧を確認し、設定するためには、以下のように進めてください：

▶ 点検するタイヤのバルブキャップを外します。

▶ タイヤ空気圧ゲージをバルブにしっかり押して取り付けます。

▶ タイヤ空気圧を読み、車両の燃料給油口フラップのタイヤおよび積載情報表にある推奨値と比較してください (▷ 253 ページ)。

▶ **タイヤ空気圧が低すぎる：** タイヤ空気圧を推奨値まで上げます。

▶ **タイヤ空気圧が高すぎる：** ペンの先などを使用して、バルブのメタルピンを押し下げます。
空気がタイヤから抜けます。

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用して、タイヤ空気圧を再度点検します。

▶ バルブキャップをバルブに締めます。

▶ 他のタイヤでも、この手順を繰り返します。

車輪の交換

パンク

"万一のとき" (▷ 235 ページ) には、タイヤがパンクしたときの処置方法や注意事項が記載されています。

車輪の入れ替え

⚠ **警告**

ホイールまたはタイヤのサイズが異なる場合に、フロントとリアの車輪を入れ替えると、走行特性が著しく損なわれることがあります。車輪のブレーキまたはサスペンションの部品も損傷することがあります。 事故の危険性があります。

ホイールとタイヤが同じサイズの場合にのみ、フロントとリアの車輪を入れ替えてください。

異なるサイズのフロントとリアのホイールを入れ替えると、一般使用許可が無効になることがあります。

"タイヤの交換とスペアタイヤの取り付け" (▷ 255 ページ) の項目にある指示と安全上の注意事項に常に注意してください。

走行状況によっては、フロントおよびリアタイヤで摩耗パターンがことなります。。タイヤに明らかな摩耗パターンが形成される前に、車輪を入れ替えてください。一般的に、フロントタイヤではショルダー部が、リアタイヤではセンター部がより摩耗します。

同じサイズの車輪の車両では、タイヤの摩耗の度合いに応じて 5,000 ～ 10,000 km 毎に車輪を入れ替えることができます。回転方向が維持されていることを確認してください。

回転方向

タイヤの回転方向が指定されているタイヤは、例えばハイドロプレーニング現象のおそれがある状況などで補助的な効果を発揮します。 回転方向が指定されているタイヤは、指定された回転方向になるように装着することで性能を十分発揮できます。

タイヤのサイドウォールにある矢印は、正しい回転方向を示しています。

スペアタイヤは回転方向に逆らって装着することができます。 応急用スペアタイヤに記載されている使用制限時間と制限速度を守って正しく使用してください。

車輪の保管

使用していないタイヤは、涼しくて乾燥している、なるべく暗い場所に保管してください。 タイヤにオイルやグリース、ガソリン、軽油などが付着しないように保護してください。

車輪の取り付け

車両の準備

- 記載されているように、車両を準備します (▷ 235 ページ)。
- 車両にトレーラーが連結されている場合は、切り離してください。
- 車載工具およびジャッキを取り出します (▷ 233 ページ)。
- 車両が動き出さないように固定します。
- スペアタイヤブラケット (▷ 233 ページ)から、スペアタイヤを取り外します。

動き出さないように車両を固定する

- **水平な場所：** 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、輪止めまたは適切な物を挟みます。
- **下り坂：** 前輪と後輪の前方に輪止めまたは適切な物を挟みます。

車両を上げる

⚠ **警告**

車両の適切なジャッキポイントに正しくジャッキを設置しないと、車両をジャッキアップした時にジャッキが倒れるおそれがあります。 負傷するおそれがあります。

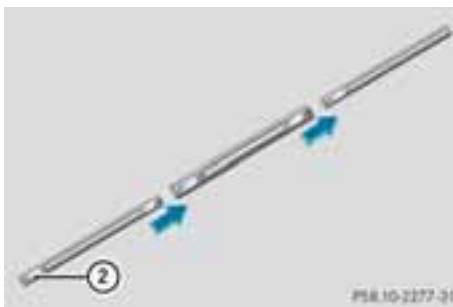
必ず車両の適切なジャッキポイントにジャッキを設置してください。ジャッキの底面は車両のジャッキポイントの真下に来るように設置してください。

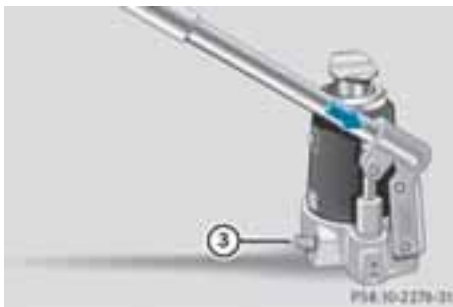
車両を上げるときは、以下の注意事項に従ってください：

- 車両を上げるためには、メルセデス・ベンツによりテストされ、承認された

車両専用のジャッキのみを使用してください。ジャッキが正しく使用されていない場合は、車両を上げている間に倒れるおそれがあります。

- ジャッキは、車輪交換の間に短時間だけ車両を上げたままにするためだけに設計されています。車両下部のメンテナンス作業を行なうためには適していません。
- 上り坂や下り坂の斜面での車輪交換は避けてください。
- 車両を上げる前に、パーキングブレーキを効かせて輪止めをして車両が動き出さないようにしてください。車両を上げている間は、絶対にパーキングブレーキを解除しないでください。
- ジャッキは、固く平坦で滑らない地面の上に置いてください。柔らかい地面の上では、大型の耐荷重マットを使用してください。滑りやすい地面の上では、ラバーマットなどの滑り止めマットを敷いてください。
- ジャッキの下敷きとして、木製のブロックや類似のものを使用しないでください。さもないと、高さが制限されることにより、ジャッキが耐荷重性能を得られない可能性があります。
- タイヤの下面と地面との間の距離が3cm を超えていないことを確認してください。
- 上げた車両の下には、絶対に手または足を入れないでください。
- 上げた車両の下には、絶対に身体を入れないでください。
- 車両を上げているときは、エンジンを始動しないでください。
- ジャッキアップしているときは、絶対にドアやテールゲートを開閉しないでください。
- 車両を上げているときは、車内に人がいないことを確認してください。

▶ ホイールレンチ ① を使用して、交換するタイヤのホイールボルトを約 1 回転緩めます。この時点では、ホイールボルトを完全に緩めないでください。

ポンプレバー②

▶ ジャッキのポンプレバーを組み立てます。これは、車載工具 (▷ 233 ページ) に含まれています。

▶ ポンプレバーのノッチ ② を使用して、空気圧調整バルブ ③ を時計回りにいっぱいまでまわします。
空気圧調整バルブ ③ が閉じます。

ℹ 空気圧調整バルブ ③ は、1～2 回転以上まわさないでください。さもないと、油圧オイルが漏れます。

▶ ジャッキ ① をフロントまたはリアアクスルのアクスルチューブ ② に合わせます。上り坂勾配でも、ジャッキ ① は常に垂直に立てなければなりません。

▶ タイヤが地面から最大で 3 cm 離れるまで、矢印の方向にジャッキを操作して車両を上げます。

車輪の取り外し

! 砂などの異物が付着しないように注意してください。ホイールボルトをねじ込む時に、ボルトやハブのネジ山が損傷するおそれがあります。

▶ ホイールボルトを緩めます。

▶ タイヤを取り外します。

新しい車輪の取り付け

⚠ 警告

ホイールボルト / ホイールナットにオイルやグリースが付着していたり、ホイールボルト / ナットのネジ山またはホイールハブ / ホイールナットのネジ山が損傷していると、ホイールボルト / ホイールナットが緩む原因になります。 その結果、走行中にホイールが脱落することがあります。 事故を起こす危険性があります。

ホイールボルト / ホイールナットには決してオイルやグリースを塗布しないでください。 ネジ山が損傷しているときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ホイールボルト / ホイールナット / ホイールスタッドまたはホイールハブのネジ山に損傷がある場合は、交換してください。 それ以上走行しないでください。

⚠ 警告

車両をジャッキアップしている時にホイールボルトまたはホイールナットを締め付けると、ジャッキが倒れることがあります。負傷の危険性があります。

車両が接地している場合にのみ、ホイールボルトまたはホイールナットを締め付けてください。

"車輪の交換"にある指示や安全上の注意事項に従ってください (▷ 254 ページ)。

▶ ホイールおよびホイールハブの接合面を清掃します。

▶ 新しいタイヤをホイールハブに取り付け、押し込みます。

▶ 指の力で締まるまで、ホイールボルトを締めます。

車両を下げる

⚠ 警告

ホイールナットやボルトが規定の締め付けトルクで締め付けられていないと、ホイールが緩むおそれがあります。 事故発生の危険性があります。

タイヤを交換した後で、直ちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で、締め付けトルクの点検を受けてください。

▶ ポンプレバー (▷ 255 ページ) を使用して、ジャッキの空気圧調整バルブを約 1 回転開きます。

▶ ジャッキを横に置きます。

▶ 図の順番（① ～ ⑤）に対角パターンで、ホイールボルトを均一に締め付けます。規定の締め付けトルクは **130 Nm** です。

▶ ジャッキピストンを押し込み、ドレンプラグを閉じます。

▶ ボルトを使用して、不具合のある車輪をスペアホイールブラケット (▷ 233 ページ) に固定します。

▶ ジャッキと車載ツールを車内に再び収納します。

▶ 新しく取り付けた車輪のタイヤ空気圧を点検し、必要な場合は調整します。

タイヤ空気圧表は、車両の燃料給油口フラップの内側にあります。

ホイールとタイヤの組み合わせ

全体的な注意事項

! 安全に走行するため、タイヤとホイール、アクセサリーは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。これらのタイヤは、ABS や ESP®などの走行安全装備の使用に合わせて特別に調整されています。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリーを使用しないでください。 車両操縦性や騒音、排出ガス、燃料消費などに悪影響を与えるおそれがあります。 また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールが車体やサスペンションに接触するおそれがあります。 これにより、タイヤや車両の損傷につながるおそれがあります。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリーを装着した場合は、損傷が生じても保証の対象外になります。

タイヤやホイール、指定された組み合わせなどに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 大径ホイール：特定のホイールサイズの断面幅が減少すると、悪路での乗り心地が低下します。 走行快適性および安定性が低下し、さらに路面の障害物を乗り越える際にホイールやタイヤへの損傷リスクが高くなります。

i タイヤ空気圧表は、車両の燃料給油口フラップの内側にあります。タイヤ空気圧についてのさらなる情報は、(▷ 252 ページ) をご覧ください。タイヤ空気圧は定期的に、タイヤが冷えているときにのみ点検してください。

i 車両装備についての注意事項 – 常に以下のようにしてください：

- 車両のそれぞれのアクスル（左/右）には、同じサイズのタイヤを装着してください。
- 車両には、同時に同じ種類のタイヤを装着してください（サマータイヤ、ウインタータイヤ、オールシーズンタイヤ、全地形タイヤ)。

i すべてのホイール/タイヤの組み合わせが、すべての国で工場出荷時に装着されているわけではありません。

タイヤ

G350 BlueTEC

サマータイヤ

タイヤ	軽合金ホイール
265/60 R18 109 H	7.5J x 18 H2 ET 63
265/60 R18 109 H[7]	7.5J x 18 H2 ET 43

ℹ ここに挙げられていないタイヤおよびタイヤサイズについての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

オールシーズンタイヤ

タイヤ	軽合金ホイール
265/60 R18 110 V M+S	7.5J x 18 H2 ET 63
265/60 R18 110 V M+S[7]	7.5J x 18 H2 ET 43

ℹ ここに挙げられていないタイヤおよびタイヤサイズについての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

G550

サマータイヤ

タイヤ	軽合金ホイール
265/60 R18 109 H	7.5J x 18 H2 ET 63
265/60 R18 109 H[7]	7.5J x 18 H2 ET 43

ℹ ここに挙げられていないタイヤおよびタイヤサイズについての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

オールシーズンタイヤ

タイヤ	軽合金ホイール
265/60 R18 110 V M+S	7.5J x 18 H2 ET 63
265/60 R18 110 H M+S[7]	7.5J x 18 H2 ET 43

ℹ ここに挙げられていないタイヤおよびタイヤサイズについての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

7 AMG スポーツパッケージ装備車両のみ。

G63 AMG

サマータイヤ

タイヤ	軽合金ホイール
275/50 R20 113W XL[8]	9.5J x 20 H2 ET 50

ℹ ここに挙げられていないタイヤおよびタイヤサイズについての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

ウインタータイヤ

タイヤ	軽合金ホイール
265/55 R19 109 H M+S	9.5J x 19 H2 ET 50

ℹ ここに挙げられていないタイヤおよびタイヤサイズについての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

G65 AMG

サマータイヤ

タイヤ	軽合金ホイール
275/50 R20 113W XL[8]	9.5J x 20 H2 ET 50

ℹ ここに挙げられていないタイヤおよびタイヤサイズについての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

ウインタータイヤ

タイヤ	軽合金ホイール
265/55 R19 109 H M+S	9.5J x 19 H2 ET 50

ℹ ここに挙げられていないタイヤおよびタイヤサイズについての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

スペアタイヤ

! スペアタイヤは、燃料給油口の裏側のタイヤ空気圧ラベルに記載された最大空気圧になるまで空気を注入してください。

ℹ スペアタイヤは、標準タイヤと同じものです。

ℹ ここに挙げられていないタイヤおよびタイヤサイズについての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

8 スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン" の項目にある注意事項に従ってください。

役に立つ情報

ℹ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。 国により、仕様が異なる場合があります。 お買い上げいただいた車両には、記載されているすべての内容が備わっていないことがあります。 このことは、安全に関する装備や機能についても当てはまります。

ℹ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 28 ページ).

ビークルプレート

車台番号（VIN）および塗装コードが記載されたビークルプレート

デジタル版取扱説明書には、以下の項目についての情報があります：

- ビークルプレート
- 車台番号
- エンジン番号

例：ビークルプレート（右ハンドル車両）

▶ 運転席ドアを開きます。
ビークルプレート ① が確認できます。

例：ビークルプレート
② 車台番号

ℹ 車両のビークルプレートに示されたデータは、データの一例です。このデータは車両ごとに異なりますので、ここに示されたデータとは異なることがあります。お客様の車両に該当するデータは、車両のビークルプレートにあります。

車台番号（VIN）

ビークルプレートにある情報に加えて、進行方向に見て右側のシャーシにも車台番号（VIN）が刻印されています。

エンジン番号

エンジン番号はクランクケースに刻印されています。さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

サービスプロダクトと容量

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

サービスプロダクトは健康に有害で危険です。 けがの危険性があります。

サービスプロダクトの使用、保管および廃棄については、それぞれ元の容器のラベルの指示を遵守してください。 サービスプロダクトは必ず元の容器に密閉して

保管してください。 サービスプロダクトは必ず子供の手の届かないところに保管してください。

環境

燃料および油脂は、環境汚染を配慮して、廃棄処分してください。

サービスプロダクトには以下のものが含まれます：

- 燃料
- 潤滑剤 （エンジンオイル、トランスミッションオイルなど）
- 冷却水
- ブレーキ液
- ウインドウウォッシャー液
- エアコンディショナーの冷媒

構成部品とサービスプロダクトは適合していなければなりません。メルセデス・ベンツにより推奨されている製品のみを使用してください。推奨されていない製品の使用に起因する損傷は、メルセデス・ベンツの保証またはグッドウィルの対象外となります。これらは、メルセデス・ベンツ取扱説明書の該当する項目に記載されています。

テストおよび承認された製品に関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

メルセデス・ベンツにより承認されたサービスプロダクトは、容器の以下のマークにより識別できます：

- MB-Freigabe （ MB-Freigabe 229.51 など）
- MB Approval （MB Approval 229.51 など）

他のマークや推奨は、MB シート番号（MB 229.5 など） に準拠した品質レベルまたは仕様を示しています。これらはメルセデス・ベンツによって承認されているとは限りません。

その他の識別コード（例）：

- 0 W-30
- 5 W-30
- 5 W-40

さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

燃料

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

燃料は可燃性の高いものです。 燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

⚠ 警告

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料は決して飲まないこと、また目や衣服に付着させないでください。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。無理に吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

燃料タンク容量

車両の装備によって、燃料タンクの全容量は異なることがあります。

モデル	全容量
全モデル	約 96.0 ℓ

モデル	うち予備燃料
全モデル	約 14.0 ℓ

ガソリン

燃料のグレード

! ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。誤って異なる燃料を給油した場合は、エンジンスイッチをオンにしないでください。さもないと、燃料が燃料システムに入るおそれがあります。たとえ少量の誤った燃料でも、燃料システムやエンジンの損傷につながるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料系統から完全に抜き取ってください。

! 96 RON 以上の無鉛ガソリンのみを使用して給油してください。

さもないと、エンジンの出力が低下したり、エンジンが損傷するおそれがあります。

! 必ず指定の燃料を使用してください。その他の燃料で車両を操作すると、エンジンの不具合の原因になります。

! 以下の燃料を使用しないでください。

- E 85 (エタノール配合率 85%のガソリン)
- E 100 (エタノール 100%)
- M 15 (メタノール 15%のガソリン)
- M 30 (メタノール 30%のガソリン)
- M 85 (メタノール 85%のガソリン)
- M 100 (メタノール 100%)
- 金属含有添加物を配合したガソリン
- ディーゼル

このような燃料を車両に推奨されている燃料とは決して混合しないでください。添加剤を使用しないでください。さもないと、エンジンが損傷することがあります。ただし、スラッジの生成を抑制・除去する効果のある添加剤を除きます。ガソリンにはメルセデス・ベンツにより推奨された添加剤のみを混合してください。"添加剤"をご覧ください。さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

通常、燃料グレードに関する情報は給油ポンプに表示されています。給油ポンプにラベルがない場合は、ガソリンスタンドのスタッフにおたずねください。

i E10 燃料には、最大 10%のバイオエタノールが含まれています。お客様の車両は、E10 燃料の使用に適しています。お客様の車両には、E10 燃料を給油することができます。

推奨燃料が使用できない場合は、一時的な措置としてオクタン価が 91 RON の無鉛レギュラーガソリンを使用することもできます。このような燃料を使用した場合は、エンジン性能が低下したり、燃料消費が増加したりすることがあります。フルスロットルでの走行および急加速は避けてください。91RON 以下の燃料を給油しないでください 。

給油に関する情報 (▷ 120 ページ)。

AMG 車両

! 96 RON 以上の無鉛プレミアムガソリンのみを使用して給油してください。

さもないと、エンジンの出力が低下したり、エンジンが損傷するおそれがあります。

! 緊急時で指定燃料が入手できないときに限り、91 RON 無鉛レギュラーガソリンも使用できます。

その結果燃料消費量が著しく増大し、エンジン出力は著しく低下します。 アクセルをいっぱいに踏み込んで運転するのは避けてください。

91 RON あるいはそれ以下のグレードのガソリン以外の燃料しか入手できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でその燃料で走行するために必要な車両の調整を受けてください。

添加剤

! 燃料添加剤を後で加えてエンジンを作動させると、エンジン故障につながるおそれがあります。燃料に燃料添加剤を混ぜないでください。これには、生成堆積物除去および防止のための添加剤は含まれません。ガソリンにはメルセデス・ベンツにより承認された添加物のみを混合してください。製品の容器に記載の使用上の注意をお守りください。推奨添加剤に関するさらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

添加剤を含有している燃料ブランドの使用を、メルセデス・ベンツは推奨します。

一部の国で入手できる燃料の品質は、十分でないことがあります。結果として残留物が燃料噴射システムに堆積するおそれがあります。その場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談のうえ、メルセデス・ベンツにより推奨された洗浄添加剤をガソリンに混合してください。容器にある注意事項および規定の配合率に常に従ってください。

燃料消費の情報

環境に関する注意

CO_2 （二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の主な原因となります。車両の CO_2 排出量は、燃料消費と直接関係があり、以下の条件によって変化します。

- エンジンの燃焼効率
- 走行スタイル
- 環境の影響や道路状況、交通の流れのような、技術的ではない他の要因

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検整備を行なうことにより、CO_2 排出量を最小限に抑えることができます。

以下のような状況では、燃料消費量が増加します：

- 非常に低い外気温で
- 市街地で
- 短距離の走行で
- 山間路で
- トレーラーをけん引しているとき

AdBlue®

重要な安全上の注意事項

AdBlue®を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意事項に注意してください (▷ 262 ページ)。

AdBlue®はディーゼルエンジンの排気ガス後処理システム用の水溶性の液体です。AdBlue®は：

- 無毒です
- 無色および無臭です
- 不燃性です

AdBlue®タンクを開いた場合は、少量のアンモニアの気体が放出されることがあります。

アンモニアの気体には刺激臭があり、特に皮膚、粘膜そして目に刺激を与えます。目、鼻および喉に燃えるような感覚を感じることがあります。咳き込んだり、涙目になる可能性があります。

発生したアンモニアの気体を吸い込まないようにしてください。換気の良い場所

でのみ、AdBlue®のタンクへの補給を行なってください。

外気温度が高いとき

AdBlue®タンクのキャップを開いた場合は、少量のアンモニアの気体が放たれることがあります。

アンモニアの気体は、刺激臭で、特に以下を刺激します：

- 肌
- 粘膜
- 目

その結果、咳き込んだり涙目になるとともに、目や鼻、のどに炎症が起きることがあります。

発生したアンモニアの気体を吸い込まないようにしてください。換気の良い場所でのみ、AdBlue®のタンクへの補給を行なってください。

外気温度が低いとき

AdBlue®は約 -11 ℃ の温度で凍結します。車両には AdBlue®予熱ヒーターが標準装備されています。そのため、-11 ℃以下の温度でも冬季の作動が保証されています。

添加剤

! ISO 22241 に準拠した AdBlue®のみを使用してください。添加剤を AdBlue®に加えたり、AdBlue®を水で薄めたりしないでください。 BlueTEC 排気ガス処理装置が故障する場合があります。

純度

! AdBlue® 内に不純物 (他のサービスプロダクト、クリーナー、ほこりなど) が混入すると、以下のトラブルが起こるおそれがあります。

- 排出ガス値の増加
- 触媒コンバーターの損傷
- エンジンの損傷
- BlueTEC 排気ガス処理装置の故障

BlueTEC 排気ガス後処理システムの故障を防ぐためには、AdBlue®の純度が特に重要になります。

補修作業などで AdBlue®を AdBlue®タンクから汲み出したときは、汲み出した AdBlue®をタンクに戻さないでください。液体の純度が保証できなくなります。

容量

車両の装備に応じて、AdBlue®タンクの全容量は異なることがあります。

モデル	全容量
G 350 BlueTEC	15 ℓ

エンジンオイル

全体的な注意事項

エンジンオイルを取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意事項に従ってください (▷ 262 ページ)。

エンジンオイルの品質は、エンジンの性能や使用寿命に大きな影響を与えます。広範囲にわたるテストの末、メルセデス・ベンツでは最新の技術基準に適合するエンジンオイルのみを承認しています。

そのため、メルセデス・ベンツエンジンには、メルセデス・ベンツが承認したエンジンオイルのみを使用してください。

テストされ、承認されたエンジンオイルについてのさらなる情報は、メルセデ

ス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。オイル交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことを、メルセデス･ベンツは推奨します。

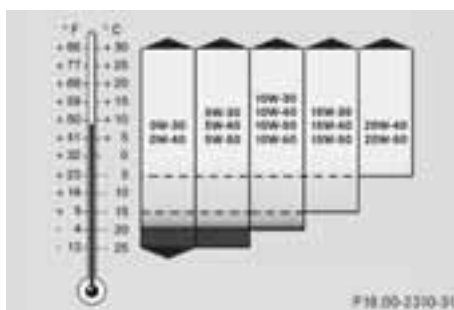
容量

以下の数値は、オイルフィルターを含むオイル交換時のものです。

車両モデル	オイルフィルターを含む容量
G550	9.0 ℓ
G350 BlueTEC	12.5 ℓ
G63 AMG	8.5 ℓ
G65 AMG	10.5 ℓ

添加剤

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジンオイルの粘度

粘度は、液体の流動特性を示します。エンジンオイルは粘度が高いほどゆっくりと流れ、粘度が低いほど速く流れます。

エンジンオイルの選択は、対応する外気温度を基準にして、SAE グレード（粘度）に応じたものにしてください。表では、使用すべき SAE グレードを示しています。低温の環境では、劣化や煤、燃料添加剤などにより使用時のエンジンオイルの特性が著しく損なわれます。そのため、適切な SAE グレードの承認されたエンジンオイルを使用して、定期的にオイル交換を行なうことを強く推奨します。

ブレーキ液

⚠ **警告**

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。ブレーキ液の沸点を下げます。ブレーキ液の沸点が低すぎる場合、ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生します。 ブレーキ液が劣化しベーパーロックが起こると、ブレーキの性能が損なわれます。事故の危険性があります。

ブレーキ液は、定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

ブレーキ液を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意に従ってください (▷ 262 ページ)。

ブレーキ液の交換時期は、整備手帳で確認してください。

MB Approval 331.0 に準拠しメルセデス・ベンツにより承認されたブレーキ液のみを使用してください。

承認されたブレーキ液についての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

ℹ ブレーキ液はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に交換し、点検内容は整備手帳をご確認ください。

冷却水

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

不凍液がエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。 火災およびけがの危険性があります。

不凍液を充填する前にエンジンを冷やしてください。 不凍液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを始動する前に、不凍液で汚れた構成部品を清掃してください。

! 冷却水は、必ず弊社指定の不凍液を混合したものを補給してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

冷却水についての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

! たとえ高温の地域であっても、必ず適切な冷却水を使用してください。

不適切な冷却水を使用すると、エンジン冷却システムの腐食やオーバーヒートを防ぐことができなくなります。

i 冷却水はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に交換し、交換を整備手帳で確認してください。

冷却水を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意事項に従ってください (▷ 262 ページ)。

冷却水は、水と不凍液/防錆剤の混合液です。以下の役割があります：

- 防錆保護
- 凍結防止
- 沸点上昇

不凍/防錆剤が正しい濃度にある場合は、冷却水の沸点は約 130 ℃ になります。

エンジン冷却システム内の不凍液/防錆剤の濃度：

- 50 %以上にしてください。これにより、約 -37 ℃ までエンジン冷却システムを凍結から保護します。
- 55 %（ -45 ℃ までの凍結防止保護）を超えないようにしてください。さもないと、熱が効果的に発散されません。

冷却水が不足している場合は、同量の水道水と不凍液/防錆剤を補充してください。

i 車両の納車時には、適切な凍結防止および防錆保護を行なうことができる濃度の冷却水が充填されています。

i 冷却水は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での定期整備ごとに点検が行なわれます。

フロントウインドウ/ヘッドライトウォッシャー

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ウインドウウォッシャー液が熱いエンジン部品または排気システムに触れた場合、発火するおそれがあります。 火災およびけがの危険性があります。

ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。

! 夏季用や冬季用など、ヘッドライトの樹脂製レンズに適したウォッシャー液のみを使用してください。不適切なウォッシャー液を使用すると、ヘッドライトの樹脂製レンズを損傷するおそれがあります。

! 蒸留水や脱イオン水をウォッシャー液リザーブタンクに入れないでください。レベルセンサーを損傷するおそれがあります。

❗ 夏季用および冬季用の純正ウォッシャー液を混合して使用します。純正品以外のウォッシャー液を使用すると、噴射ノズルが詰まるおそれがあります。

気温が 0° C 以上のとき：

▶ 水と夏用ウォッシャー液の混合液をウォッシャー液リザーブタンクに補充します。
▶ 水の量 100 に対して夏用ウォッシャー液の量 1 を混合します。

気温が 0 † 以下のとき：

▶ 水と冬用ウォッシャー液の混合液をウォッシャー液リザーブタンクに補充します。
正しい混合値については、不凍液リザーブタンクの情報をご覧ください。

ℹ 1 年を通して、夏用または冬用ウォッシャー濃縮液をウォッシャー液に追加してください。

車両データ

全体的な注意事項

記載の車両データについては、以下の点に注意してください：

- 記載の車高は、以下に応じて異なります：
  - タイヤ
  - 積載量
  - サスペンションの状態
  - オプション装備
- オプション装備は最大積載量を減少させます

寸法および重量

	全モデル（AMG 車両を除く）	AMG 車両
①上端までの距離	1905 mm - 2005 mm	1892 mm - 1992 mm
②下端までの距離	680 mm - 780 mm	667 mm - 767mm
③可動範囲	931 mm	931 mm

ルーフの最大積載量

全モデル	
ルーフの最大積載量	200 kg

バッテリー

全モデル	
バッテリー電圧	12 V
バッテリー容量	95 Ah

オフロード走行の車両データ

冠水路の走行

! 水深は、表に明記された値を超えてはなりません。渡れる深さは流水よりも少ないことに注意してください。

表は、車両に積載されていて走行する準備ができているときの河川などを渡れる深さ ① を示しています。

積載され、走行準備ができている状態とは、タンクが満たされている、すべての液類が補給されている、そして運転者が車中にいるという状態です。

冠水路の走行	60 cm

オフロードで河川を渡るときにさらなる情報は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

アプローチ/デパーチャーアングル

車両に積載されていて走行する準備ができているときのフロントのアプローチ/デパーチャーアングル ① およびリアのアプローチ/デパーチャーアングル ② が表に示されています。この情報は、単なる目安にすぎません。それぞれのアプローチおよびデパーチャーアングルは、車両のタイヤおよびオプション装備によって異なります。

スチールスプリング装備車両では、積載されていて走行する準備ができているというのは、タンクが満たされ、すべての液類が補給されていて、運転者が車両にいることを意味しています。

	①	②
G 550	36°	27°
G 63 AMG	27°	27°
G 65 AMG	27°	27°
G 350 BlueTEC	36°	27°

アプローチ/デパーチャーアングルに関するさらなる情報は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

最大登坂能力

車両の最大登坂能力は、オフロードの状態および路面状況によって異なることに注意してください。

良好な路面で、LOW RANGE ギアに入っているときは、最大登板能力は100%です。

急な不整地を走行するときは、注意してアクセルペダルを踏み、車輪が空転していないことを確認してください。

ℹ 急な上り坂で発進するときにフロントアクスルにかかる荷重が減少する場合

は、前輪は空転する傾向があります。4ETS はこれを認識し、それに応じて車輪にブレーキを効かせます。後輪トルクが増加し、発進しやすくなります。

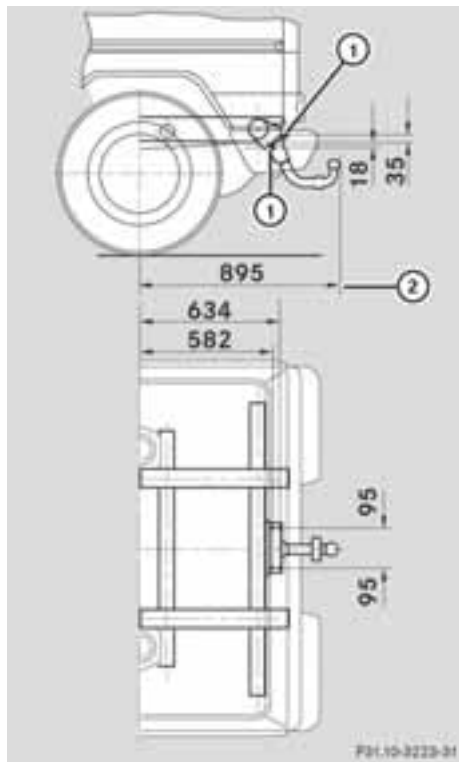
最大登坂能力に関するさらなる情報は、デジタル版取扱説明書をご覧ください。

トレーラーけん引ヒッチ

取り付け寸法

トレーラーけん引ヒッチはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でのみ装着してください。

! トレーラーけん引ヒッチを装着する場合は、車両の種類によってエンジン冷却システムへの変更が必要となることがあります。

トレーラーけん引ヒッチを装着する場合は、シャーシフレームの固定ポイントを遵守してください。

① 固定ポイント

② オーバーハング寸法

工場で装着されたトレーラーけん引ヒッチでは、保護カバーを含むオーバーハング寸法は 895 mm です。

トレーラー荷重

全モデル	
許容トレーラー荷重、ブレーキなし	750 kg
許容トレーラー荷重、ブレーキあり（停止状態からの最小登板能力が 12%のとき）	3500 kg
けん引バーの最大ノーズウェイト （けん引バーのノーズウェイトは、トレーラー荷重には含まれていません）	140 kg
トレーラーをけん引するときの許容後軸荷重	1900 kg
トレーラーをけん引するときの車両の最大許容重量	6700 kg

発行物の詳細

インターネット

メルセデス・ベンツ車や Daimler AG についての詳細情報については、以下のウェブサイトに記載されています：

http://www.mercedes-benz.co.jp

編集オフィス

車両メーカー

Daimler AG
Mercedesstrasse 137
70327 Stuttgart
ドイツ

編集終了 07.02.2014